

豊中市地域福祉計画に係る

市民意識調査

【令和4年度（2022年度）実施】

報 告 書

令和5年（2023年）3月

豊 中 市

目 次

調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査方法と回収状況.....	1
3. 報告書の見方.....	1
4. 調査結果のポイント.....	2
調査の結果	6
1. あなたとご家族について.....	6
2. お住いの地域との関わりについて.....	15
3. 人とのつながりについて.....	39
4. 生活する上での課題や福祉サービスについて.....	42
5. 地域福祉を進めるための取り組みについて.....	62
参考資料 アンケート調査票	80

調査の概要

1. 調査の目的

市民からみた地域の状況、市民の地域での活動状況、地域や福祉などに関する意識、意見などを把握し、次期地域福祉計画の策定の基礎資料とするため、以下の市民アンケート調査を実施しました。

2. 調査方法と回収状況

調査対象	豊中市個人情報保護条例に基づき、住民基本台帳から無作為抽出した 18 歳以上の市内在住の市民 3,000 人
調査方法	郵送による配布・回収（インターネットによる回答を併用）
調査期間	令和 4 年（2022 年）9 月 22 日～10 月 12 日
有効回収数	1,235 件（内 WEB での回答：195 件） ※このほか、調査期間外に 2 通を回収
有効回収率	41.16%

3. 報告書の見方

- 図表内に付加されている「n」（number of case）は質問に対する回答者数です。
- 結果数値は、小数第 2 位を四捨五入しています。そのため、単数回答であっても、合計値が 100% にならない場合があります。
- 複数回答の場合、選択肢毎の回答者数に対する割合を表示しているため、合計値が 100% を超える場合があります。
- クロス集計の結果については、他のクロス項目と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差※）が確認できた結果を中心に記載をしています。

※ 統計的に明らかな差異（統計的有意差）については、 χ^2 乗検定により主に有意水準 1%（ $p < 0.01$ ）で確認しました。

なお、 χ^2 乗検定は、回答者数から不明・無回答数を除いたデータ（実回答者数）で検定を行っているため、該当するクロス項目の「不明・無回答」の割合が大きいケースなどでは、検定結果として文章で記載している内容とクロス集計図表内のデータ（割合）とが対応しないことがあります。

また、ある選択肢について、該当するクロス項目の回答者数が、他のクロス項目と比べて明らかに少ない場合、 χ^2 乗検定による統計的有意差を確認できていない場合があります。

4. 調査結果のポイント

回答者の属性について

- 世帯構成では「単身世帯」が24.9%、「夫婦のみ世帯」が27.9%、「その他世帯」が46.8%となっており、65歳以上では単身世帯が34.4%と多くなっています。
- 何らかの支援(身体的、精神的、経済的)や世話を受けている人は11.3%ですが、65歳以上(14.5%)で多くなっています。また、世帯構成別では単身世帯、居住地域別では南部で多くなっています。
- 住居形態では「集合住宅」が57.8%で、「一戸建て」(40.8%)を上回っています。特に、北東部では「集合住宅」が84.0%と他地域を大きく上回っています。

住んでいる地域について

- 『住民による交流が活発だ』と思う人は21.9%で、前回調査(29.8%)から10ポイント程度減少し、住民間の交流が活発でなくなっていることがうかがえます。
- 地域について『身近な助けあいやボランティア活動が活発』『手助けや見守りを必要としている人への地域の人々の関心が強い』『地域で抱える課題について住民どうしで話しあい、みんなで考えるような機会・場がある』と思っている人は、依然としていずれも10%台半ばから20%程度にとどまっており、前回調査から増加していません。

近所づきあい・地域活動について

- ふだんから近所とつきあいがある人(「気軽に相談できる人がいる」+「立ち話をする程度」+「あいさつを交わす程度」)は83.4%、親密な近所づきあいがある人(「気軽に相談できる人がいる」+「立ち話をする程度」)は40.9%で、ともに前回調査と同値となっており変化はありません。
また、年齢別でも前回調査から近所づきあいの状況に大きな変化はなく、依然として年齢が低くなるほど近所づきあいが希薄化する傾向にあります。
- 地域の活動に参加している人は29.0%で、前回調査(34.1%)から5ポイント程度減少しています。また、依然として年齢が高くなるほど地域の活動に参加している人が増加する傾向にあります。
- 参加した地域活動の内容については、「地域のお祭り、ふれあい行事」と「自治会などのその他の地域活動」が4～5割を占めて上位を占めます。また、子どもに関する活動は若年層、自治会や防災・防犯、高齢者福祉に関する活動は65歳以上で参加が多くなっています。
- 地域の活動に参加して良かったことについては、65歳以上では「新たな仲間ができた」「自分の生きがいや健康管理に役立った」という意見が若年層と比べて多くなっています。
- 参加して負担に感じたことについては、「時間がとられる」が年齢及び参加形態に関係なく非常に多くなっています。一方で、「特にない」は全体で38.4%を占め、年齢別でも30%から40%程度を占めています。
- 地域の活動に参加しない理由については、「参加したいと思う活動の情報が得られない」や「自由な時間がない」「興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない」が上位を占めます。
特に、地域活動に関心があるが参加できていない人については、関心がない人と比べて「参加したいと思う活動の情報が得られない」や「興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない」とともに「一緒に活動する仲間がいない」「家の近くに活動の場所がない」といった理由が多くなっています。

- 地域に愛着を感じている人（「たいへん愛着を感じている」＋「まあまあ愛着を感じている」）は81.9%で、前回調査（82.3%）と大きな差異はなく、年齢が高くなるほど、また、居住年数が多くなるほど愛着を感じる人が多くなっています。

居場所（自宅・学校・職場以外に安心でき、人とつながりを実感できる場・活動）について

- 居場所について「ある」が38.4%で最も多く、「今はないが、今後ほしい」（33.5%）、「今はなく、今後もない」（19.8%）がつづきます。特に、65歳以上では「ある」、40歳～64歳では「今はないが、今後ほしい」が他年齢より多くなっています。

また、孤独感が常にある人では「今はないが、今後ほしい」とともに「今はなく、今後もない」が他と比べて多くなっています。

- 居場所がある人について、その具体的な内容を見ると、「趣味などのサークル活動」が最も多く、「喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店」「公共施設（図書館、公民館など）」がつづきます。また、今は居場所がなく、今後ほしい人については、「趣味などのサークル活動」や「喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店」「公共施設（図書館、公民館など）」を居場所としたい人が多く、「身近なサロン・集いの場」や「ボランティア・社会貢献活動」を居場所としたい人も目立ちます。

人とのつながり、孤独感について

- 孤独感について「10～12点（常にある）」は6.9%、「7～9点（時々ある）」は36.8%、「4～6点（ほとんどない）」は41.4%、「3点（決してない）」は11.1%となっており、孤独感がある人は43.7%となっています。

また、性年齢別でみると、男性18歳～39歳と男性40歳～64歳では、孤独感がある人が他より多くなっています。さらに、世帯構成別でみると単身世帯、何らかの支援等を受けている人では孤独感が「常にある」人が多くなっています。

- 居場所の状況別でみると、居場所が「ある」人は孤独感が低く、「今はないが、今後ほしい」人は孤独感が高い傾向にあります。また、何らかの支援等を受けている人は、受けていない人より孤独感が高い傾向にあります。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて重要と意識するようになったこと

- コロナ禍の影響でより重要視するようになったことでは、「心身の健康管理」が76.9%で最も多く、「家族のつながり」（50.0%）、「知人・友人とのつながり」（41.3%）がつづいています。

また、男女とも64歳以下では「テレワークなどの就労環境・働き方、オンラインを活用した学習環境」が65歳以上より多く、男性40歳以上では「特になし」が他より多くなっています。

生活する上での課題、相談状況について

- 日頃の生活で感じる悩み・不安については、「高齢になってからのひとり暮らし」や「地震や火事など災害のこと」「からだの健康、健康診査のこと」「家族の介護・世話」などが上位を占めています。

また、男女とも18歳～39歳と40歳～64歳では「子どもの教育や将来のこと」「子育てのこと」、男性18歳～39歳と40歳～64歳では「仕事がないこと、失業の不安など」が他の性年齢と比べて多くなっています。さらに、何らかの支援等を受けている人では受けていない人と比べて、支援等を受けている同居家族がいる人ではない人と比べて、「こころの健康に関すること」や「仕事がないこと、失業の不安など」などが多くなっています。

加えて、孤独感がある人では孤独感がない人と比べて、「高齢になってからのひとり暮らし」や「からだの健康、健康診査のこと」「福祉や介護サービスの費用負担」「こころの健康に関すること」「仕

事がないこと、失業の不安など」といった老後、心身の健康、経済的なことに関する悩み・不安が多いことがうかがえます。

- 日頃の生活で感じる悩み・不安がある人のうち複数（2個以上）の悩み・不安がある人は80.5%で、1人当たりの平均は3.7個となっています。また、孤独感がある人や、何らかの支援等を受けている人、支援等を受ける同居家族がいる人では、日頃の生活で感じる悩み・不安が重複する傾向にあります。
- 日頃の生活で自身での解決などが難しい悩みや不安を感じた場合、「相談する・助けを求める（相談した・助けを求めた）」人は70.9%、「相談しない・助けを求めない（相談しなかった・助けを求めなかった）」人が24.5%となっています。

特に、男性18歳～39歳と男性40歳～64歳では「相談しない・助けを求めない（相談しなかった・助けを求めなかった）」が30%台後半を占め、他より多くなっています。また、孤独感が常にある人では「相談しない・助けを求めない（相談しなかった・助けを求めなかった）」が54.1%と過半数を占めて、孤独感が低い人と比べて多くなっています。

- 相談しない・助けを求めない（相談しなかった・助けを求めなかった）理由としては、「ぎりぎりまで自分や家族で対応したい」が最も多く、「どこ（誰）に相談したり、助けを求めたらよいかわからない」「気軽に相談・助けを求める相手がいらない」がつづきます。特に、女性65歳以上や支援等を受けている同居家族がいる人では「ぎりぎりまで自分や家族で対応したい」が他より多くなっています。

また、男性40歳～64歳では「家の中のことを他人に知られたくない」と「相談・助けを求めることが恥ずかしい」が他の性年齢より多くなっています。

権利擁護に関する仕組みについて

- 成年後見制度について知っている人（「相談窓口などを利用したことがある」＋「内容を知っている」＋「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」）は63.0%、法定後見制度は43.1%、任意後見制度は33.3%、日常生活自立支援事業は32.2%で、前回調査と大きな差異はありません。また、市民後見人制度について知っている人は23.2%となっています。

地域福祉を進める取り組みについて

- 市社会福祉協議会・校区福祉委員会の活動について何らかの内容を知っている人は49.8%で、「共同募金運動」や「声かけ・見守り活動」「広報誌の発行」「子育てサロン・子育てサークル」などが上位に入っています。
- 民生委員・児童委員の役割を知っている人は31.5%となっており、前回調査（34.1%）と大きな差異はありません。また、年齢別で見ると、65歳以上で民生委員・児童委員の役割を知っている人が、18歳～39歳と40歳～64歳より多くなっています。
- 防災・福祉ささえあいづくり推進事業の内容を知っている人は3.4%、災害時個別避難計画推進事業は2.5%となっています。また、災害時の安否確認や自力で避難できない人の支援活動への参加意向がある人は33.6%となっており、すべての年齢で30～40%を占めています。
- 再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みを知っている人は22.9%となっており、65歳以上で取り組みを知っている人が、18歳～39歳と40歳～64歳より多くなっています。
- 住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができている人は83.2%となっており、年齢が高くなるとともに多くなっています。なお、何らかの支援等を受けている人や孤独感がある人、近所づきあいが希薄な人、地域活動に参加していない人、地域への愛着がない人では、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができている人が少ない傾向にあります。

また、住み慣れた地域で自分らしく暮らすために特に大切にしていることについては、「心身の健康」が79.2%で最も多く、「家族関係」「所得・収入（経済的状況）」などが上位を占めます。なお、孤独感がある人はない人と比べて、「所得・収入（経済的状況）」と「就業状況（仕事の有無・安定）」が多くなっています。

- 福祉の活動をする人を増やすために地域で取り組んだらよいことについては、「チラシや機関紙、ポスターなどで、広く参加を呼びかける」が38.2%で最も多く、「有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる」や「活動の参加につながる講座やイベントなどを開催する」が30%を超えて上位を占めています。また、18歳～39歳と40歳～64歳では「有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる」が40%を超え、65歳以上（24.4%）を大きく上回っています。
- 住民がお互いに助けあう仕組みをつくるために必要な行政の役割については、「活動をPRするための広報活動」が40.6%で最も多く、僅差で「気軽に集える場の整備・支援」がつづき、「福祉活動への参加等に関する相談支援・調整、活動に関する情報提供」と「学校教育、生涯学習などによる助けあい意識の醸成」も20%程度でつづいています。

また、現在も活動に参加しており、今後も参加したい人では「助け合い意識の醸成」「地域リーダーの育成」が多くなっています。さらに、住民が助け合うための活動に参加意向がある人では参加意向がない人と比べて「気軽に集える場の整備・支援」が多くなっています。
- 身近な地域で住民が助けあうための活動に参加意向がある人（「現在も活動に参加しており、今後も参加したい」＋「現在は活動に参加していないが、今後は参加したい」）は30.5%で、前回調査（31.6%）と大きな差異はありません。
- 地域で暮らす人々が安心して暮らせるように、自身ができそうなこと、やってみたいことがある人（「特にできることはない」と不明・無回答を除いた割合）は72.9%で、前回調査（74.2%）と大きな差異はありません。また、具体的な内容としては、「見守り活動や安否確認の声かけ」や「話し相手や相談相手」「福祉への関心を持つ」などが上位を占めています。

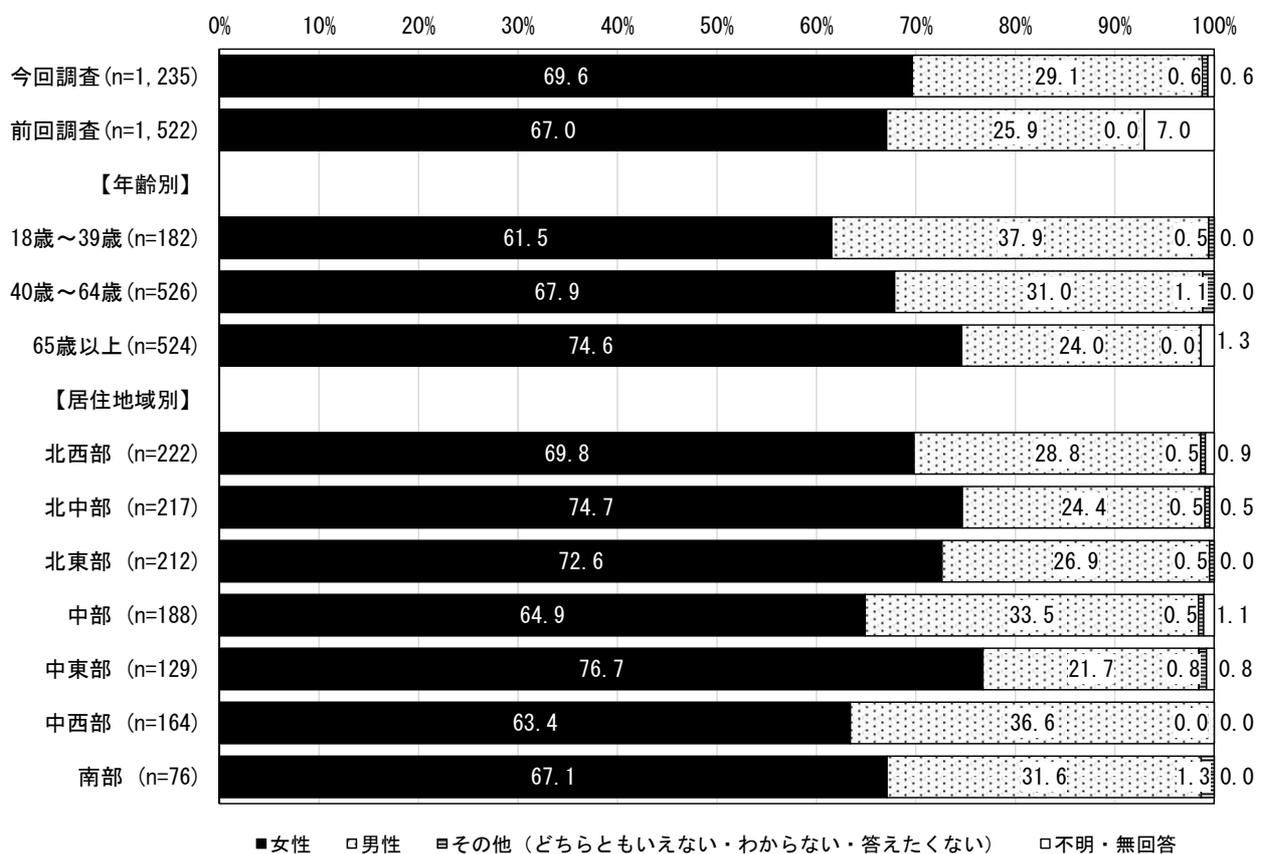
調査の結果

1. あなたとご家族について

問1-1 あなたについてお答えください。(1)から(9)のそれぞれについてあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

(1) 性別

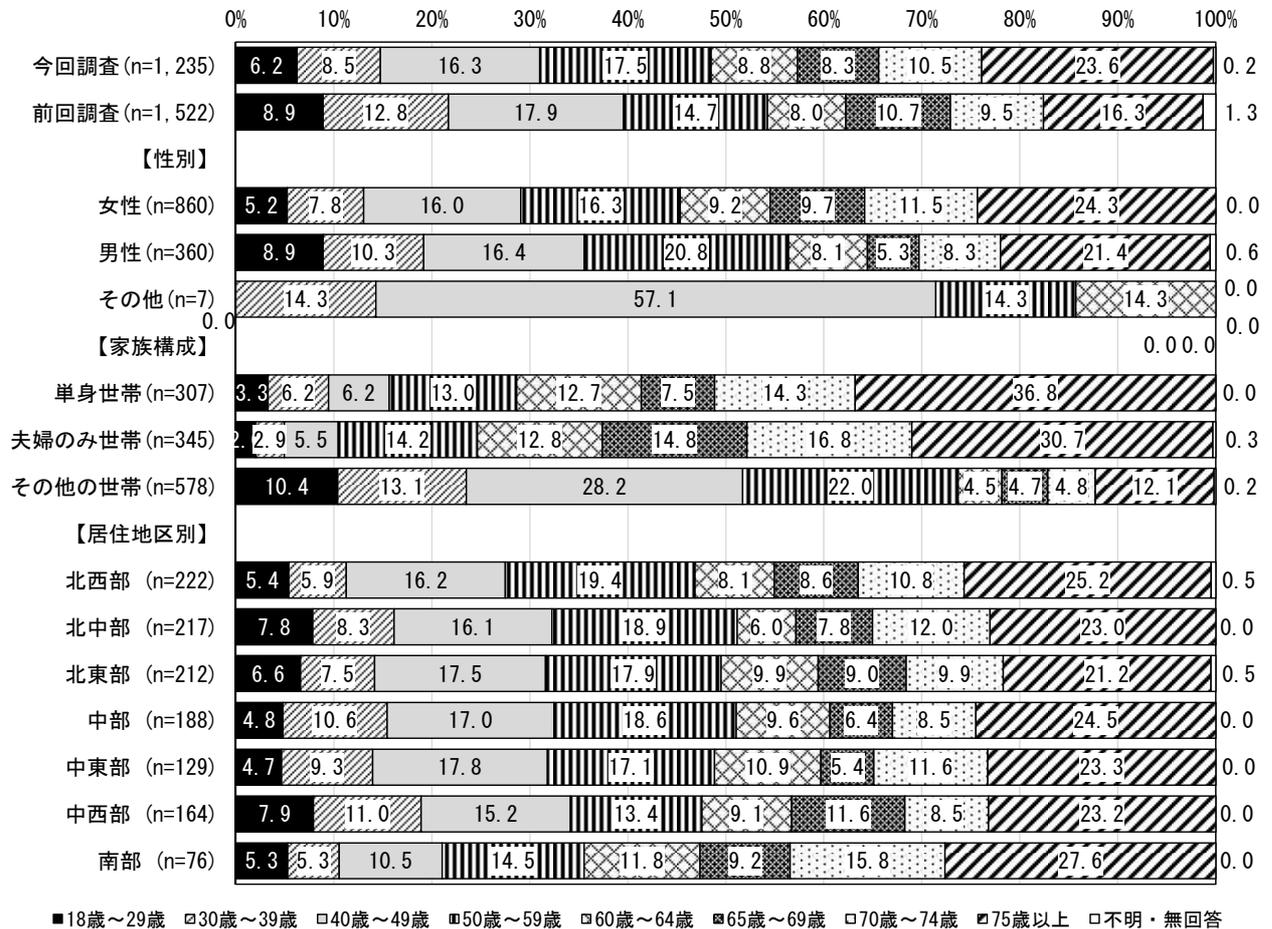
- 性別については、「女性」が69.6%、「男性」が29.1%、「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」が0.6%で、前回調査と大きな差異はありません。
- 年齢別でみると、18歳～39歳は「男性」、65歳以上では「女性」が他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

(2) 年齢

- 年齢については、「75歳以上」が23.6%で最も多く、「50歳～59歳」(17.5%)、「40歳～49歳」(16.3%)がつづいています。また、前回調査と比較すると、「75歳以上」が増加し、「18歳～29歳」と「30～39歳」が減少しています。

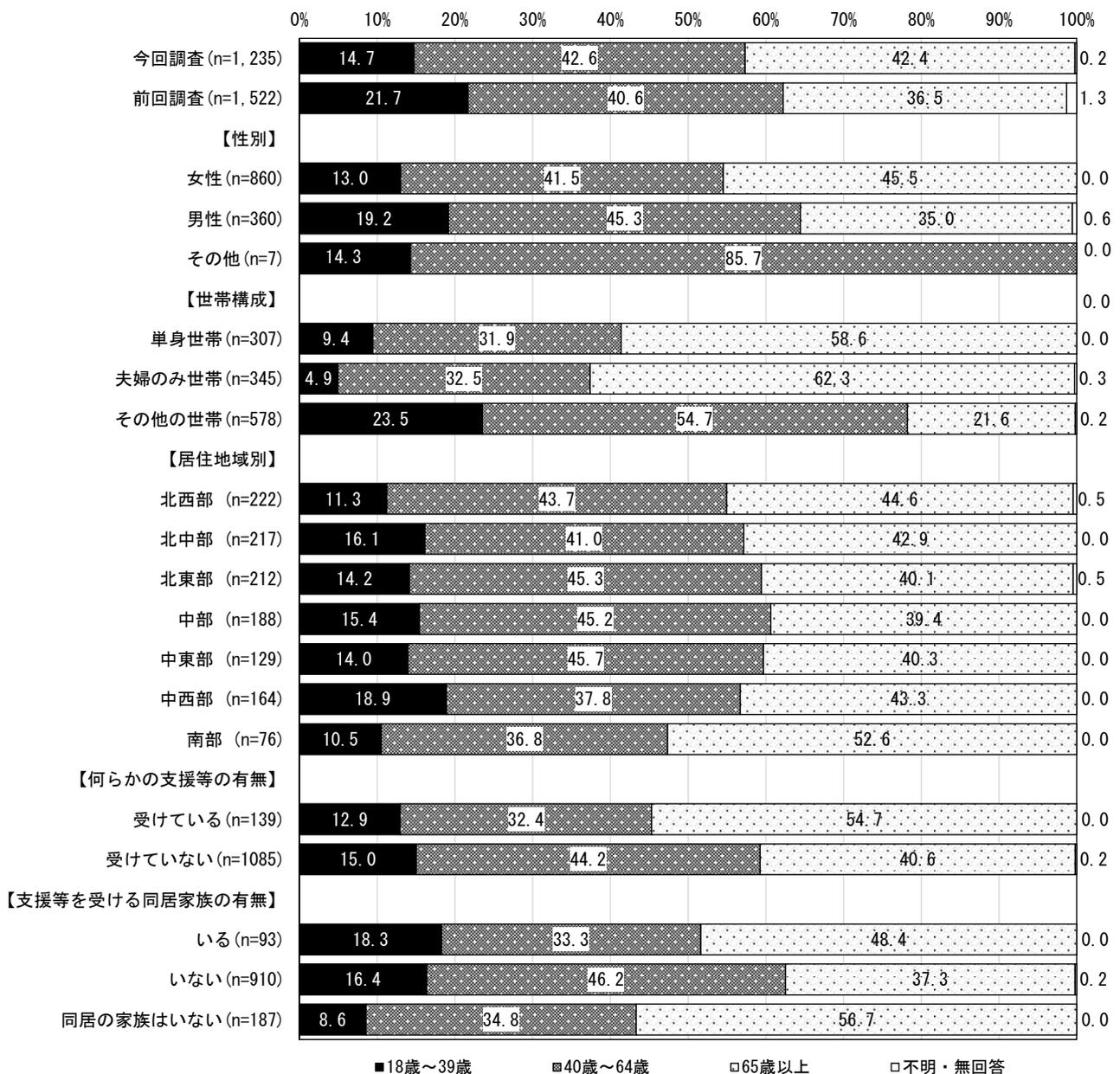


※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

- ★各設問の年齢別分析は、世代間の意識の違いをより明確に把握できるように、介護保険制度の第2号被保険者となる40歳代、第1号被保険者となる65歳を区切りとして、「18歳～39歳」「40歳～64歳」「65歳以上」の3つの年齢階級に分けて、集計・分析を行いました。

3つの年齢階級の状況

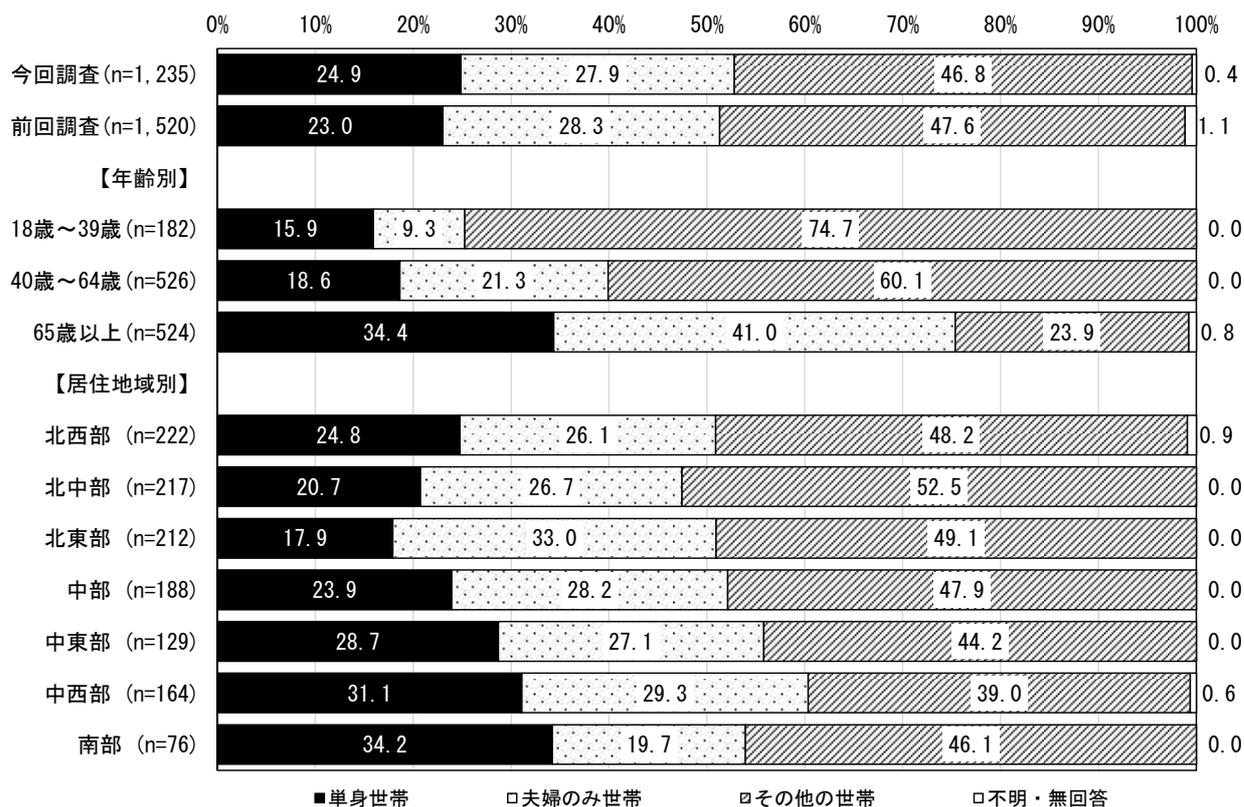
- 年齢については、「40歳～64歳」が42.6%で最も多く、「65歳以上」(42.4%)、「18歳～39歳」(14.7%)がづづいています。また、前回調査と比較すると、「65歳以上」が増加し、「18歳～39歳」が減少しています。
- 家族構成別でみると、単身世帯と夫婦のみ世帯では「65歳以上」、その他の世帯では「18歳～39歳」と「40歳～64歳」が他世帯より多くなっています。
- 居住地域別でみると、南部では「65歳以上」が他地域より多くなっています。
- 回答者が何らかの支援等をうけているかどうかでみると、支援等を受けている人では「65歳以上」が多くなっています。
- 支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいない人では「40歳～64歳」、同居の家族はいない人では「65歳以上」が他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

(3) 一緒に住んでいる家族の構成（世帯構成）

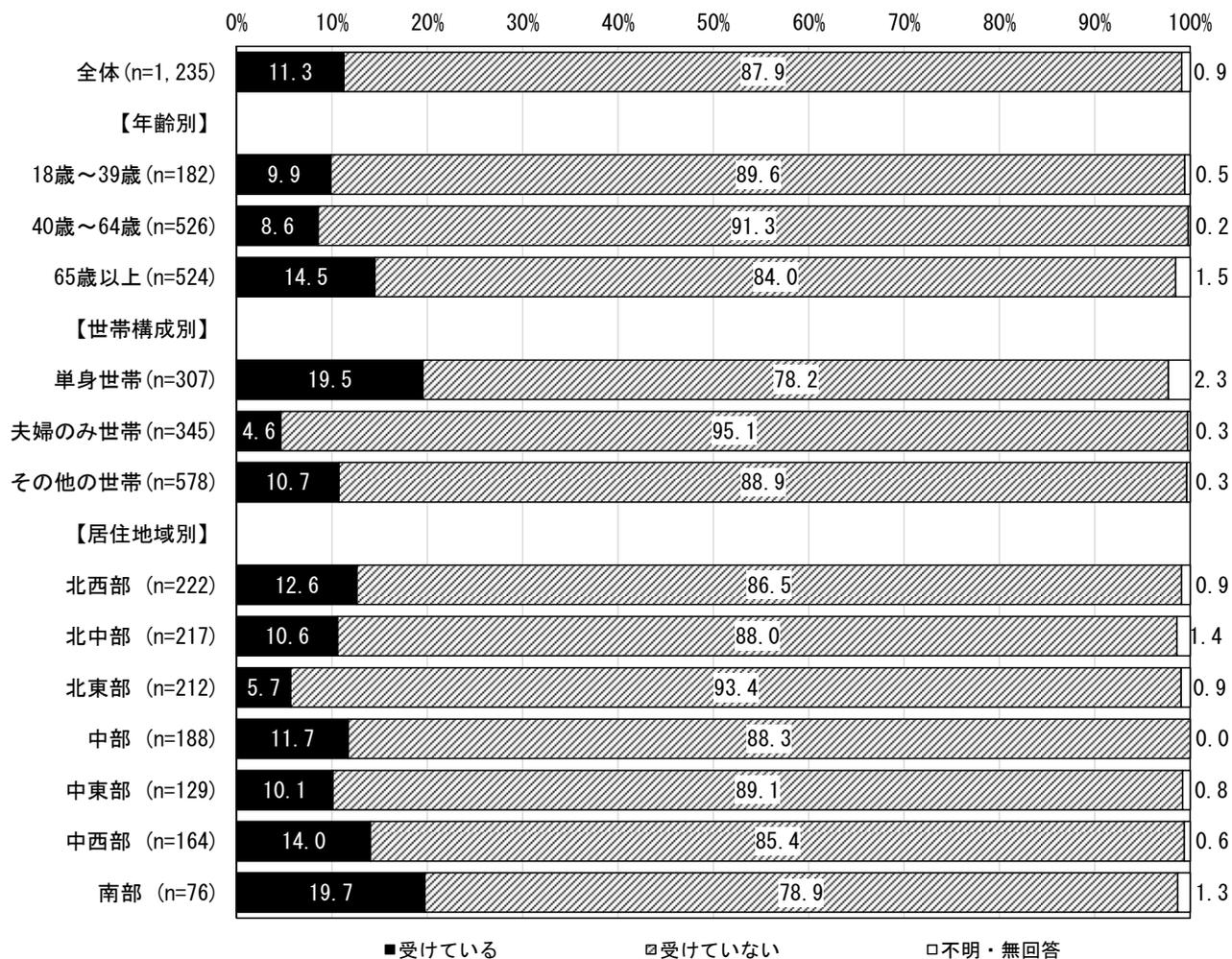
- 世帯構成については、「その他の世帯（「親と子の二世帯」＋「親と子と孫の三世帯」「その他）」が46.8%で最も多く、「夫婦のみ世帯」（27.9%）、「単身世帯」（24.9%）がづついています。また、前回調査と大きな差異はありません。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳は「その他の世帯」、65歳以上では「単身世帯」が他年齢より多くなっています。
- 居住地域別でみると、中西部と南部では「単身世帯」が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

(4) あなたは、現在何らかの支援(身体的、精神的、経済的)や世話を受けていますか。

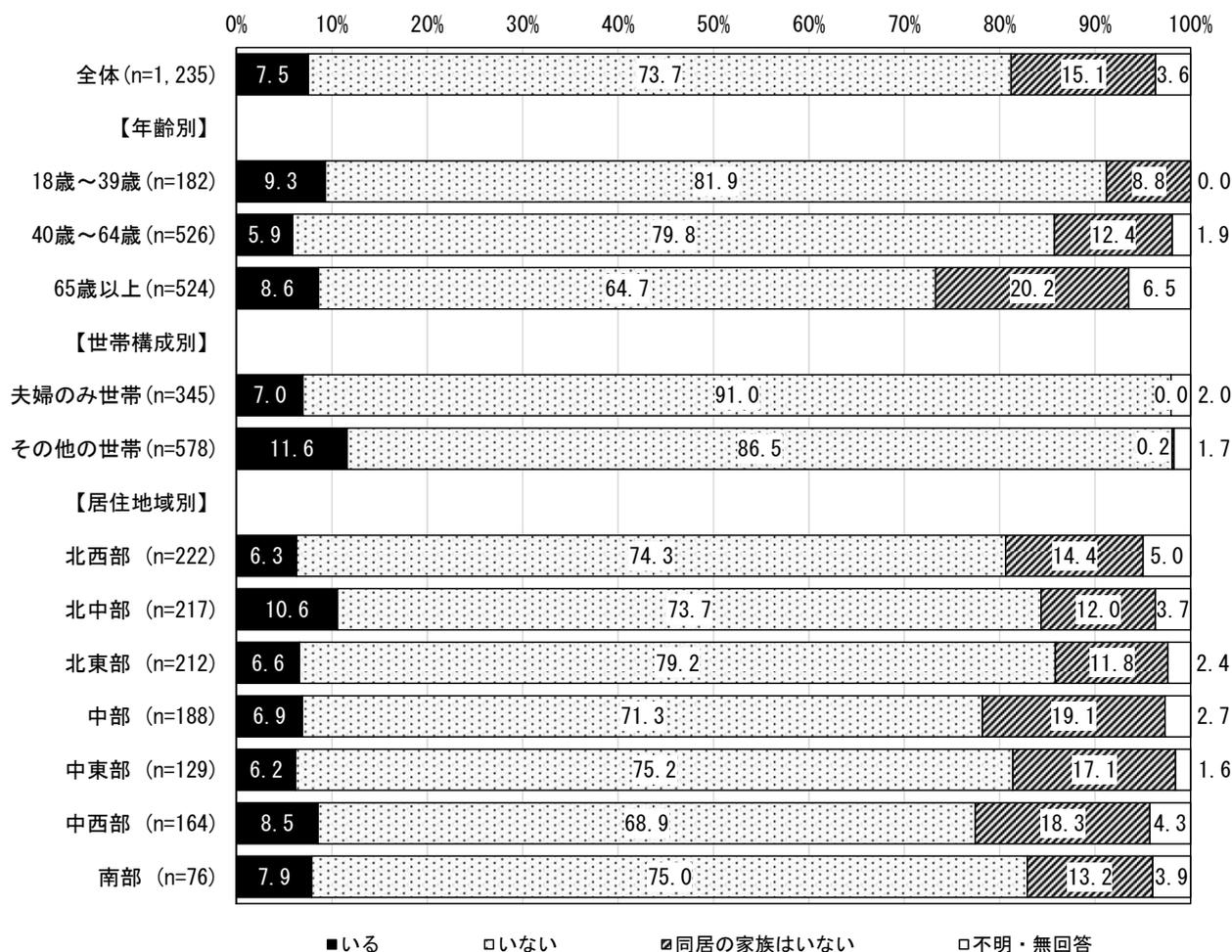
- 何らかの支援等を受けているかについては、「受けている」が11.3%、「受けていない」が87.9%となっています。
- 年齢別で見ると、65歳以上では「受けている」が他年齢より多くなっています。
- 世帯構成別で見ると、単身世帯では「受けている」が他世帯より多くなっています。
- 居住地域別で見ると、南部で「受けている」が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

(5) 同居するご家族で、現在何らかの支援(身体的、精神的、経済的)や世話を受けていますか。

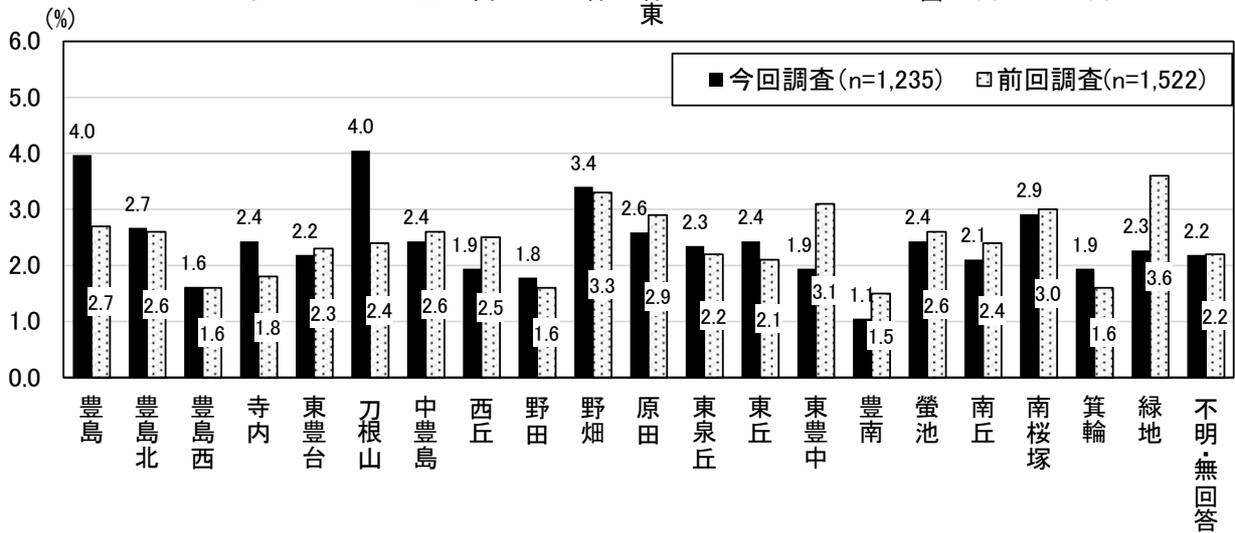
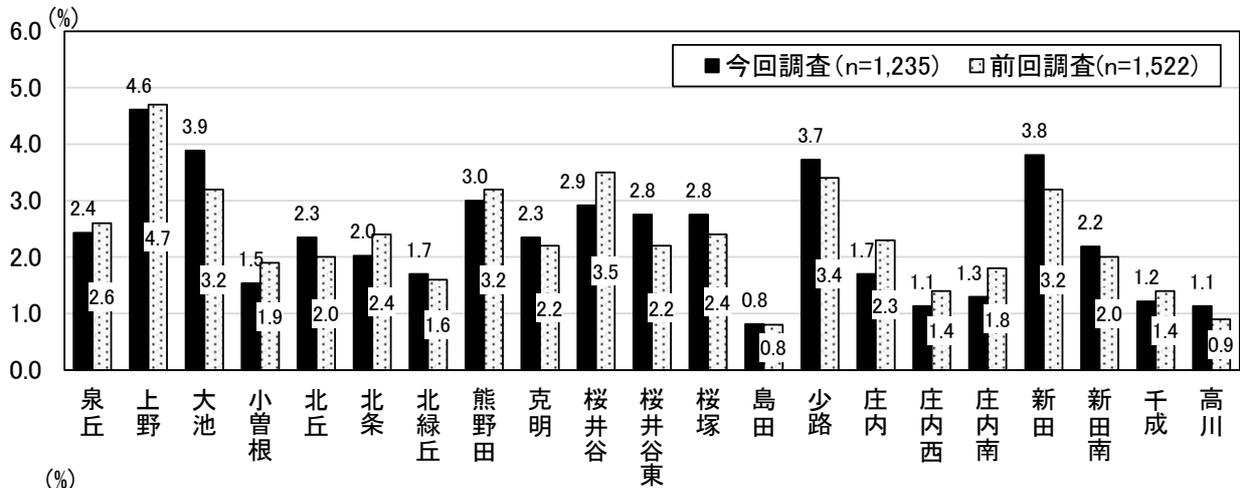
- 同居するご家族で、現在何らかの支援や世話を受けている方はいるかについては、「いない」が73.7%で最も多く、「同居の家族はいない」(15.1%)、「いる」(7.5%)がつづいています。
- 年齢別でみると、65歳以上では「同居の家族はいない」が他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

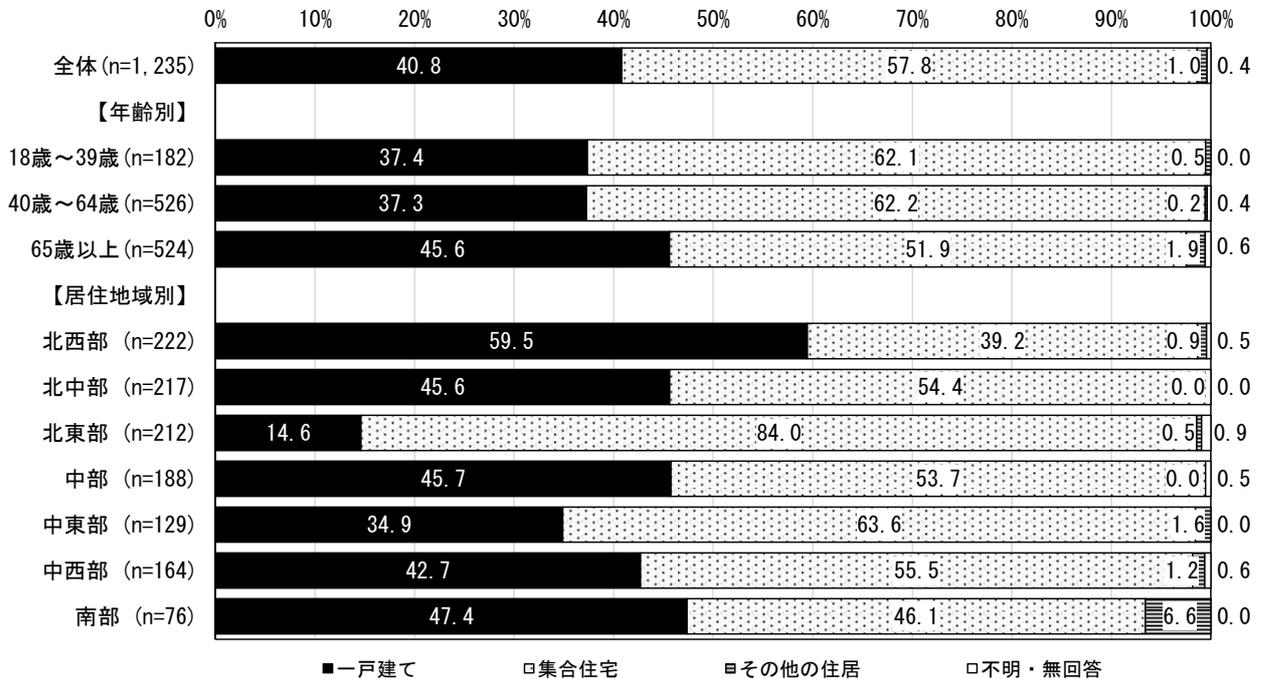
(6) 現在住んでいる小学校区

- 現在住んでいる小学校区については、「上野」が4.6%で最も多く、「豊島」「刀根山」(ともに4.0%)、「新田」(3.8%)、「少路」(3.7%)などがつづいています。



(7) 現在住んでいる住居の形態（住居形態）

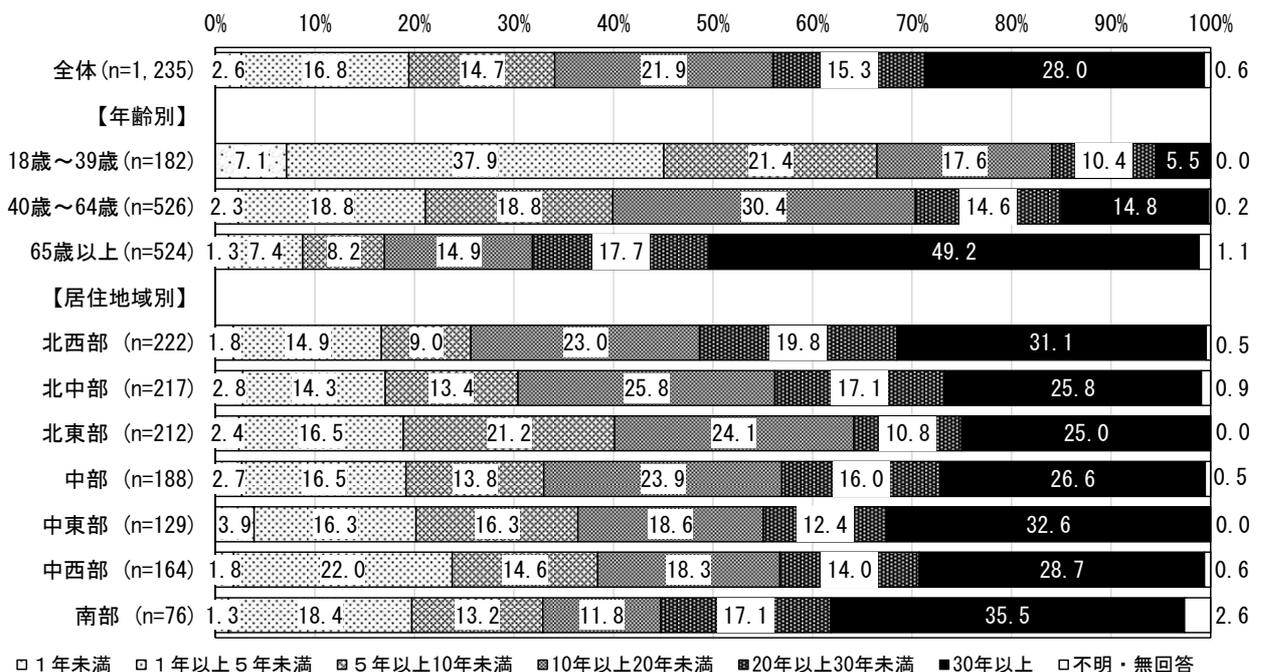
- 住居形態については「集合住宅」が 57.8%で最も多く、「一戸建て」が 40.8%となっています。
- 居住地域別でみると、北西部では「一戸建て」、北東部では「集合住宅」、南部では「その他」が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

(8) 居住年数（一旦離れて戻ってきた場合はのべ年数）

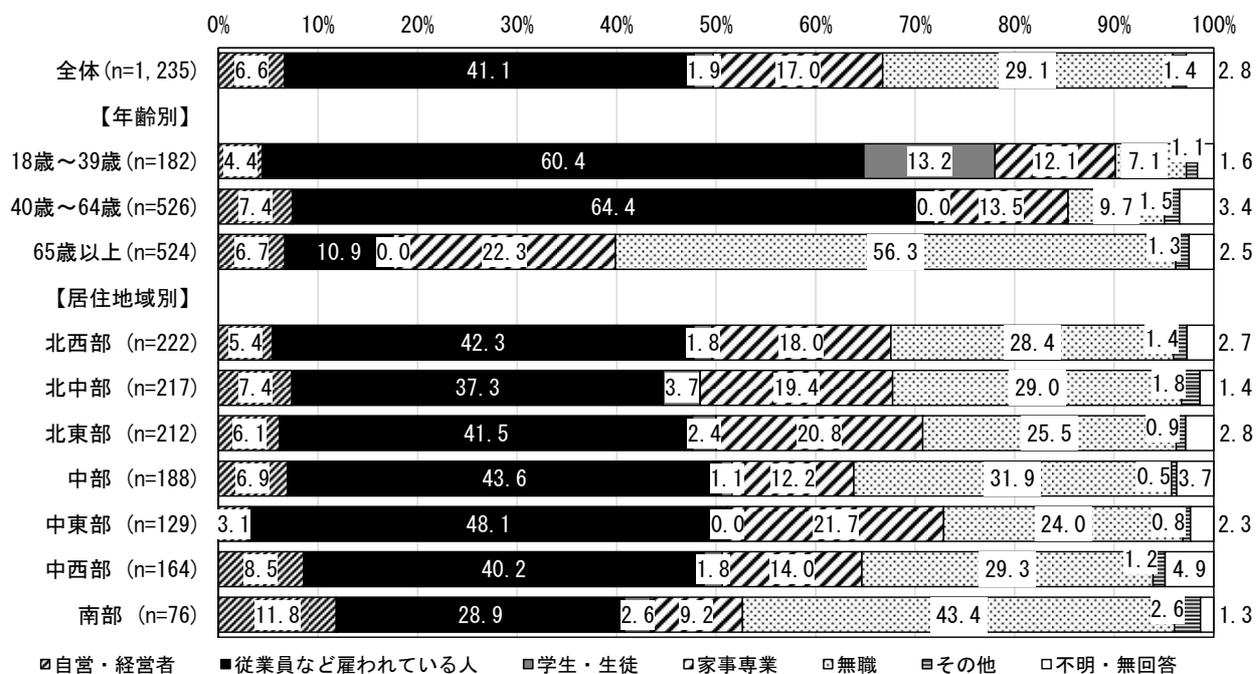
- 居住年数については、「30年以上」が 28.0%で最も多く、「10年以上 20年未満」(21.9%)、「1年以上 5年未満」(16.8%)がつづいています。
- 年齢別でみると、65歳以上では「30年以上」が他年齢より多くなっています



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

(9) 現在の職業

- 職業については、「従業員など雇われている人」が41.1%で最も多く、「無職」(29.1%)、「家事専業」(17.0%)がつづいています。
- 年齢別で見ると、18歳～39歳と40歳～64歳では「従業員など雇われている人」、65歳以上では「無職」が他年齢より多くなっています
- 居住地域別で見ると、南部では「無職」が他地域より多くなっています。

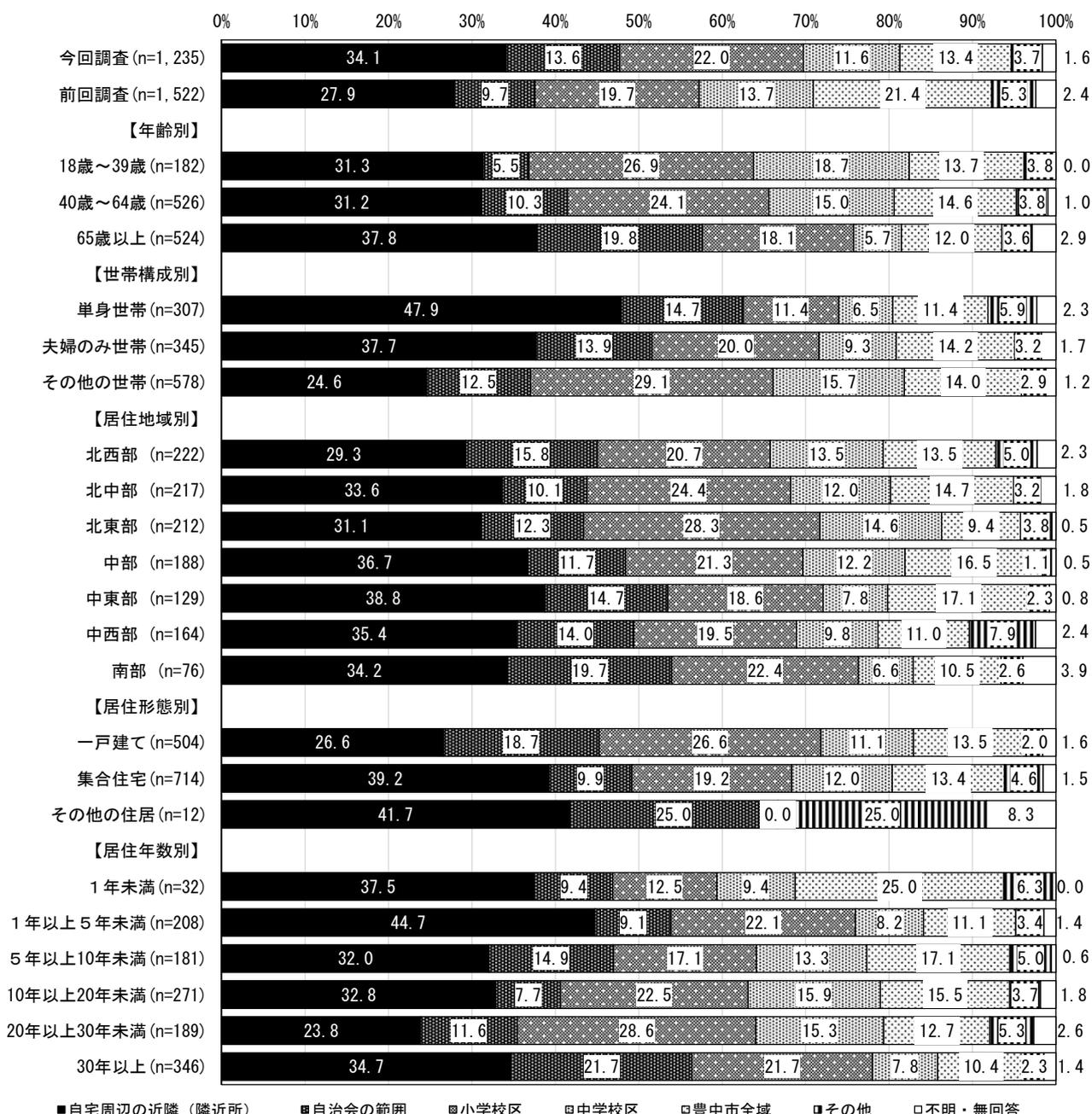


※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

2. お住いの地域との関わりについて

問2-1 あなたにとって、“自分の地域”と感じるのはどのくらいの範囲ですか。(〇は1つ)

- “自分の地域”と感じる範囲については、「自宅周辺の近隣（隣近所）」が34.1%で最も多く、「小学校区」（22.0%）、「自治会の範囲」（13.6%）がつづいています。また、前回調査から「自宅周辺の近隣（隣近所）」と「自治会の範囲」は増加し、「豊中市全域」は減少しています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「中学校区」、65歳以上では「自宅周辺の近隣（隣近所）」と「自治会の範囲」が他年齢より多くなっています。
- 世帯構成別でみると、単身世帯で「自宅周辺の近隣（隣近所）」が他世帯より多くなっています。

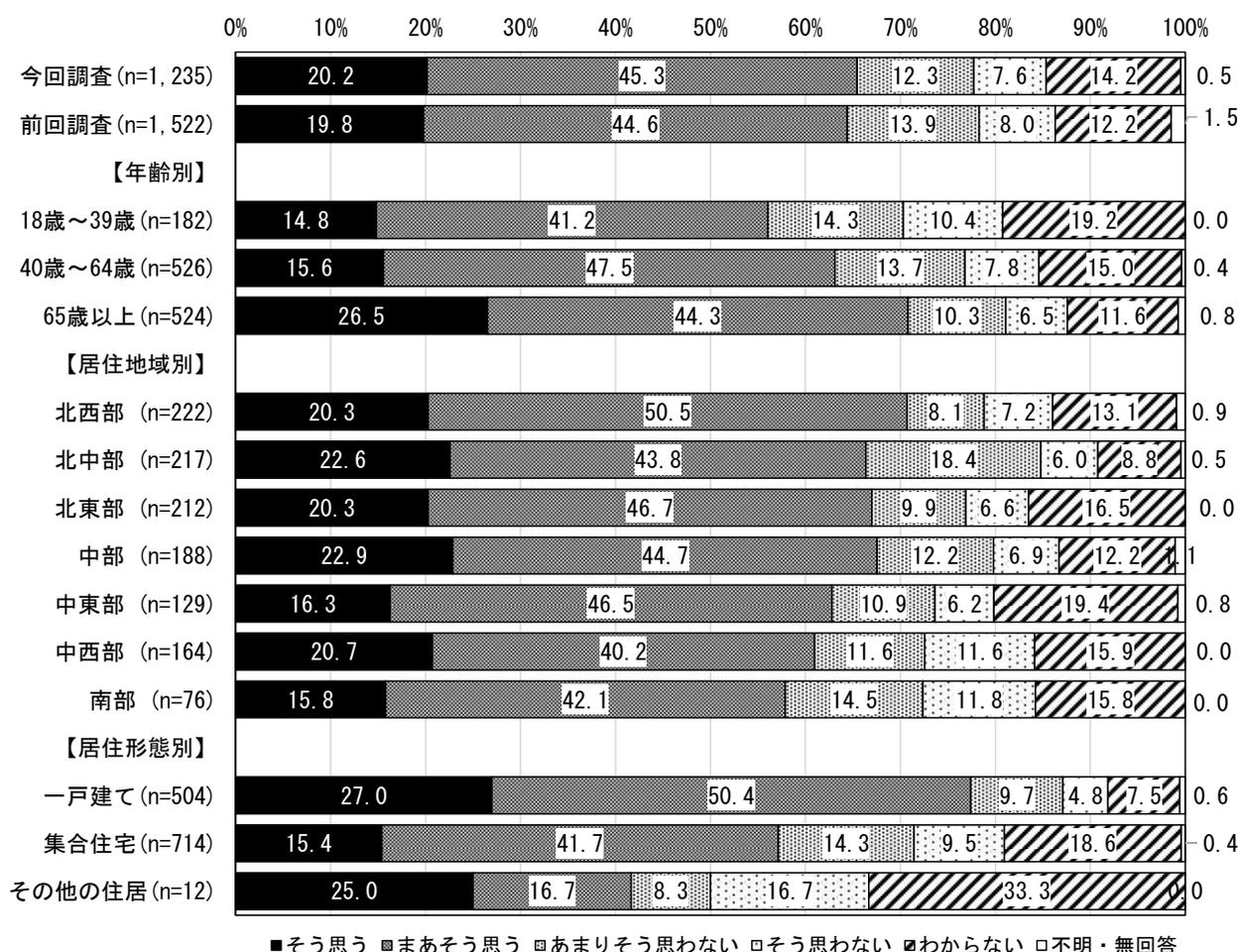


※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問2-2 住んでいる地域について、どのように思いますか。(それぞれで○は1つ)

①隣近所の人間関係が良好だ

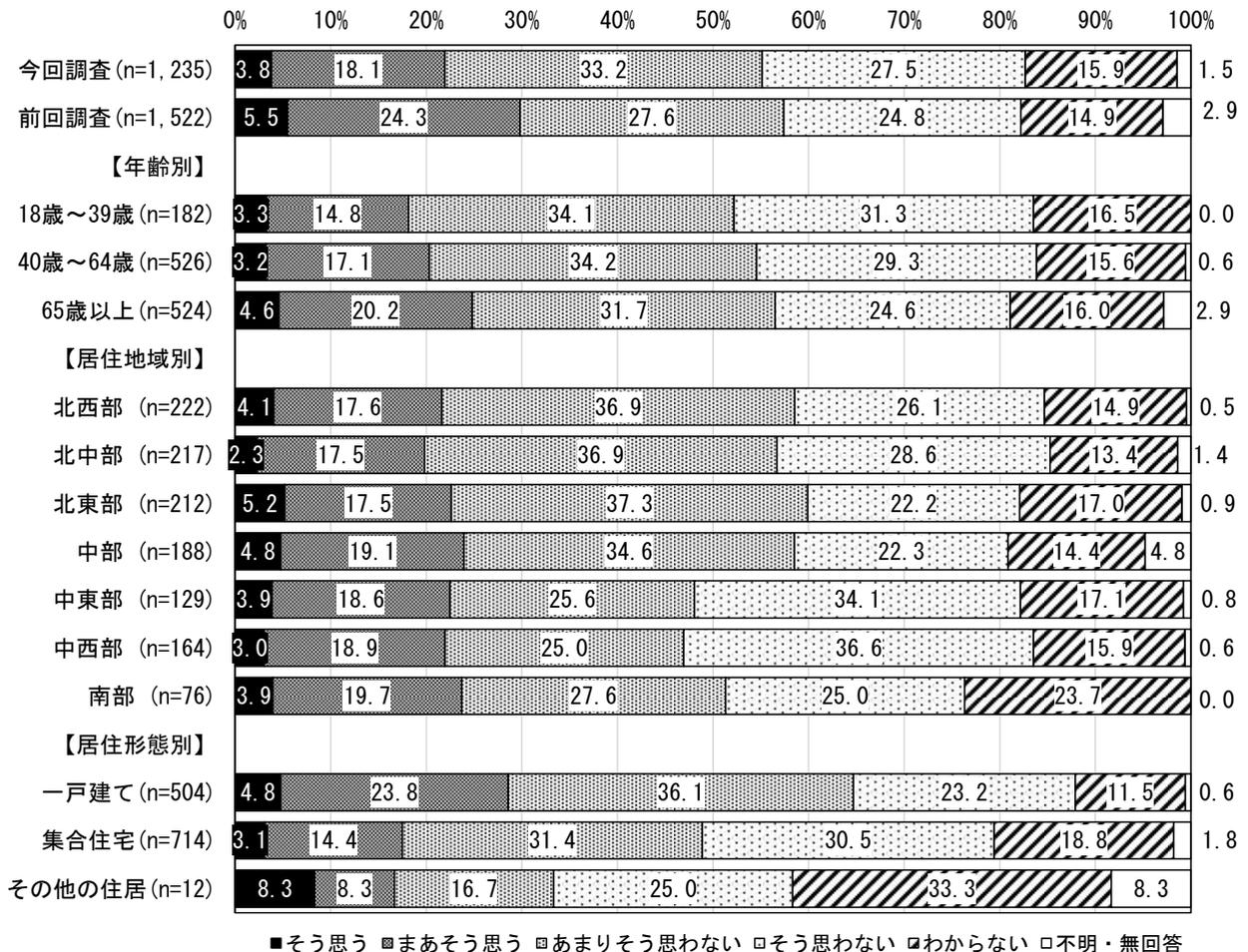
- 『隣近所の人間関係が良好だ』と思う人(「そう思う」+「まあそう思う」)は65.5%で、前回調査(64.4%)と大きな差異はありません。
- 年齢別で見ると、65歳以上では隣近所の人間関係が良好だと思う人が他年齢より多くなっています。
- 居住形態別で見ると、一戸建てでは隣近所の人間関係が良好だと思う人、集合住宅では良好だと思わない人が、他の居住形態より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

②住民による交流が活発だ

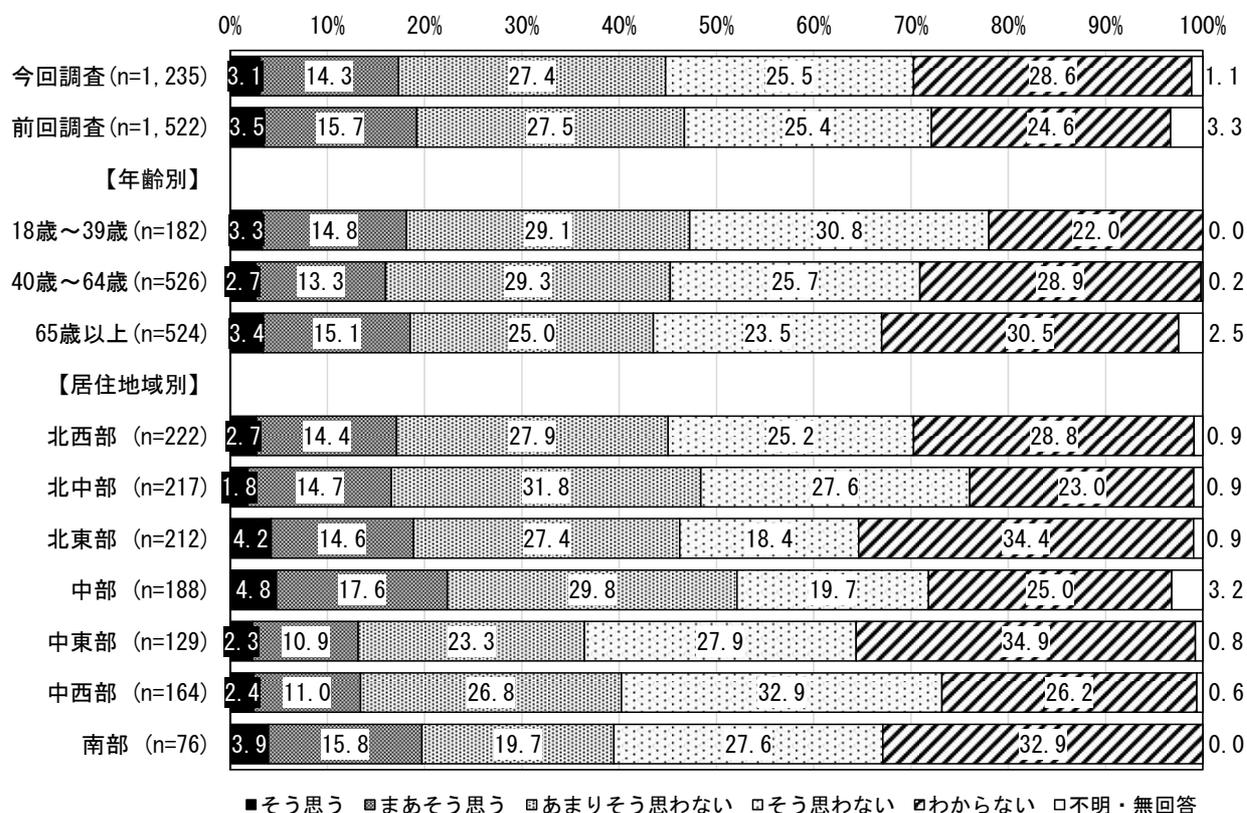
- 『住民による交流が活発だ』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は21.9%で、前回調査（29.8%）から10ポイント程度減少しています。
- 年齢別で見ると、65歳以上では活発だと思う人が他年齢より多くなっています。
- 居住地域別で見ると、北西部や北中部、中西部で活発だと思わない人（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は他地域より多くなっています。
- 居住形態別で見ると、集合住宅で活発だと思わない人が他の居住形態より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

③身近な助けあいやボランティア活動が活発だ

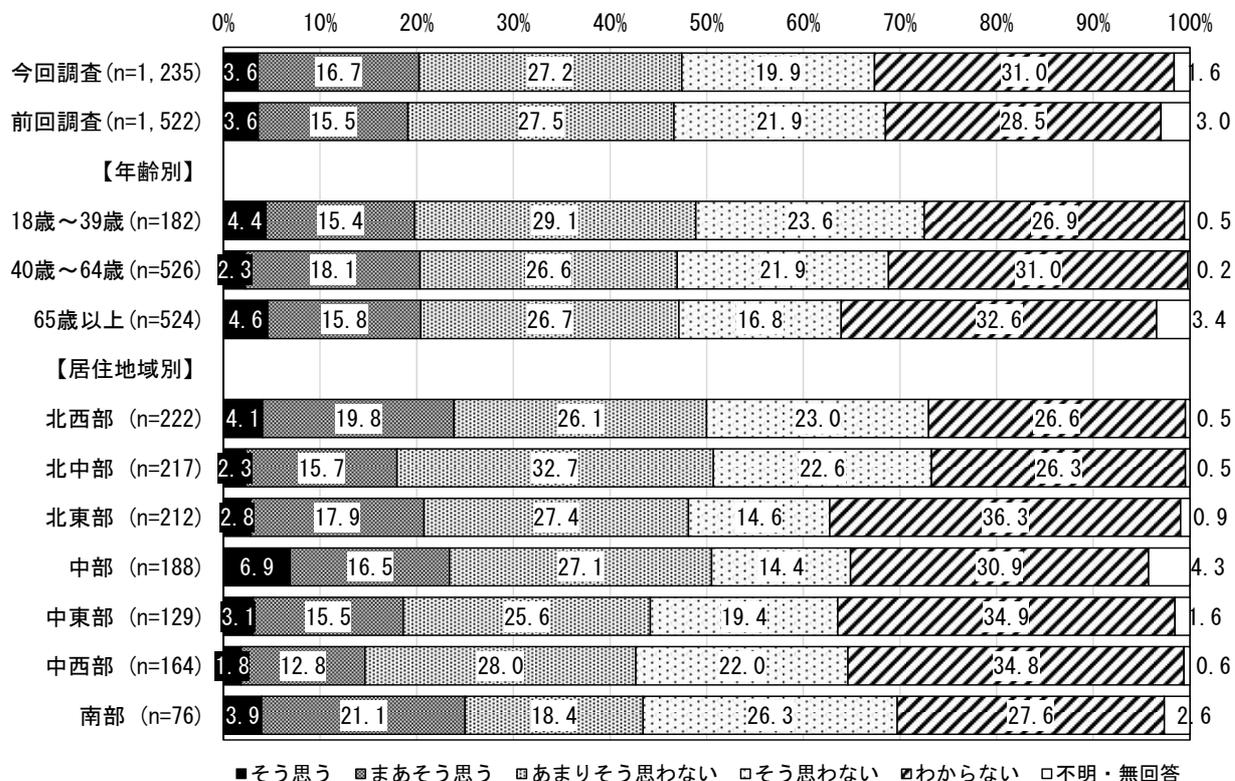
- 『身近な助けあいやボランティア活動が活発だ』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は17.4%で、前回調査（19.2%）と大きな差異はありません。
- 居住地域別でみると、中部で活発だと思う人が他地域より多くなっています。一方で、北中部と中西部では活発だと思わない人が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

④手助けや見守りを必要としている人への地域の人々の関心が強い

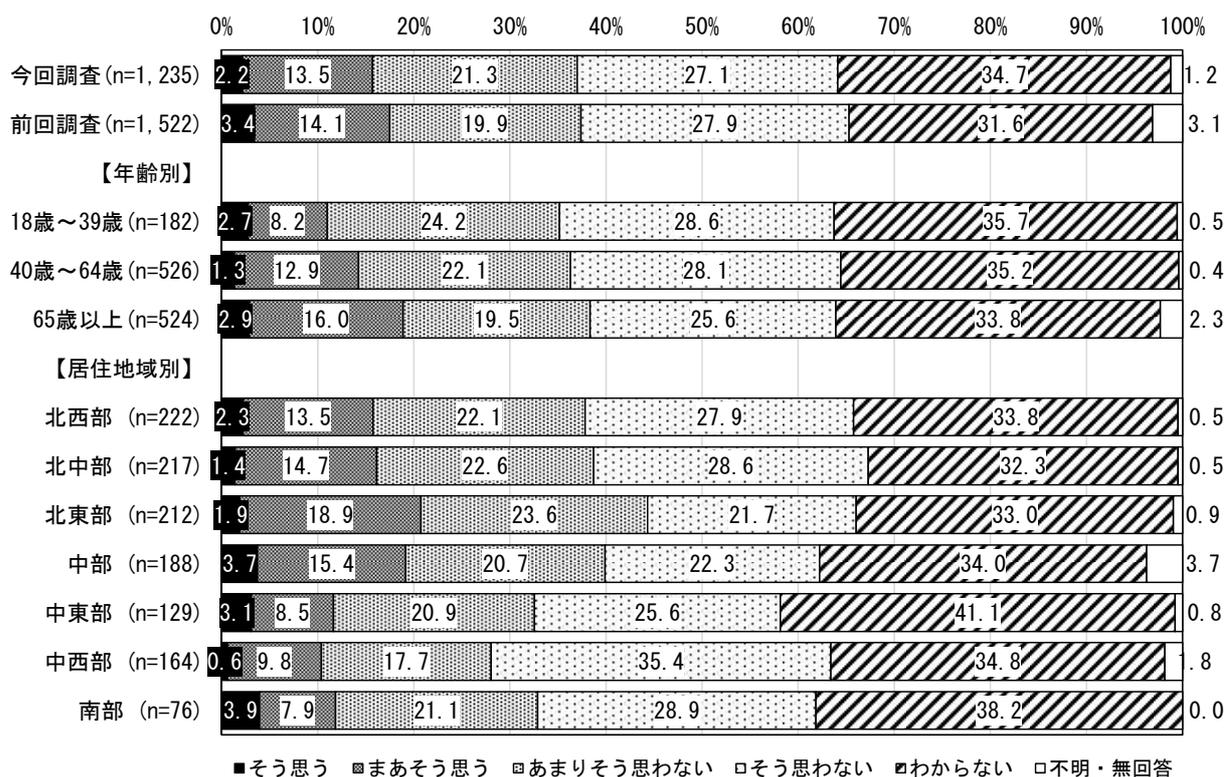
- 『手助けや見守りを必要としている人への地域の人々の関心が強い』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は20.3%で、前回調査（19.1%）と大きな差異はありません。
- 居住地域別でみると、北西部や中部、南部で関心が強いと思う人が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑤地域で抱える課題について住民どうして話しあい、みんなで考えるような機会や場がある

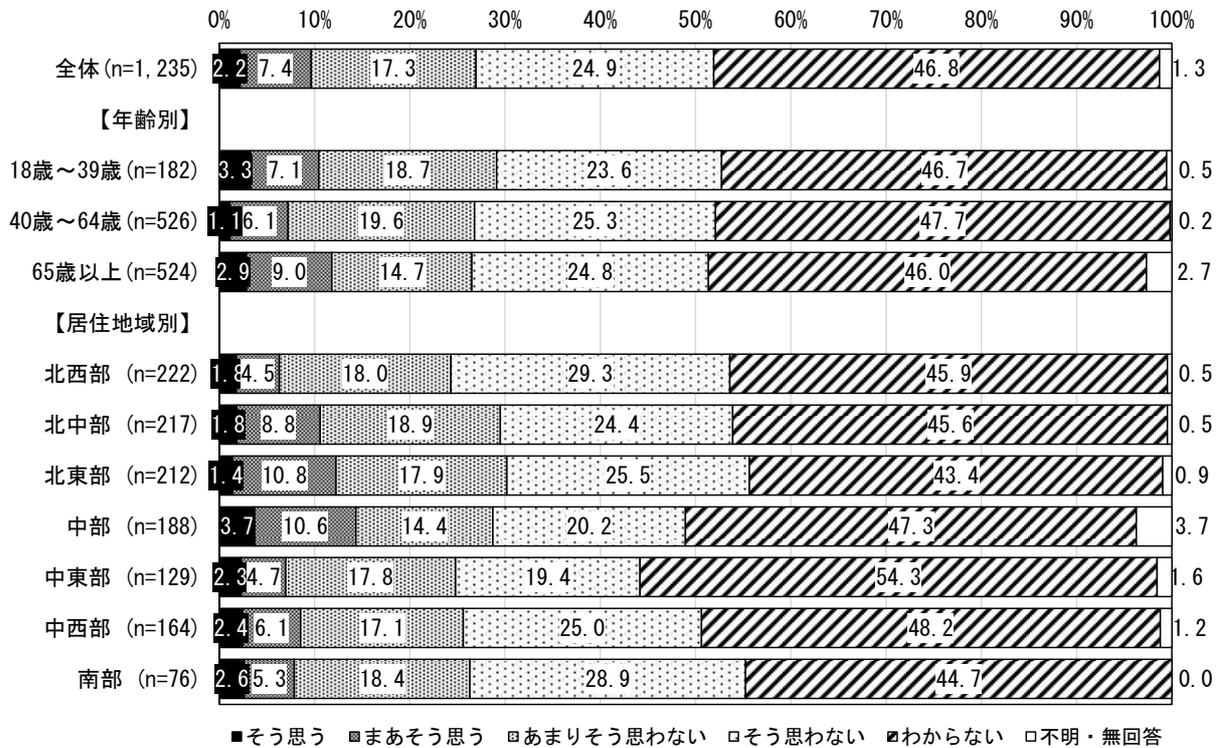
- 『地域で抱える課題について住民どうして話しあい、みんなで考えるような機会や場がある』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は15.7%で、前回調査（17.5%）と大きな差異はありません。
- 年齢別でみると、65歳以上ではそのような機会や場があると思う人が他年齢より多くなっています。
- 居住地域別でみると、北東部ではそのような機会や場があると思う人が他地域より多くなっています。一方、中西部ではそのような機会や場がないと思う人が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑥多様な主体（地域団体・NPO・企業等）が地域で一緒に活動をしている

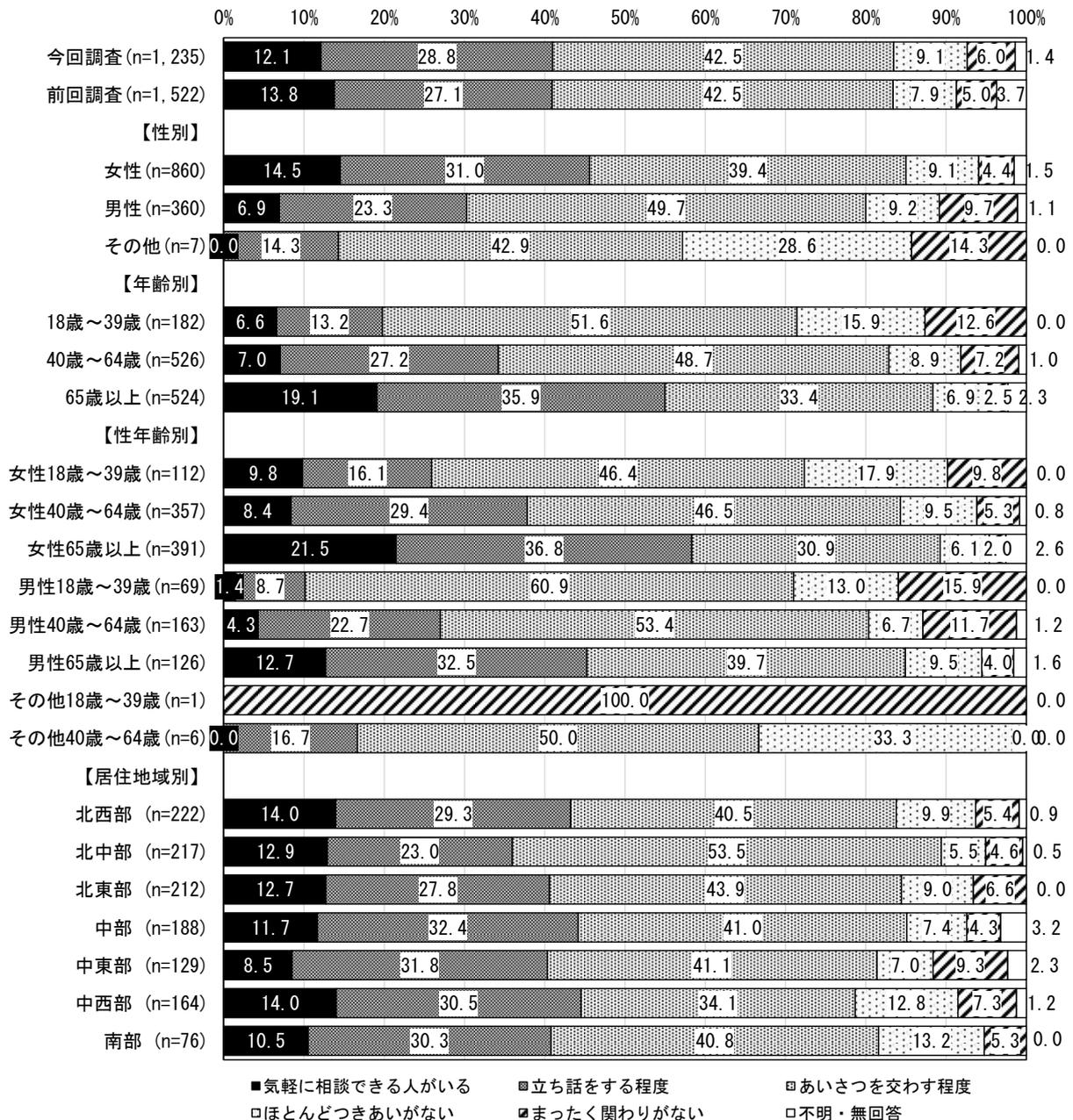
- 『多様な主体（地域団体・NPO・企業等）が地域で一緒に活動をしている』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は9.6%で、「わからない」が46.8%と半数近くを占めています。
- 居住地域別でみると、中部では多様な主体が地域で一緒に活動していると思う人が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問2-3 ふだん、ご近所の方とどのようなおつきあいをしていますか。(〇は1つ)

- ふだんから近所とつきあいがある人(「気軽に相談できる人がいる」+「立ち話をする程度」+「あいさつを交わす程度」)は83.4%で、前回調査(83.4%)と同値です。
- 性別でみると、女性では「気軽に相談できる人がいる」と「立ち話をする程度」、男性では「あいさつをする程度」と「まったく関わりがない」が他より多くなっています。
- 年齢別でみると、18歳~39歳では「あいさつをする程度」や「ほとんどつきあいが無い」「まったく関わりがない」、40歳~64歳では「あいさつをする程度」、65歳以上では「気軽に相談できる人がいる」と「立ち話をする程度」が他年齢より多くなっており、年齢が低いほど近所づきあいが希薄化していることがわかります。
- 性年齢別でみると、女性18歳~39歳では「ほとんどつきあいが無い」、女性65歳以上では「気軽に相談できる人がいる」と「立ち話をする程度」、男性18歳~39歳・男性40歳~64歳では「あいさつをする程度」と「まったく関わりがない」が他より多くなっています。
- 居住地域別でみると、北中部では「あいさつを交わす程度」が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問2-3-付問 あまり近所づきあいをしていない理由は何でしょうか。(あてはまるものすべてに○)

※問2-3で「3 あいさつを交わす程度」「4 ほとんどつきあいがない」「5 まったく関わりがない」と回答した方が対象

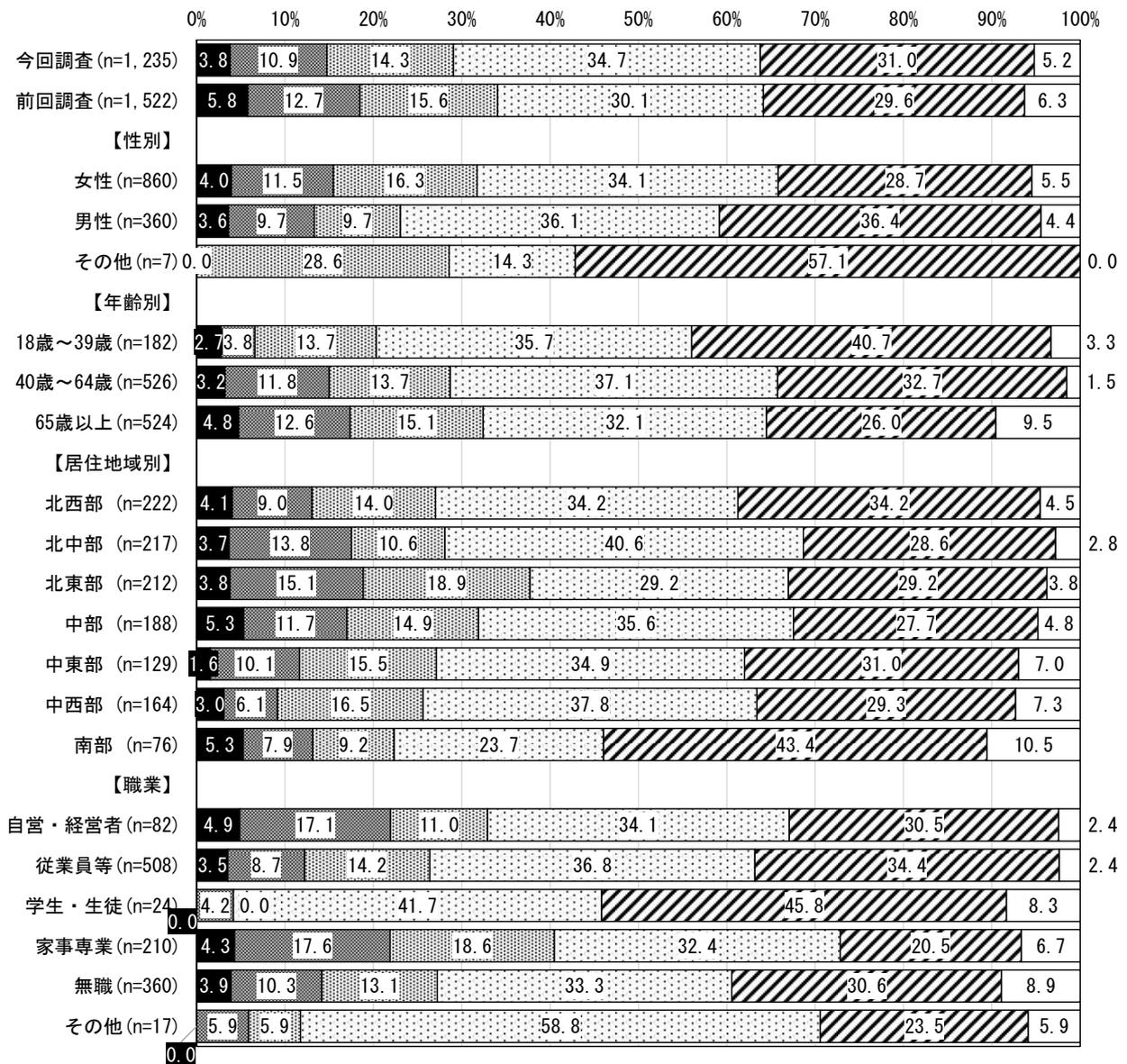
- 近所づきあいをしていない理由については、「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」が51.5%で最も多く、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」(19.5%)、「ふだん留守の家が多いなど、近所づきあいがほとんどない地域である」(19.4%)がつづいています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」、65歳以上では「ふだん留守の家が多いなど、近所づきあいがほとんどない地域である」と「近所づきあいをしたいが、つい消極的になってしまう」が他年齢より多くなっています。

単位:%	全体 n=712	年齢別		
		18歳～39歳 n=146	40歳～64歳 n=341	65歳以上 n=224
仕事などで家をあけることが多く、 知りあう機会がない	51.5	64.4	62.2	26.8
近所づきあいはわずらわしいので避けている	19.5	24.0	17.6	19.6
ふだん留守の家が多いなど、 近所づきあいがほとんどない地域である	19.4	11.0	17.3	28.1
近所づきあいをしたいが、つい消極的になってしまう	11.9	10.3	9.7	16.5
近所づきあいをしたいが、仲間に入れてもらえない	0.6	0.0	1.2	0.0
その他	11.7	6.8	9.1	18.8
不明・無回答	2.0	0.7	1.8	3.1

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

問2-4 この5年間に、住んでいる地域で行われている活動に参加しましたか。(○は1つ)

- 過去5年間で地域活動に参加している人(「自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある」+「求められて参加し、何らかの役割を持つこともある」+「参加することはあるが、役割を持つことはあまりない」)は29.0%で、前回調査(34.1%)から5ポイント程度減少しています。
- 年齢別で見ると、18歳~39歳では「関心がなく、誘われても参加するつもりはない」、65歳以上では「求められて参加し、何らかの役割を持つこともある」が他年齢より多くなっています。また、地域活動に参加している人は65歳以上が32.5%となっており、年齢が高いほど多くなっています。
- 居住地域別で見ると、北東部では地域活動に参加している人が他地域より多くなっています。一方、南部では「関心がなく、誘われても参加するつもりはない」が他地域より多くなっています。
- 職業別で見ると、家事専業と自営・経営者では、何らかの役割を持って地域活動に参加する人(「自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある」+「求められて参加し、何らかの役割を持つこともある」)が他職業より多くなっています。



■自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある
 □参加することあるが、役割を持つことはあまりない
 □関心がなく、誘われても参加するつもりはない
 □求められて参加し、何らかの役割を持つこともある
 □関心はあるが、参加する機会がない
 □不明・無回答

※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問2-4-1付問1 あなたが、この5年間に参加したことがある活動（住んでいる地域で行われている活動）は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

※問2-4で「1 自分から進んで参加し、何らかの役割を持つことがある」「2 求められて参加し、何らかの役割を持つことがある」「3 参加することはあるが、役割を持つことはあまりない」と回答した方（この5年間に地域の活動に参加したことがある方）が対象

- この5年間に参加したことがある地域活動については、「地域のお祭り、ふれあい行事」が49.3%で最も多く、「自治会などのその他の地域活動」（45.1%）、「清掃・美化や環境保全のための活動」（24.8%）がつづいています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「子育て支援のため活動」と「子どもの育成のための活動」、40歳～64歳では「子どもの育成のための活動」、65歳以上では「自治会などのその他の地域活動」や「防災・防犯などの地域安全のための活動」「高齢者のための福祉活動」「健康づくり支援のための活動」が、他年齢より多くなっています。

単位：%	全体 n=359	年齢別		
		18歳～39歳 n=37	40歳～64歳 n=151	65歳以上 n=170
地域のお祭り、ふれあい行事	49.3	62.2	55.0	41.8
自治会などのその他の地域活動	45.1	13.5	40.4	55.9
清掃・美化や環境保全のための活動	24.8	10.8	23.2	29.4
防災・防犯など地域安全のための活動	14.8	2.7	13.2	18.8
子どもの育成のための活動	13.1	21.6	21.2	4.1
スポーツ・文化・芸術振興のための活動	11.7	8.1	10.6	13.5
高齢者のための福祉活動	9.7	0.0	4.0	16.5
子育て支援のための活動	9.5	24.3	9.9	5.9
健康づくり支援のための活動	4.7	0.0	0.7	9.4
まちづくりに関する活動	3.6	8.1	0.7	5.3
その他のNPO・ボランティア活動	3.3	5.4	2.0	4.1
国際交流・外国人支援のための活動	2.5	2.7	2.6	2.4
障害のある人のための福祉活動	0.8	2.7	0.0	1.2
産業振興のための活動	0.3	0.0	0.7	0.0
その他	1.9	2.7	1.3	2.4
不明・無回答	3.6	2.7	4.0	3.5

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

問2-4-1付問2 住んでいる地域の活動に参加したきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問2-4で「1 自分から進んで参加し、何らかの役割を持つことがある」「2 求められて参加し、何らかの役割を持つことがある」「3 参加することはあるが、役割を持つことはあまりない」と回答した方(この5年間に地域の活動に参加したことがある方)が対象

- 地域活動に参加したきっかけについては、「地域やPTAなどの役員になった」が31.8%で最も多く、「知人・友人から誘われた」(25.1%)、「活動に関するチラシ、ポスターをみた」(13.6%)がつづいています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「活動に関するチラシ、ポスターをみた」が32.4%で最も多く、「活動に関するチラシ、ポスターをみた」や「家族から誘われた」「インターネット・SNSを見た」が他年齢より多くなっています。また、40歳～64歳では「地域やPTAなどの役員になった」が41.7%で最も多く、「地域やPTAなどの役員になった」と「職場や学校で参加することになった」が他年齢より多くなっています。さらに、65歳以上では「知人・友人から誘われた」が32.9%で最も多く、他年齢よりも多くなっています。

単位:%	全体 n=359	年齢別		
		18歳～39歳 n=37	40歳～64歳 n=151	65歳以上 n=170
地域やPTAなどの役員になった	31.8	18.9	41.7	25.9
知人・友人から誘われた	25.1	18.9	17.9	32.9
活動に関するチラシ、ポスターをみた	13.6	32.4	11.3	11.8
市の広報誌を見た	10.3	13.5	6.6	12.9
職場や学校で参加することになった	7.8	5.4	12.6	4.1
家族から誘われた	6.4	21.6	5.3	4.1
インターネット・SNSを見た	3.1	13.5	3.3	0.6
ボランティア養成講座に参加した	0.6	2.7	0.0	0.6
その他	10.0	5.4	12.6	8.2
特になし	8.6	8.1	7.9	9.4
不明・無回答	5.8	0.0	2.0	10.6

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

問2-4-1付問3 住んでいる地域の活動に参加して、良かったと感じることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

※問2-4で「1 自分から進んで参加し、何らかの役割を持つことがある」「2 求められて参加し、何らかの役割を持つことがある」「3 参加することはあるが、役割を持つことはあまりない」と回答した方(この5年間に地域の活動に参加したことがある方)が対象

- 地域活動に参加した人が参加して良かったと感じることをみると、「地域に関する理解が深まった」が32.3%で最も多く、「新たな仲間ができた」(31.8%)、「社会とのつながりができた」(23.1%)、「人に喜ばれることができた」(20.1%)がつづいています。
- 年齢別でみると、65歳以上では「新たな仲間ができた」と「自分の生きがいや健康管理に役立った」が他年齢より多くなっています。

単位:%	全体 n=359	年齢別		
		18歳~39歳 n=37	40歳~64歳 n=151	65歳以上 n=170
地域に関する理解が深まった	32.3	24.3	35.8	30.6
新たな仲間ができた	31.8	32.4	25.2	37.1
社会とのつながりができた	23.1	18.9	29.1	18.8
人に喜ばれることができた	20.1	16.2	19.9	21.2
自分の生きがいや健康管理に役立った	11.7	2.7	6.6	18.2
知識や技術が身に付いた	10.3	13.5	10.6	9.4
地域に住みやすくなった	10.3	8.1	12.6	8.8
その他	10.0	21.6	7.9	9.4
不明・無回答	10.9	8.1	6.0	15.9

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 地域活動への参加形態別でみると、『自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある』人では、「新たな仲間ができた」や「地域に関する理解が深まった」、「社会とのつながりができた」「知識や技術が身に付いた」が他の参加形態より多くなっています。

単位:%	全体 n=359	地域活動への参加形態別		
		自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある n=47	求められて参加し、何らかの役割を持つこともある n=135	参加することはあるが、役割を持つことはあまりない n=177
地域に関する理解が深まった	32.3	61.7	37.0	20.9
新たな仲間ができた	31.8	68.1	36.3	18.6
社会とのつながりができた	23.1	46.8	23.0	16.9
人に喜ばれることができた	20.1	36.2	23.0	13.6
自分の生きがいや健康管理に役立った	11.7	23.4	8.1	11.3
知識や技術が身に付いた	10.3	27.7	7.4	7.9
地域に住みやすくなった	10.3	19.1	14.1	5.1
その他	10.0	2.1	5.9	15.3
不明・無回答	10.9	2.1	8.9	14.7

※下線太文字の項目は、地域活動への参加形態別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

問2-4-1付問4 住んでいる地域の活動に参加して、何か負担に思ったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

※問2-4で「1 自分から進んで参加し、何らかの役割を持つことがある」「2 求められて参加し、何らかの役割を持つことがある」「3 参加することはあるが、役割を持つことはあまりない」と回答した方(この5年間に地域の活動に参加したことがある方)が対象

- 地域活動に参加した人が負担に思ったことをみると、「特にない」が38.4%で最も多い。また、負担に感じたことのみをみると、「時間がとられる」が35.4%で最も多く、「身体的な負担が大きい」(11.4%)、「一緒に活動する仲間が少ない」(8.6%)がつづいています。
- 年齢別でみると、40歳～64歳で「時間がとられる」が他年齢層より多くなっています。
- 地域活動への参加形態別でみると、『自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある』人と『求められて参加し、何らかの役割を持つこともある』人ではともに「時間がとられる」が、『参加することはあるが、役割を持つことはあまりない』人では「特にない」が他の参加形態より多くなっています。

	全体 n=359	年齢別			地域活動への参加形態別		
		18歳～ 39歳 n=37	40歳～ 64歳 n=151	65歳 以上 n=170	自分から進 んで参加 し、何らか の役割を持 つこともある n=47	求められて 参加し、何 らかの役割 を持つこと もある n=135	参加するこ とはある が、役割を 持つことは あまりない n=177
時間がとられる	35.4	37.8	53.0	19.4	48.9	46.7	23.2
身体的な負担が大きい	11.4	10.8	8.6	14.1	6.4	14.8	10.2
一緒に活動する 仲間が少ない	8.6	10.8	9.9	7.1	8.5	11.1	6.8
人間関係がわずらわしい	7.5	8.1	9.3	5.9	0.0	10.4	7.3
出費が多い	3.3	10.8	3.3	1.8	4.3	2.2	4.0
ボランティア活動などに ついての情報が得にくい	2.5	5.4	2.6	1.8	4.3	1.5	2.8
活動する場所を確保しにくい	1.7	2.7	0.7	2.4	0.0	1.5	2.3
新しい知識や技術を 身につける機会がない	1.4	0.0	0.0	2.9	4.3	0.7	1.1
ボランティア活動などに ついて相談できる機関がない	0.8	2.7	0.7	0.6	2.1	0.0	1.1
家族の理解が得られない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.8	5.4	2.0	2.9	4.3	3.7	1.7
特にない	38.4	40.5	33.8	41.8	29.8	30.4	46.9
不明・無回答	8.1	0.0	2.0	15.3	6.4	4.4	11.3

※下線太文字の項目は、年齢別、地域活動への参加形態別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

問2-4-1付問5 住んでいる地域の活動に参加しない、または参加できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問2-4で「4 関心はあるが、参加する機会がない」「5 関心がなく、誘われても参加するつもりはない」と回答した方(この5年間に地域の活動に参加したことがない方)が対象

- 地域活動に参加していない人の理由をみると、「参加したいと思う活動の情報が得られない」が28.8%で最も多く、「自由な時間がない」(26.5%)、「興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない」(26.0%)がつづいています。
- 地域活動に参加していない人について、地域活動への関心・今後の参加意向別でみると、『関心はあるが、参加する機会がない』人では、「参加したいと思う活動の情報が得られない」が38.7%で最も多く、「興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない」(30.3%)、「自由な時間がない」(24.2%)、「一緒に活動する仲間がいない」(19.6%)がつづきます。

一方、『関心がなく、誘われても参加するつもりはない』人では、「人間関係がわずらわしい」が33.7%で最も多く、「自由な時間がない」(29.0%)、「参加申込や定期的な参加がわずらわしい」(22.5%)がつづきます。

また、地域活動に『関心はあるが、参加する機会がない』人は、「参加したいと思う活動の情報が得られない」や「興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない」「一緒に活動する仲間がいない」「家の近くに活動する場所がない」が、『関心がなく、誘われても参加するつもりはない』人と比べて多くなっています。

単位: %	全体(n=812)	地域活動への関心・参加意向別	
		関心はあるが、参加する機会がない(n=429)	関心がなく、誘われても参加するつもりはない(n=383)
参加したいと思う活動の情報が得られない	28.8	38.7	17.8
自由な時間がない	26.5	24.2	29.0
興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない	26.0	30.3	21.1
人間関係がわずらわしい	19.7	7.2	33.7
体調不良や体力低下のため参加が難しい	18.2	15.6	21.1
参加申込や定期的な参加がわずらわしい	17.9	13.8	22.5
一緒に活動する仲間がいない	16.3	19.6	12.5
家の近くに活動の場所がない	11.2	14.7	7.3
ボランティア活動などをするための知識や技術がない	11.1	13.5	8.4
出費が多い	2.8	2.8	2.9
家族の理解が得られない	0.2	0.2	0.3
その他	6.4	7.5	5.2
特になし	6.7	4.2	9.4
不明・無回答	3.2	4.4	1.8

※下線太文字の項目は、地域活動への関心・今後の参加意向別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

問2-5 今後参加してみたいと思う活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

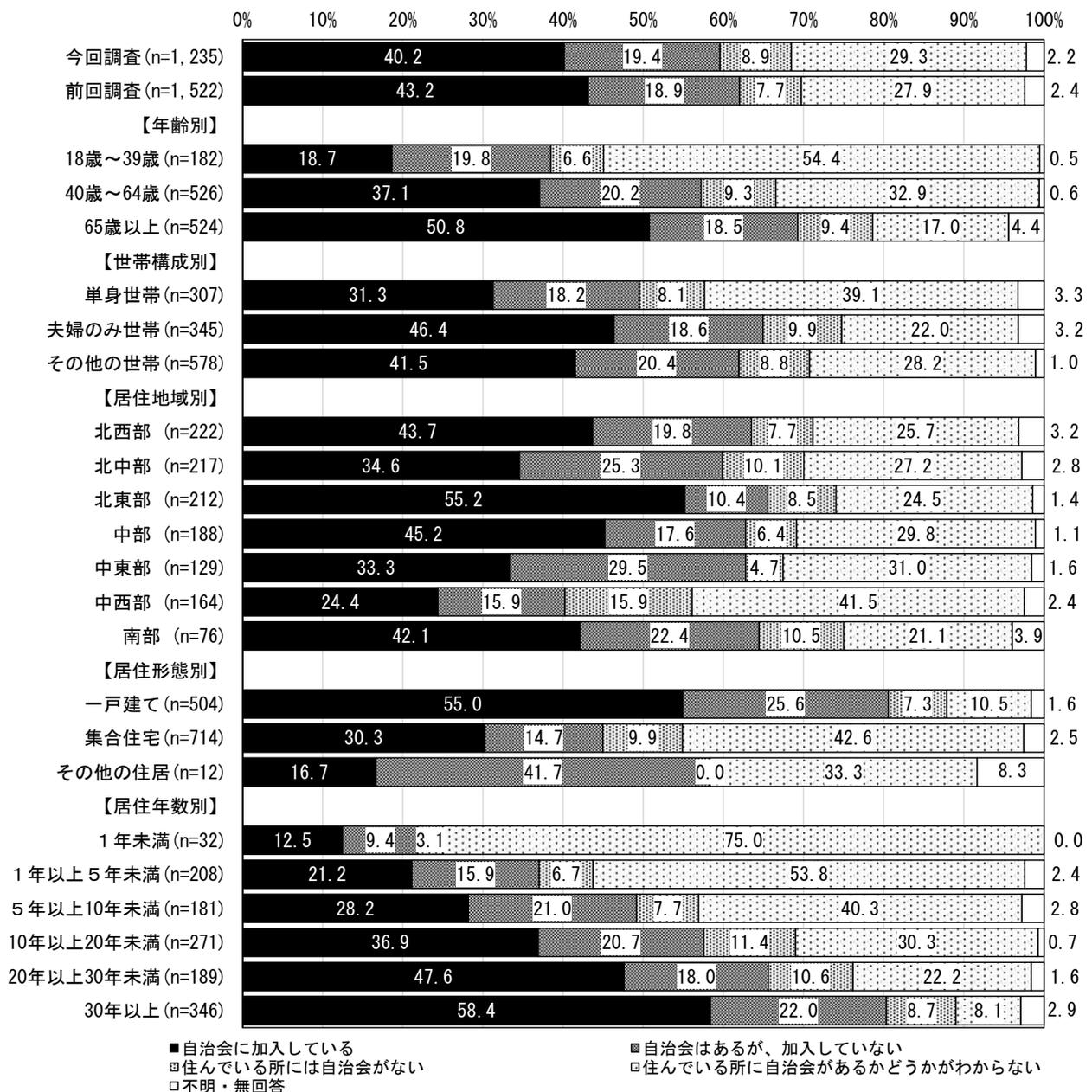
- 今後参加してみたい地域活動については、「地域のお祭り、ふれあい行事」が30.8%で最も多く、「清掃・美化や環境保全のための活動」(15.9%)、「スポーツ・文化・芸術振興のための活動」(15.1%)がつづいています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「地域のお祭り、ふれあい行事」や「子どもの育成のための活動」「子育て支援のための活動」「スポーツ・文化・芸術振興のための活動」、65歳以上では「健康づくり支援のための活動」と「高齢者のための福祉活動」が、他年齢より多くなっています。

単位:%	全体 n=1,235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
地域のお祭り、ふれあい行事	30.8	54.4	34.4	18.9
清掃・美化や環境保全のための活動	15.9	11.5	17.7	15.6
スポーツ・文化・芸術振興のための活動	15.1	24.7	16.3	10.3
健康づくり支援のための活動	14.6	7.7	14.4	17.0
子どもの育成のための活動	13.0	28.0	15.8	5.0
防災・防犯など地域安全のための活動	13.0	12.6	12.9	13.2
高齢者のための福祉活動	12.0	3.3	10.6	16.4
子育て支援のための活動	11.8	26.9	14.1	4.4
国際交流・外国人支援のための活動	9.3	14.8	11.6	5.0
自治会などのその他の地域活動	8.3	2.7	6.5	12.0
まちづくりに関する活動	7.3	7.7	9.7	4.8
障害のある人のための福祉活動	5.3	4.9	7.2	3.4
その他のNPO・ボランティア活動	4.5	4.9	5.1	3.4
産業振興のための活動	2.3	2.7	3.0	1.3
その他	10.0	4.9	9.5	12.4
不明・無回答	18.9	8.8	11.8	29.8

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

問2-6 地域の自治会に加入していますか。(〇は1つ)

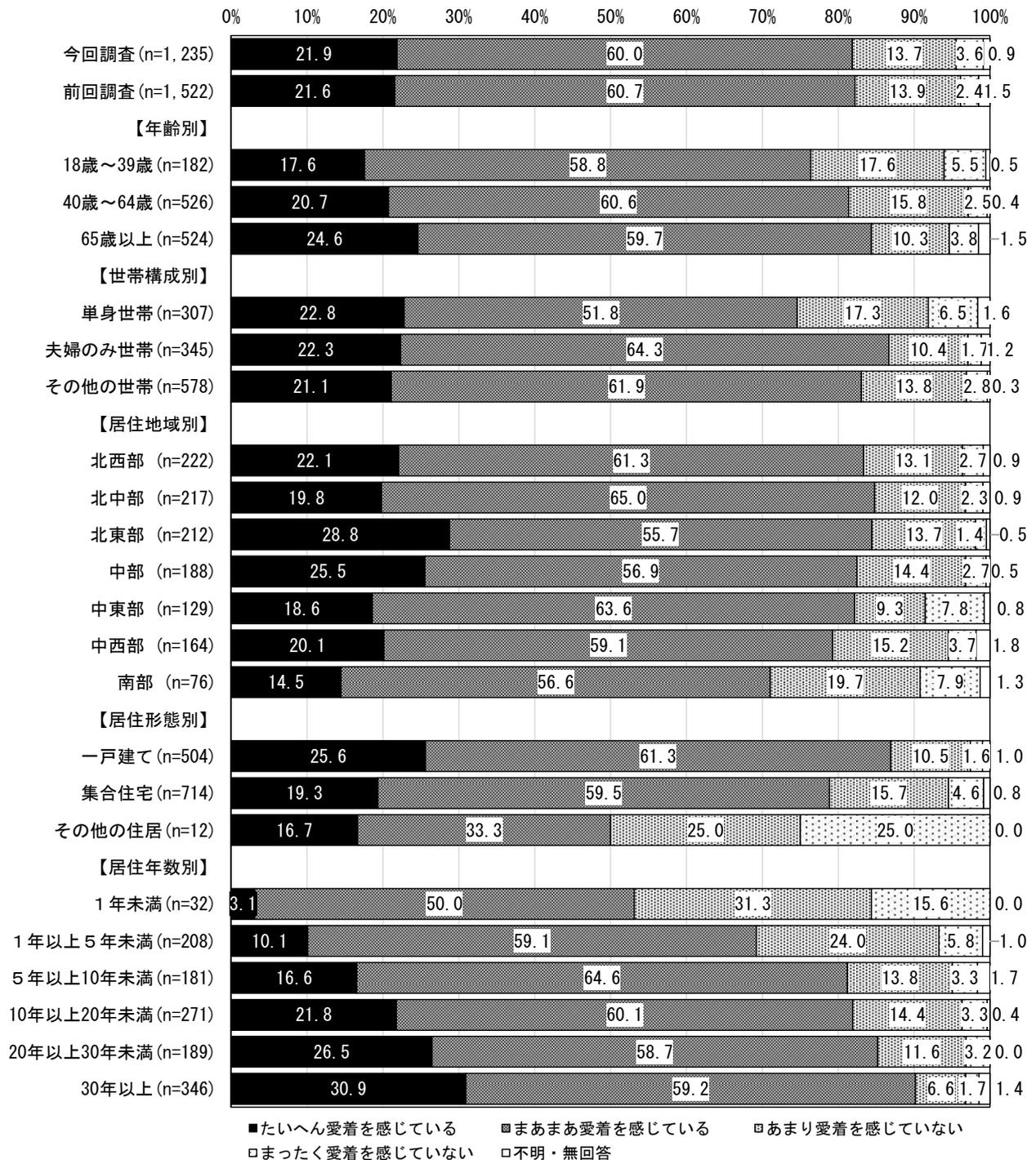
- 「自治会に加入している」が40.2%で、前回調査(43.2%)とは大きな差異はありません。
- 年齢別で見ると、18歳~39歳では「住んでいる所に自治会があるかどうか分からない」、65歳以上では「自治会に加入している」が、他年齢より多くなっています。
- 世帯構成別で見ると、単身世帯では「住んでいる所に自治会があるかどうか分からない」、夫婦のみ世帯では「自治会に加入している」が、他世帯より多くなっています。
- 居住地域別で見ると、北東部では「自治会に加入している」、中西部では「住んでいる所には自治会がない」と「住んでいる所に自治会があるかどうか分からない」が、他地域より多くなっています。
- 居住形態別で見ると、一戸建てでは「自治会に加入している」と「自治会はあるが、加入していない」、集合住宅では「住んでいる所に自治会があるかどうか分からない」が、他の居住形態より多くなっています。
- 居住年数別で見ると、10年未満では「住んでいる所に自治会があるかどうか分からない」、30年以上では「自治会に加入している」が他より多く、居住年数が多くなるとともに自治会に加入している人が増加しています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問2-7 現在住んでいる地域に愛着を感じていますか。(〇は1つ)

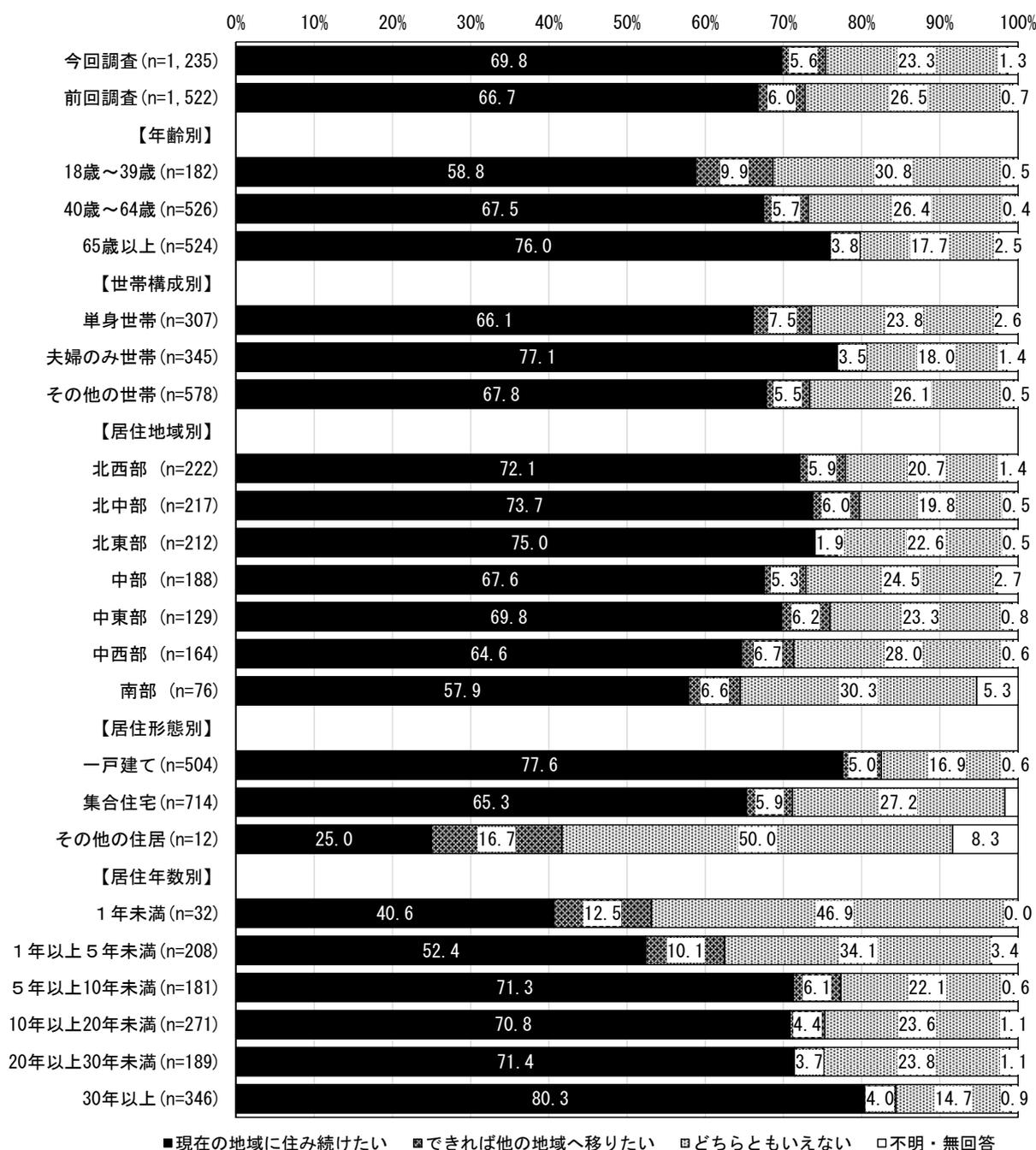
- 地域に愛着を感じている人(「たいへん愛着を感じている」+「まあまあ愛着を感じている」)は81.9%で、前回調査(82.3%)と大きな差異はありません。
- 年齢別でみると、65歳以上では「たいへん愛着を感じている」が他年齢より多くなっています。
- 居住地域別でみると、北東部で「たいへん愛着を感じている」、中東部と南部では「まったく愛着を感じていない」が他地域より多くなっています。
- 居住形態別でみると、一戸建てでは「たいへん愛着を感じている」が他の居住形態より多くなっています。
- 居住年数別でみると、1年未満では「あまり愛着を感じていない」と「まったく愛着を感じていない」、1年以上5年未満では「あまり愛着を感じていない」、30年以上では「たいへん愛着を感じている」が他より多くなっており、居住年数が多くなるとともに愛着を感じる人が増加しています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問2-8 現在住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- 今後の居住意向について「現在の地域に住み続けたい」が69.8%となっており、前回調査(66.7%)と大きな差異はありません。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「できれば他の地域へ移りたい」、65歳以上では「現在の地域に住み続けたい」が他年齢より多くなっています。
- 世帯構成別でみると、夫婦のみ世帯では「現在の地域に住み続けたい」が他世帯より多くなっています。
- 居住形態別でみると、一戸建てでは「現在の地域に住み続けたい」、集合住宅では「どちらともいえない」が他の居住形態より多くなっています。
- 居住年数別でみると、1年未満では「どちらともいえない」、1年以上5年未満では「どちらともいえない」と「できれば他の地域へ移りたい」、30年以上では「現在の地域に住み続けたい」が他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問2-8-1付問 現在の地域に住み続けたいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※問2-8で「1 現在の地域に住み続けたい」と回答した方が対象

- 現在の地域に住み続けたいと思う理由については、「買い物や交通の便がよいから」が57.9%で最も多く、「住みなれた地域だから」(55.8%)、「地域の環境がよいから」(47.0%)がつづいています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「家族や親戚、知人がいるから」と「生まれ育った地域だから」、40歳～64歳では「地域の環境がよいから」と「生まれ育った地域だから」、65歳以上では「災害などが少なく安心して暮らせるから」や「医療機関や福祉施設が整っているから」「近所づきあいがしやすいから」が、他年齢より多くなっています。

単位: %	全体 n=862	年齢別		
		18歳～39歳 n=107	40歳～64歳 n=355	65歳以上 n=398
買い物や交通の便がよいから	57.9	49.5	56.6	61.3
住みなれた地域だから	55.8	40.2	55.5	60.3
地域の環境がよいから	47.0	45.8	53.2	41.5
災害などが少なく安心して暮らせるから	27.3	15.9	19.7	37.2
家族や親戚、知人がいるから	23.2	34.6	20.8	22.4
医療機関や福祉施設が整っているから	17.2	13.1	12.1	22.6
生まれ育った地域だから	14.3	23.4	20.0	6.8
近所づきあいがしやすいから	10.6	5.6	8.2	14.1
地域の活動や交流が活発だから	2.3	1.9	1.4	3.3
その他	3.4	5.6	3.9	2.3
不明・無回答	0.1	0.0	0.3	0.0

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 居住地域別でみると、多くの地域で「買い物や交通の便がよいから」や「住みなれた地域だから」などが上位を占めています。

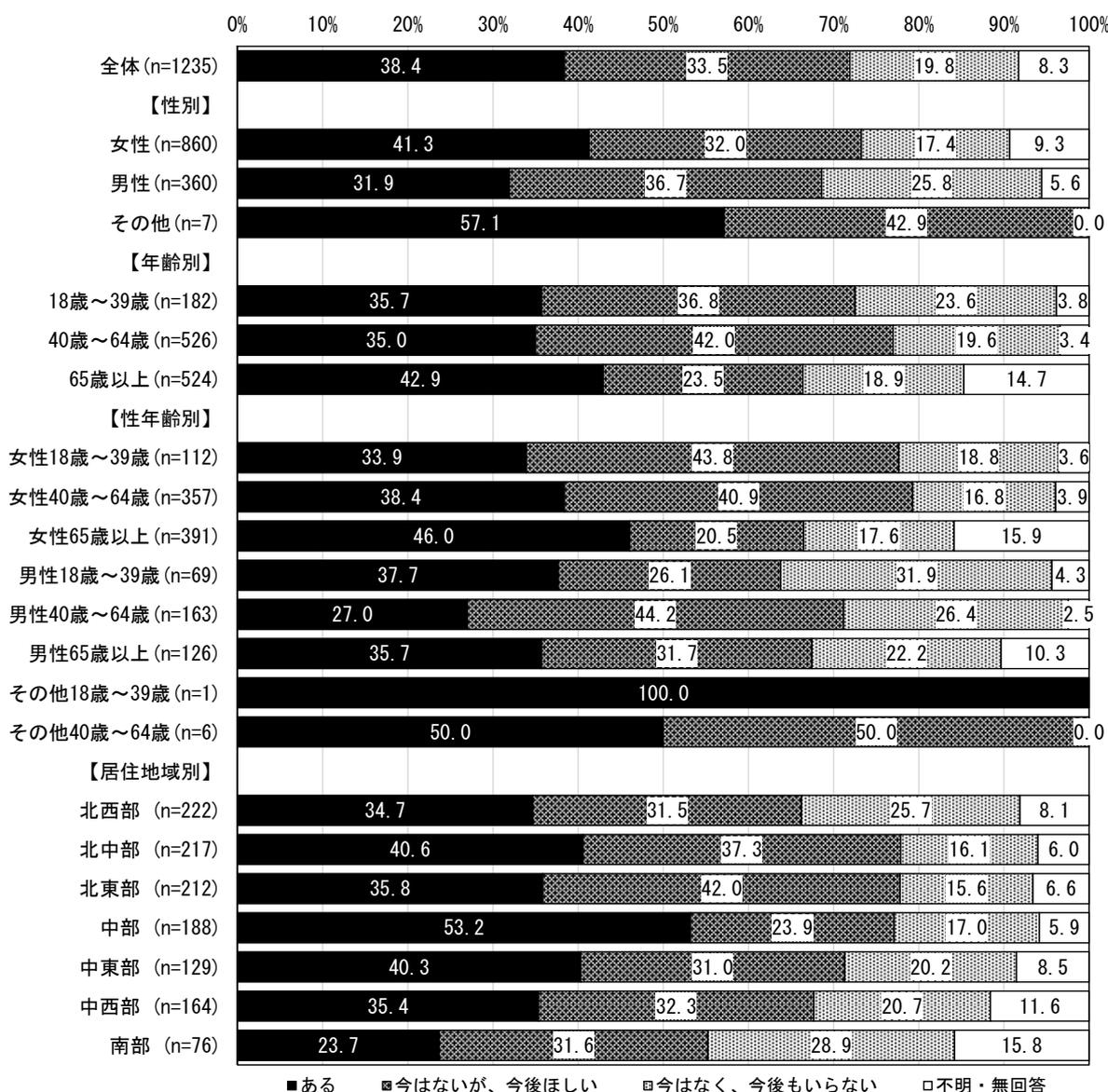
また、北西部では「医療機関や福祉施設が整っているから」、北中部では「地域の環境がよいから」、北東部では「地域の環境がよいから」と「災害などが少なく安心して暮らせるから」、中部では「買い物や交通の便がよいから」、南部では「生まれ育った地域だから」が、他地域より多くなっています。

単位: %	全体 n=862	居住地域別						
		北西部 n=160	北中部 n=160	北東部 n=159	中部 n=127	中東部 n=90	中西部 n=106	南部 n=44
買い物や交通の便がよいから	57.9	60.0	48.1	58.5	68.5	53.3	60.4	59.1
住みなれた地域だから	55.8	57.5	58.8	49.1	52.8	53.3	62.3	65.9
地域の環境がよいから	47.0	41.9	55.0	69.2	42.5	37.8	31.1	22.7
災害などが少なく安心して暮らせるから	27.3	26.3	31.9	35.8	22.8	15.6	26.4	15.9
家族や親戚、知人がいるから	23.2	27.5	22.5	17.0	28.3	22.2	23.6	22.7
医療機関や福祉施設が整っているから	17.2	23.8	18.1	20.8	17.3	10.0	10.4	9.1
生まれ育った地域だから	14.3	17.5	10.0	9.4	19.7	11.1	16.0	27.3
近所づきあいがしやすいから	10.6	10.6	7.5	8.2	11.0	16.7	14.2	11.4
地域の活動や交流が活発だから	2.3	0.6	1.3	3.1	3.9	2.2	2.8	4.5
その他	3.4	2.5	1.3	3.1	2.4	7.8	4.7	2.3
不明・無回答	0.1	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0

※下線太文字の項目は、居住地域別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

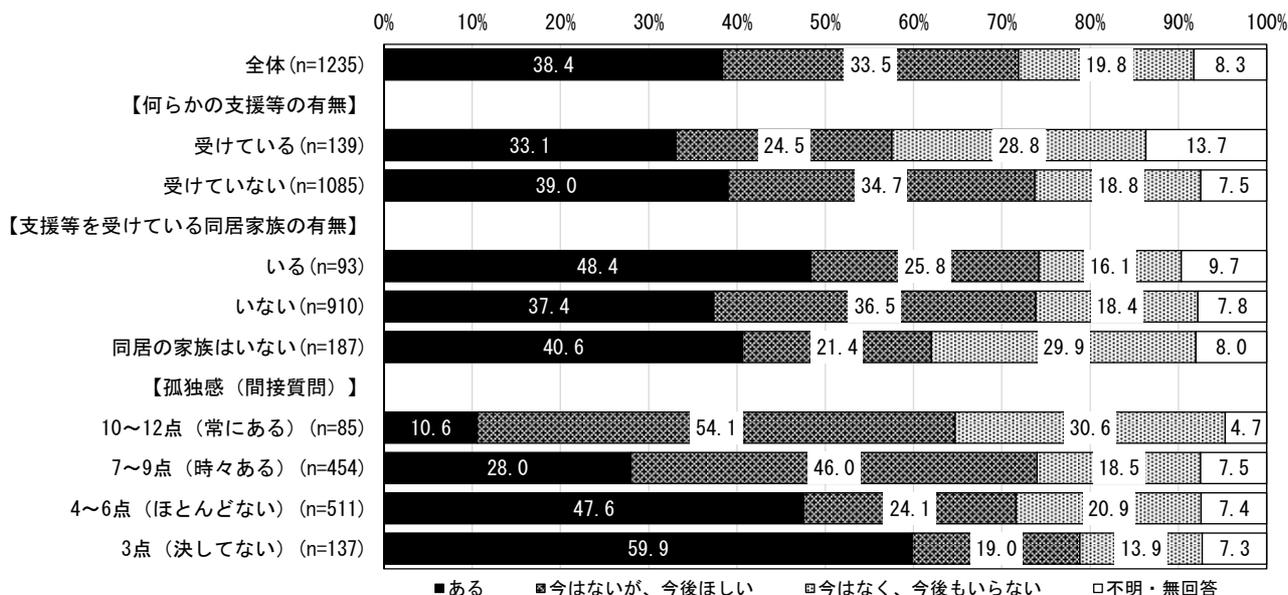
問2-9 ご自宅、学校、職場以外に、あなたには安心できる、人とのつながりを実感できる場所・活動（居場所）はありますか。（〇は1つ）

- 居場所について「ある」が38.4%で最も多く、「今はないが、今後ほしい」（33.5%）、「今はなく、今後もいらない」（19.8%）がつついています。
- 性別でみると、男女とも「ある」が最も多くなっています。また、女性では「ある」が男性より多く、男性では「今はなく、今後もいらない」が女性より多くなっています。
- 年齢別でみると、65歳以上では「ある」、40歳～64歳では「今はないが、今後ほしい」が他年齢より多くなっています。
- 性年齢別でみると、女性18歳～39歳や女性40歳～64歳、男性40歳～64歳では「今はないが、今後ほしい」、女性65歳以上では「ある」が他より多くなっています。
- 居住地域別でみると、北東部では「今はないが、今後ほしい」、中部では「ある」、中西部と南部では「今はなく、今後もいらない」が他地域より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

- 居場所について、回答者が支援等を受けているかどうかでみると、支援等を受けている人では、「今はなく、今後もいらない」が支援等を受けていない人より多くなっています。また、支援を受けていない人では、「今はないが、今後ほしい」が支援等を受けている人より多くなっています。
- 居場所について、支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では「ある」が、支援等を受けている同居家族がいない人より多くなっています。
- 居場所について、孤独感の状況でみると、孤独感が常にある人では「今はないが、今後ほしい」と「今はなく、今後もいらない」、孤独感が時々ある人では「今はないが、今後ほしい」、孤独感がほとんどない人と決してない人では「ある」が、他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問2-9-付問 地域での居場所はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

※問2-9で「1 ある」「2 今はないが、今後ほしい」と回答した方が対象

- 現在の居場所もしくは今後ほしい居場所の内容をみると、「趣味などのサークル活動」が40.2%で最も多く、「喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店」(22.2%)、「公共施設(図書館、公民館など)」(22.1%)がつづいています。
- 性年齢別でみると、男性18歳～39歳では「喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店」、それ以外では「趣味などのサークル活動」が最も多くなっています。
また、女性18歳～39歳と男性18歳～39歳では「喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店」、女性40歳～64歳では「ボランティア・社会貢献活動」、女性65歳以上では「自治会・老人クラブなどの地域活動」と「身近なサロン・憩いの場」、男性65歳以上では「自治会・老人クラブなどの地域活動」が他の性年齢と比べて多くなっています。

単位:%	全体 n=888	性年齢別					
		女性			男性		
		18歳～39歳 n=87	40歳～64歳 n=283	65歳以上 n=260	18歳～39歳 n=44	40歳～64歳 n=116	65歳以上 n=85
趣味などのサークル活動	40.2	34.5	41.0	41.5	29.5	39.7	45.9
喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店	22.2	32.2	23.3	14.2	31.8	26.7	21.2
公共施設(図書館、公民館など)	22.1	20.7	19.4	24.2	20.5	21.6	24.7
公園	18.2	24.1	13.8	17.7	27.3	20.7	20.0
ボランティア・社会貢献活動	12.3	6.9	15.5	11.2	13.6	14.7	7.1
自治会・老人クラブなどの地域活動	10.8	2.3	7.4	17.7	0.0	8.6	18.8
身近なサロン・憩いの場	10.8	10.3	9.2	15.4	6.8	5.2	10.6
販売店	7.0	6.9	6.0	6.5	9.1	6.9	9.4
その他	10.8	9.2	11.3	12.3	6.8	8.6	9.4
不明・無回答	6.6	4.6	7.8	7.7	4.5	4.3	7.1

※下線太文字の項目は、性年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 居場所の状況別でみると、『今はないが、今後ほしい』人では「趣味などのサークル活動」や「喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店」「公共施設(図書館、公民館など)」「ボランティア・社会貢献活動」「身近なサロン・憩いの場」が、『ある』人より多くなっています。

単位:%	全体 n=888	居場所の状況	
		ある n=474	今はないが、今後ほしい n=414
趣味などのサークル活動	40.2	36.9	44.0
喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店	22.2	19.2	25.6
公共施設(図書館、公民館など)	22.1	19.0	25.6
公園	18.2	18.4	18.1
ボランティア・社会貢献活動	12.3	10.3	14.5
自治会・老人クラブなどの地域活動	10.8	11.6	9.9
身近なサロン・憩いの場	10.8	6.3	15.9
販売店	7.0	7.4	6.5
その他	10.8	17.5	3.1
不明・無回答	6.6	2.3	11.6

※下線太文字の項目は、居場所の状況別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

問2-10 今後、だれもが暮らしやすい地域をめざすにあたり、住民としてどのようなことに取り組めばよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- だれもが暮らしやすい地域をめざすために、住民が取り組むことについては、「地域とのつながりがない人も含めて、すべての住民が安心して暮らせるまちをつくる」が55.4%で最も多く、「困ったときにお互い助けあえる関係を、住民一人ひとりが隣近所で作る」(40.2%)、「交流の機会となる地域の行事をもっと増やす」(15.3%)がつづいています。
- 年齢別でみると、すべての年齢層で「地域とのつながりがない人も含めて、すべての住民が安心して暮らせるまちをつくる」が最も多くなっています。

また、18歳～39歳では「学校や幼稚園、保育所、こども園などと住民の交流やつながりを深める」や「交流の機会となる地域の行事をもっと増やす」「新築マンションの入居者など、新たに引っ越してきた人との関係づくりを強化する」、65歳以上では「地域とのつながりがない人も含めて、すべての住民が安心して暮らせるまちをつくる」と「困ったときにお互い助けあえる関係を、住民一人ひとりが隣近所で作る」が、他年齢より多くなっています。

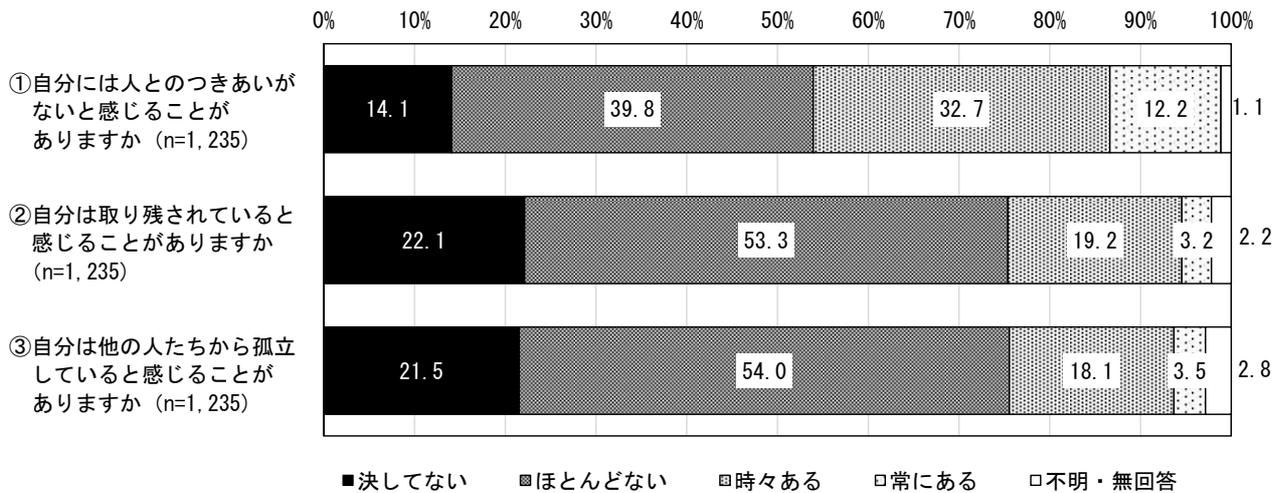
	全体 n=1,235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
地域とのつながりがない人も含めて、すべての住民が安心して暮らせるまちをつくる	55.4	50.5	52.1	60.5
困ったときにお互い助けあえる関係を、住民一人ひとりが隣近所で作る	40.2	30.2	38.2	45.8
交流の機会となる地域の行事をもっと増やす	15.3	21.4	16.9	11.5
自治会や子ども会、老人クラブなどの活動をもっと活発にしていく	14.7	15.9	14.4	14.5
地域で困っていることを共有し支えあうため、住民どうしが意見を出しあう場をつくる	13.3	8.8	13.3	14.5
学校や幼稚園、保育所、こども園などと住民の交流やつながりを深める	12.6	29.7	14.8	4.4
新築マンションの入居者など、新たに引っ越してきた人との関係づくりを強化する	8.1	14.8	8.2	5.7
その他	4.2	4.9	4.2	4.0
不明・無回答	8.4	6.0	5.7	12.0

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

3. 人とのつながりについて

問3-1 人とのつきあいなどに関する①～③のそれぞれの項目について（それぞれで○は1つ）

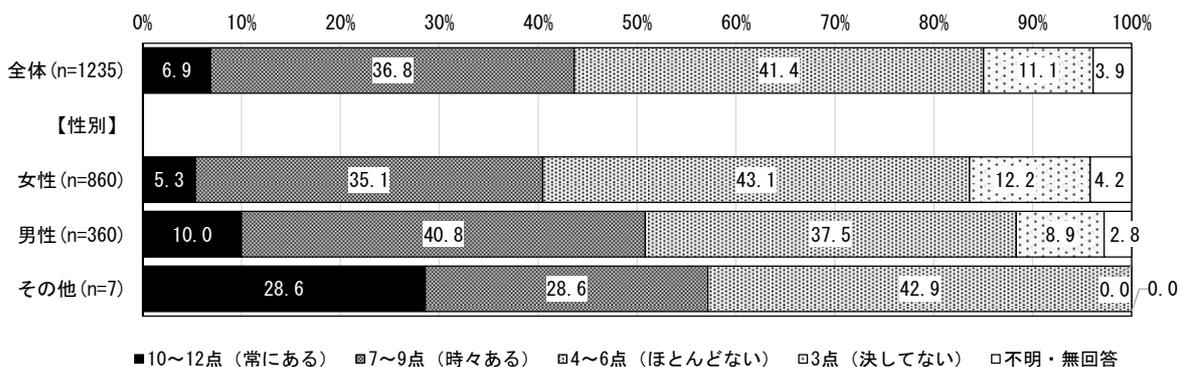
- 『①自分には人とのつきあいが無いと感じることがありますか』については、「ほとんどない」が39.8%で最も多く、「時々ある」(32.7%)、「決してない」(14.1%)がつづいています。
- 『②自分は取り残されていると感じることがありますか』については、「ほとんどない」が53.3%で最も多く、「決してない」(22.1%)、「時々ある」(19.2%)がつづいています。
- 『③自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか』については、「ほとんどない」が54.0%で最も多く、「決してない」(21.5%)、「時々ある」(18.1%)がつづいています。



孤独感の状況

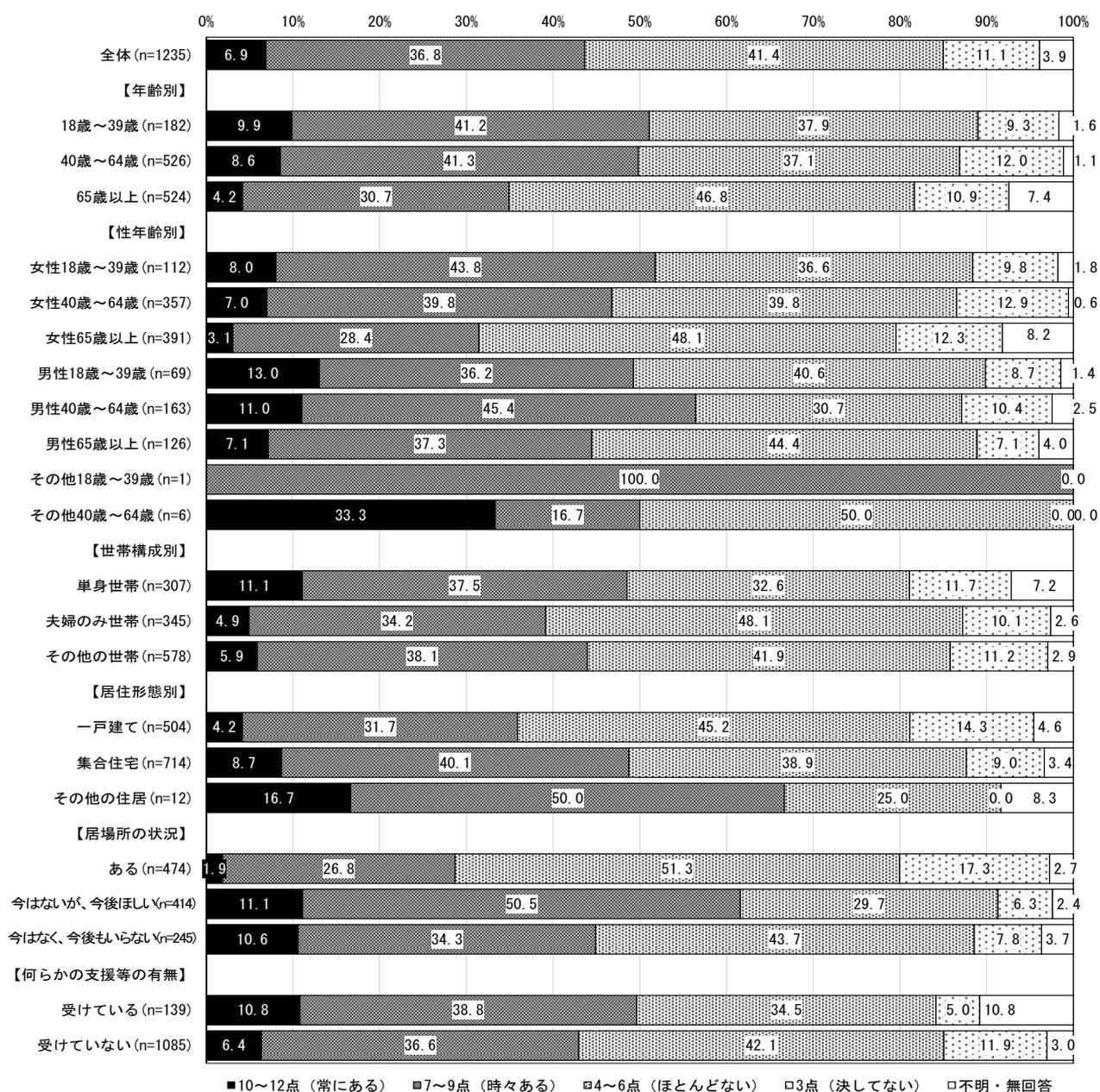
孤独感の状況を把握するため、問3-1①～③について、それぞれの回答を「1. 決してない」を1点、「2. ほとんどない」を2点、「3. 時々ある」を3点、「4. 常にある」を4点としてスコア化し、合計スコアを便宜的に「10～12点」(常にある)、「7～9点」(時々ある)、「4～6点」(ほとんどない)、「3点」(決してない)の4区分に整理。(UCLA 孤独感尺度日本語版の3項目短縮版)

- 孤独感について「10～12点(常にある)」は6.9%、「7～9点(時々ある)」は36.8%、「4～6点(ほとんどない)」は41.4%、「3点(決してない)」は11.1%となっており、孤独感がある人は43.7%となっています。
- 性別でみると、女性では「ほとんどない」、男性とその他では「常にある」が他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

- 孤独感について年齢別でみると、65歳以上では「ほとんどない」が他年齢より多くなっています。
- 孤独感について性年齢別でみると、女性65歳以上では「ほとんどない」、男性18歳～39歳では「常にある」、男性40歳～64歳では「常にある」と「時々ある」が他の性年齢より多くなっています。
- 孤独感について世帯構成別でみると、単身世帯では「常にある」が他世帯より多くなっています。
- 孤独感について居住形態別でみると、一戸建てでは「決してない」、集合住宅では「常にある」と「時々ある」が他の居住形態より多くなっています。
- 孤独感について居場所の状況別でみると、居場所がある人では「ほとんどない」と「決してない」、今は居場所がないが、今後ほしい人では「常にある」と「時々ある」が他より多くなっています。
- 孤独感について回答者が支援等を受けているかどうかでみると、支援等を受けている人では、「常にある」が支援等を受けていない人より多くなっています。また、支援等を受けていない人では、「決してない」が支援等を受けている人より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問3-2 あなたは、今回の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、現在の暮らしについて、より重要と意識するようになったことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、より重要と意識するようになったことについては、「心身の健康管理」が76.9%で最も多く、「家族のつながり」(50.0%)、「知人・友人とのつながり」(41.3%)がつづいています。
- 性年齢別でみると、女性18歳～39歳と女性40歳～64歳では「テレワークなどの就労環境・働き方、オンラインを活用した学習環境」、女性65歳以上では「心身の健康管理」や「家族のつながり」「知人・友人とのつながり」、男性18歳～39歳では「趣味・娯楽」と「テレワークなどの就労環境・働き方、オンラインを活用した学習環境」、男性40歳～64歳では「テレワークなどの就労環境・働き方、オンラインを活用した学習環境」と「特にない」、男性65歳以上では「特にない」が他より多くなっています。

	全体 n=1235	性年齢別					
		女性			男性		
		18歳～39歳 n=112	40歳～64歳 n=357	65歳以上 n=391	18歳～39歳 n=69	40歳～64歳 n=163	65歳以上 n=126
心身の健康管理	76.9	69.6	80.4	81.3	71.0	69.9	72.2
家族のつながり	50.0	46.4	52.7	57.5	37.7	34.4	50.0
知人・友人とのつながり	41.3	45.5	41.5	46.0	37.7	33.7	37.3
趣味・娯楽	26.9	34.8	25.5	25.6	42.0	23.9	25.4
テレワークなどの就労環境・働き方、 オンラインを活用した学習環境	23.4	44.6	34.7	6.9	40.6	30.1	6.3
地域・社会とのつながり	20.7	17.9	20.7	23.5	14.5	19.0	21.4
その他	2.4	3.6	2.2	1.8	0.0	3.7	2.4
特にない	6.0	0.9	2.8	7.2	2.9	10.4	11.1
不明・無回答	1.1	0.0	0.3	2.6	2.9	0.0	0.8

※下線太文字の項目は、性年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

4. 生活する上での課題や福祉サービスについて

問4-1 日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 日頃の生活で感じる悩み・不安については、「高齢になってからのひとり暮らし」が34.9%で最も多く、「地震や火事など災害のこと」(33.6%)、「からだの健康、健康診査のこと」(32.5%)、「家族の介護・世話」(24.8%)がつついています。
- 性年齢別でみると、女性18歳～39歳では「子どもの教育や将来のこと」と「子育てのこと」、女性40歳～64歳では「家族の介護・世話」と「子どもの教育や将来のこと」、女性65歳以上では「地震や家事などの災害のこと」や「からだの健康、健康診査のこと」「自分の子どもなどから介護・世話を受けること」などが他の性年齢より多くなっています。

また、男性18歳～39歳では「子どもの教育や将来のこと」や「子育てのこと」「仕事がないこと、失業の不安など」、男性40歳～64歳では「子どもの教育や将来のこと」と「仕事がないこと、失業の不安など」、男性65歳以上では「高齢になってからのひとり暮らし」が他の性年齢より多くなっています。

単位:%	全体 n=1235	性年齢別					
		女性			男性		
		18歳～39歳 n=112	40歳～64歳 n=357	65歳以上 n=391	18歳～39歳 n=69	40歳～64歳 n=163	65歳以上 n=126
高齢になってからのひとり暮らし	34.9	18.8	37.8	38.4	11.6	32.5	43.7
地震や火事など災害のこと	33.6	33.9	35.6	40.9	14.5	23.3	29.4
からだの健康、健康診査のこと	32.5	20.5	32.5	37.6	27.5	30.1	34.1
家族の介護・世話	24.8	13.4	33.3	22.0	17.4	31.3	16.7
福祉や介護サービスの費用負担	20.9	8.0	21.0	26.3	5.8	19.0	27.0
高齢者が地域で自立して生活すること	20.1	3.6	18.8	27.9	2.9	18.4	26.2
自分の子どもなどから介護・世話をうけること	16.5	2.7	12.9	29.4	1.4	9.8	18.3
休日や夜間の医療体制	16.4	12.5	15.4	22.5	7.2	12.9	13.5
救急医療の体制	15.7	13.4	14.0	20.7	8.7	11.7	13.5
子どもの教育や将来のこと	14.2	43.8	20.4	1.0	20.3	19.0	1.6
食生活に関すること	11.9	14.3	9.0	12.0	10.1	13.5	16.7
こころの健康に関すること	11.2	12.5	11.5	10.5	14.5	12.3	7.1
地域の治安のこと	9.9	16.1	12.3	5.4	17.4	8.6	8.7
子育てのこと	8.9	36.6	9.5	0.0	17.4	12.3	0.0
仕事がないこと、失業の不安など	8.4	10.7	10.9	1.8	15.9	16.0	5.6
買い物が不便なこと	7.9	7.1	6.7	9.5	4.3	4.3	11.1
地域との関わりが薄い・ないこと	7.8	2.7	9.0	6.9	7.2	9.2	10.3
かかりつけ医・歯科医・薬局がないこと	6.6	5.4	10.6	2.0	5.8	9.8	5.6
交通の便がよくないこと	5.9	5.4	5.6	7.7	2.9	3.7	5.6
障害のある人が地域で自立して生活すること	4.8	2.7	4.5	4.9	1.4	8.0	5.6
消費者問題や特殊詐欺に関すること	4.1	4.5	3.9	6.4	2.9	1.8	1.6
ひきこもりに関すること	2.4	1.8	2.5	2.8	5.8	1.2	1.6
言葉の問題、日本語が書けない、読めないこと	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.8
その他	1.5	2.7	1.1	2.0	1.4	1.2	0.0
特になし	10.6	8.9	9.2	11.0	20.3	11.0	8.7
不明・無回答	1.6	2.7	0.3	2.3	4.3	0.6	2.4

※下線太文字の項目は、性年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

- 日頃の生活で感じる悩み・不安について、回答者が支援等を受けているかどうかでみると、支援等を受けている人では、「こころの健康に関すること」や「食生活に関すること」、「仕事がないこと、失業の不安など」「買い物が不便なこと」「交通の便がよくないこと」「障害のある人が地域で自立して生活すること」が、支援等を受けていない人より多くなっています。
- 日頃の生活で感じる悩み・不安について、支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では、「家族の介護・世話」や「こころの健康に関すること」「仕事がないこと、失業の不安など」「障害のある人が地域で自立して生活すること」が、支援等を受けていない同居家族がいない人より多くなっています。

	全体 n=1235	何らかの支援等の有無		支援等を受けている同居家族の有無	
		受けている n=139	受けていない n=1085	いる n=93	いない n=910
高齢になってからのひとり暮らし	34.9	39.6	34.1	35.5	31.0
地震や火事など災害のこと	33.6	36.7	33.1	34.4	32.4
からだの健康、健康診査のこと	32.5	36.0	32.0	31.2	32.0
家族の介護・世話	24.8	13.7	26.2	55.9	24.7
福祉や介護サービスの費用負担	20.9	20.9	20.8	25.8	19.8
高齢者が地域で自立して生活すること	20.1	18.7	20.3	21.5	19.5
自分の子どもなどから介護・世話をうけること	16.5	22.3	15.9	19.4	16.8
休日や夜間の医療体制	16.4	12.2	16.9	16.1	16.7
救急医療の体制	15.7	14.4	15.9	11.8	16.7
子どもの教育や将来のこと	14.2	7.9	15.1	17.2	16.9
食生活に関すること	11.9	20.1	10.6	11.8	10.3
こころの健康に関すること	11.2	22.3	9.7	17.2	10.0
地域の治安のこと	9.9	8.6	10.0	8.6	10.2
子育てのこと	8.9	5.8	9.4	7.5	10.8
仕事がないこと、失業の不安など	8.4	18.7	7.0	17.2	7.6
買い物が不便なこと	7.9	12.2	6.8	11.8	7.6
地域との関わりが薄い・ないこと	7.8	10.1	7.6	8.6	7.6
かかりつけ医・歯科医・薬局がないこと	6.6	2.9	7.1	6.5	6.5
交通の便がよくないこと	5.9	10.8	5.1	3.2	5.6
障害のある人が地域で自立して生活すること	4.8	9.4	4.2	14.0	4.1
消費者問題や特殊詐欺に関すること	4.1	5.8	3.9	6.5	4.2
ひきこもりに関すること	2.4	5.8	2.0	5.4	2.2
言葉の問題、日本語が書けない、読めないこと	0.2	0.7	0.1	0.0	0.1
その他	1.5	2.2	1.5	1.1	1.1
特になし	10.6	5.8	11.3	3.2	11.6
不明・無回答	1.6	3.6	1.4	1.1	1.9

※下線太文字の項目は、何らかの支援等の有無別、支援等を受けている同居家族の有無別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

- 日頃の生活で感じる悩み・不安について、孤独感の状況別でみると、孤独感が常にある人では「高齢になってからのひとり暮らし」や「からだの健康、健康診査のこと」「福祉や介護サービスの費用負担」「こころの健康に関すること」「食生活に関すること」「仕事がないこと、失業の不安など」「かかりつけ医・歯科医・薬局がないこと」が、他より多くなっています。

また、孤独感が時々ある人では「高齢になってからのひとり暮らし」や「からだの健康、健康診査のこと」「こころの健康に関すること」「子育てのこと」「仕事がないこと、失業の不安など」が他より多くなっています。

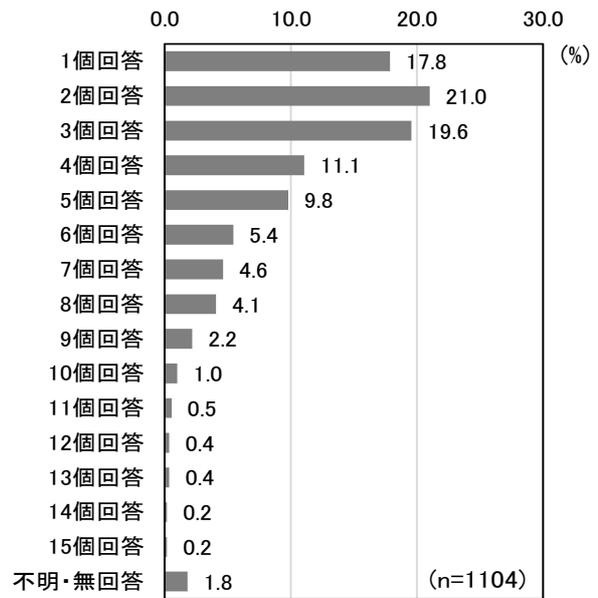
総じて、孤独感がある人は孤独感がない人と比べて、老後をはじめ、心身の健康、経済的なことに関する悩み・不安が多いことがうかがえます。

	全体 n=1235	孤独感の状況			
		10～12点(常にある) n=85	7～9点(時々ある) n=454	4～6点(ほとんどない) n=511	3点(決してない) n=137
高齢になってからのひとり暮らし	34.9	50.6	41.0	29.4	25.5
地震や火事など災害のこと	33.6	31.8	31.7	35.8	30.7
からだの健康、健康診査のこと	32.5	41.2	38.3	29.4	22.6
家族の介護・世話	24.8	21.2	28.4	23.1	24.1
福祉や介護サービスの費用負担	20.9	32.9	22.7	18.0	19.7
高齢者が地域で自立して生活すること	20.1	22.4	21.1	19.6	16.1
自分の子どもなどから介護・世話をうけること	16.5	18.8	15.9	17.4	14.6
休日や夜間の医療体制	16.4	16.5	16.1	16.2	16.1
救急医療の体制	15.7	15.3	15.6	15.9	13.9
子どもの教育や将来のこと	14.2	12.9	16.7	13.7	11.7
食生活に関すること	11.9	22.4	14.1	9.8	5.1
こころの健康に関すること	11.2	23.5	16.7	6.1	3.6
地域の治安のこと	9.9	10.6	9.5	9.6	9.5
子育てのこと	8.9	11.8	13.9	6.5	2.2
仕事がないこと、失業の不安など	8.4	22.4	12.6	4.7	1.5
買い物が不便なこと	7.9	11.8	8.6	7.8	3.6
地域との関わりが薄い・ないこと	7.8	21.2	12.1	3.7	1.5
かかりつけ医・歯科医・薬局がないこと	6.6	14.1	10.4	3.3	1.5
交通の便がよくないこと	5.9	9.4	7.0	5.1	3.6
障害のある人が地域で自立して生活すること	4.8	9.4	5.1	3.9	3.6
消費者問題や特殊詐欺に関すること	4.1	1.2	3.5	5.5	2.2
ひきこもりに関すること	2.4	5.9	3.3	1.6	0.7
言葉の問題、日本語が書けない、読めないこと	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0
その他	1.5	1.2	2.0	1.4	1.5
特になし	10.6	3.5	5.9	12.3	24.1
不明・無回答	1.6	0.0	0.7	1.0	2.2

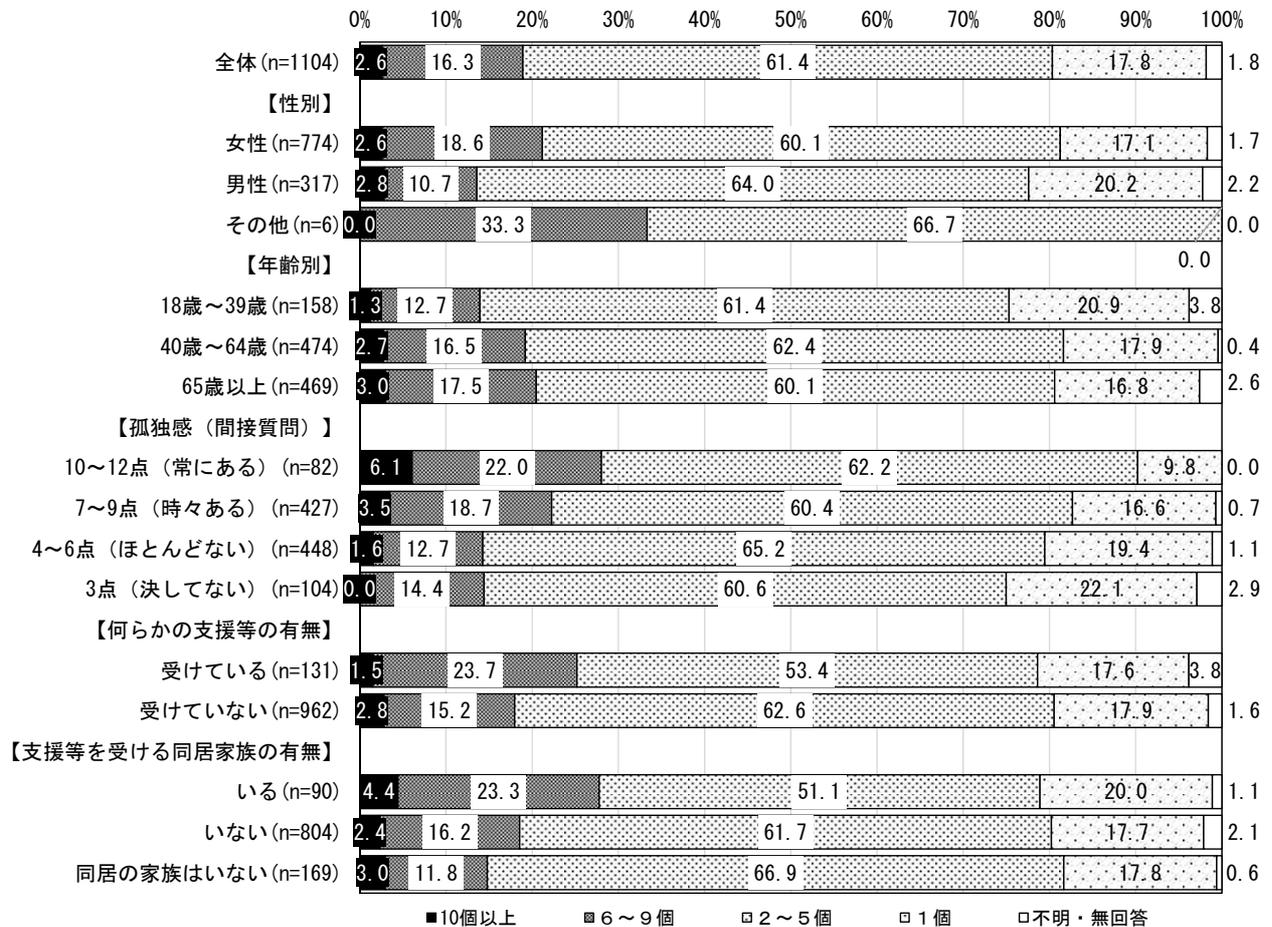
※下線太文字の項目は、孤独感の状況別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

悩み・不安などの重複状況

- 日頃の生活で感じる悩み・不安について、回答者1人あたりの回答件数の分布をみると、「2個回答」が21.0%で最も多く、「3個回答」(19.6%)、「1個回答」(17.8%)、「4個回答」(11.1%)、「5個回答」(9.8%)がつついています。また、6～9個は16.3%、10個以上は2.7%となっています。
 なお、日頃の生活で感じる悩み・不安の平均値は3.7個となっています。



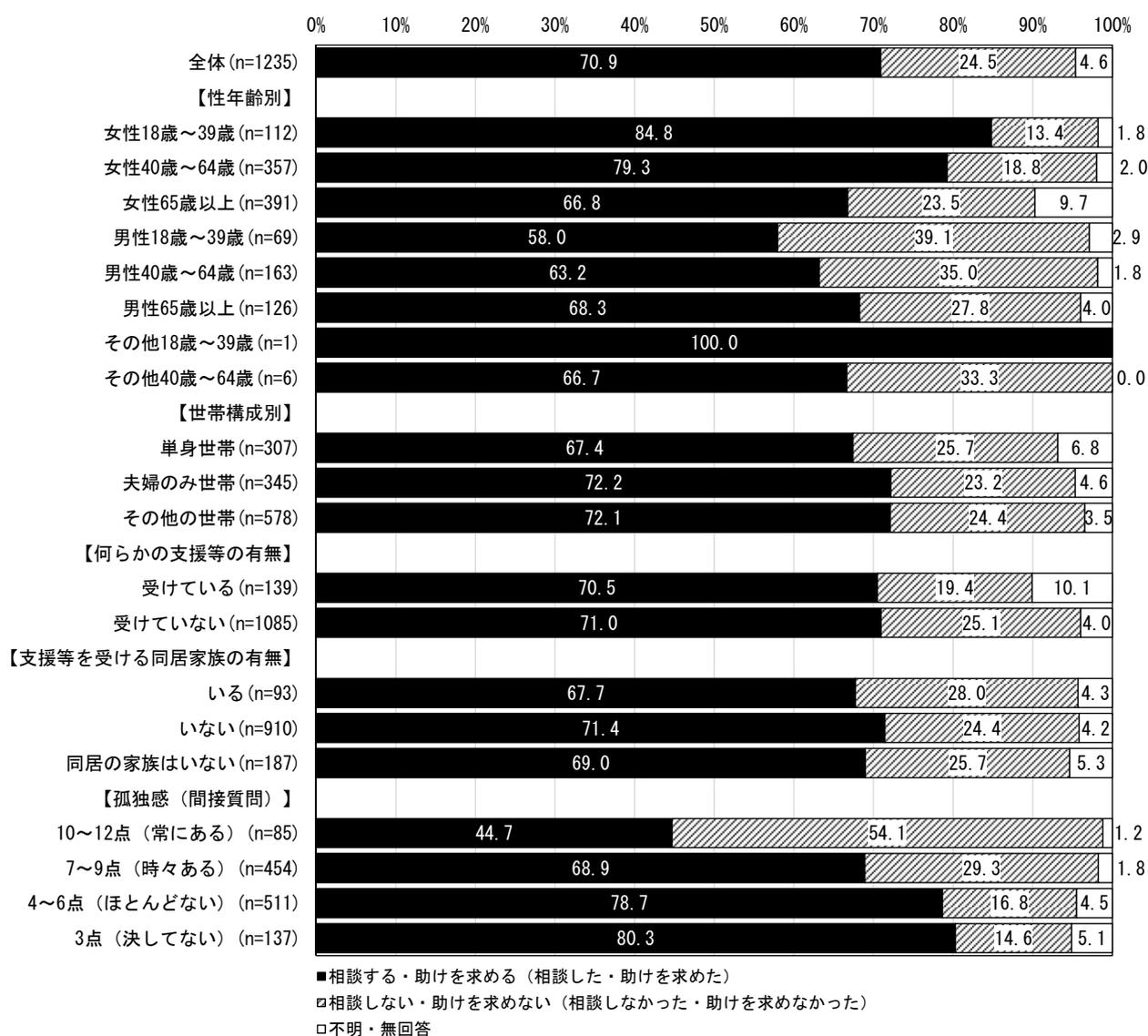
- 孤独感の状況別でみると、孤独感が常にある人では「10個以上」が他より多くなっています。
- 何らかの支援等の有無でみると、何らかの支援等を受けている人では「6～9個」が、支援等を受けていない人より多くなっています。
- 支援等を受けている同居家族の有無でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では「6～9個」が、支援等を受けている同居家族がいない人より多くなっています。



※結果数値は小数第2位を四捨五入しているため、上記の回答者1人あたりの回答件数分布の割合の合計値と合致しない場合があります。
 ※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問4-2 日頃の生活で自身での解決などが難しい悩みや不安を感じた場合、誰かに相談したり、助けを求めますか。(○は1つ)

- 全体では、「相談する・助けを求める(相談した・助けを求めた)」が70.9%、「相談しない・助けを求めない(相談しなかった・助けを求めなかった)」が24.5%となっています。
- 性年齢別でみると、すべてで「相談する・助けを求める(相談した・助けを求めた)」が最も多くなっています。
また、女性18歳~39歳と女性40歳~64歳では「相談する・助けを求める(相談した・助けを求めた)」、男性18歳~39歳と男性40歳~64歳では「相談しない・助けを求めない(相談しなかった・助けを求めなかった)」が他の性年齢より多くなっています。
- 孤独感の状況でみると、孤独感が常にある人では「相談しない・助けを求めない(相談しなかった・助けを求めなかった)」が54.1%となっており、他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問4-2-付問 相談しない・助けを求めない（相談しなかった・助けを求めなかった）理由は何ですか。

※問4-2で「2 相談しない・助けを求めない（相談しなかった・助けを求めなかった）」と回答した方が対象

- 日頃の生活で自身での解決などが難しい悩みや不安を感じた場合、誰かに相談したり、助けを求めない理由をみると、「ぎりぎりまで自分や家族で対応したい」が51.0%で最も多く、「どこ（誰）に相談したり、助けを求めたらよいかわからない」（30.5%）、「気軽に相談・助けを求める相手がない」（26.2%）がつづいています。
- 性年齢別でみると、女性40歳～64歳では「気軽に相談・助けを求める相手がない」、女性65歳以上では「ぎりぎりまで自分や家族で対応したい」、男性18歳～39歳では「気軽に相談・助けを求める相手がない」、男性40歳～64歳では「家の中のことを他人に知られたくない」と「相談・助けを求めることが恥ずかしい」が他の性年齢より多くなっています。
- 支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では、「ぎりぎりまで自分や家族で対応したい」が支援等を受けている同居家族がいない人より多くなっています。

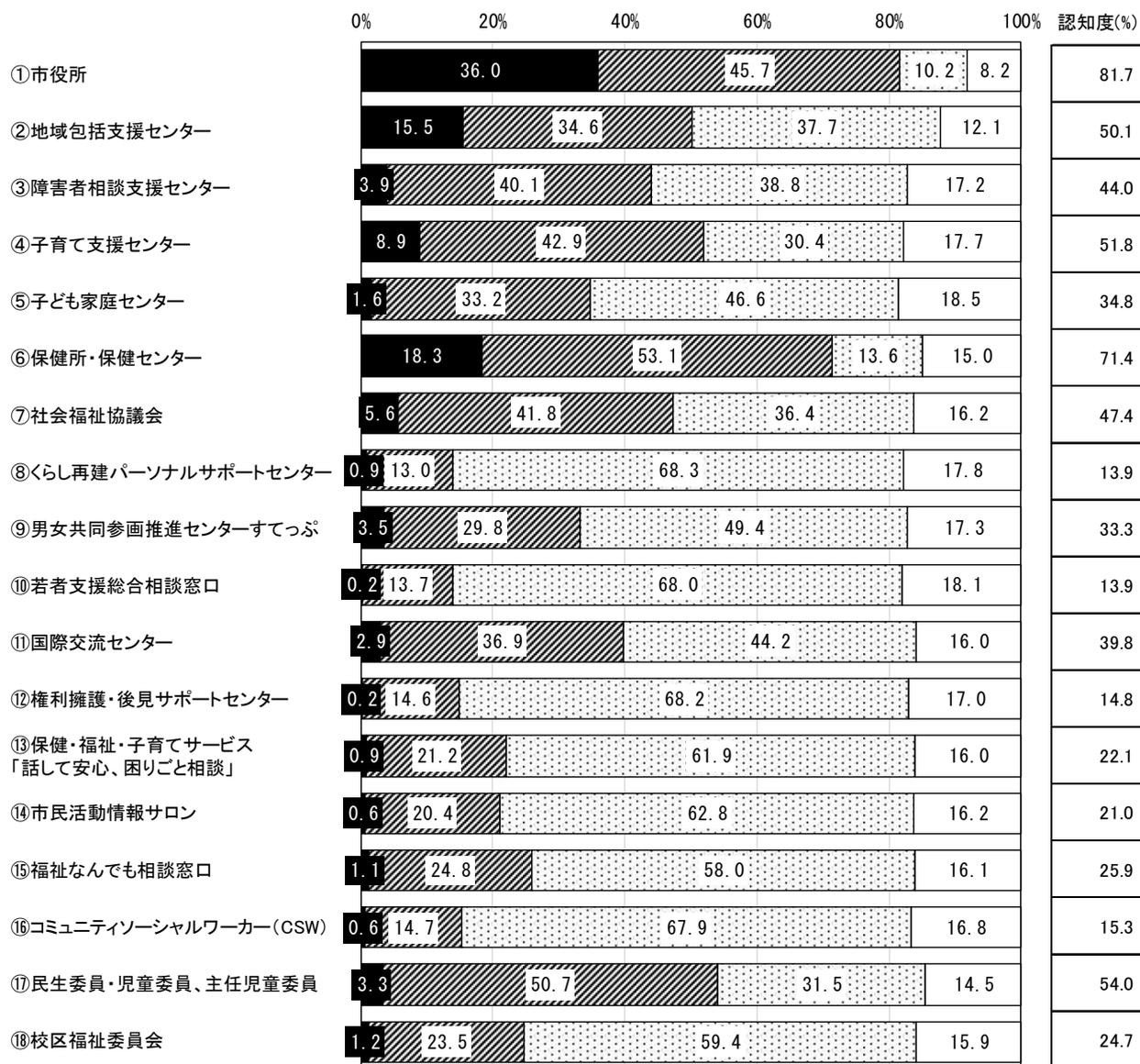
	全体 n=302	性年齢別					
		女性			男性		
		18歳～39歳 n=15	40歳～64歳 n=67	65歳以上 n=92	18歳～39歳 n=27	40歳～64歳 n=57	65歳以上 n=35
ぎりぎりまで自分や家族で対応したい	51.0	46.7	55.2	59.8	40.7	36.8	51.4
どこ（誰）に相談したり、助けを求めたらよいかわからない	30.5	40.0	38.8	23.9	29.6	38.6	20.0
気軽に相談・助けを求める相手がない	26.2	26.7	35.8	17.4	40.7	26.3	20.0
家の中のことを他人に知られたくない	15.9	13.3	9.0	18.5	11.1	26.3	8.6
相談・助けを求めても無駄だから	15.6	20.0	14.9	12.0	22.2	17.5	14.3
相談・助けを求めるのが面倒	12.9	6.7	9.0	12.0	22.2	14.0	17.1
相談・助けを求めることが恥ずかしい	5.0	0.0	1.5	4.3	7.4	10.5	2.9
その他	8.6	6.7	7.5	12.0	0.0	8.8	5.7
不明・無回答	1.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	2.9

	全体 n=302	何らかの支援等の有無		支援等を受けている同居家族の有無	
		受けている	受けていない	いる	いない
		n=27	n=272	n=26	n=222
ぎりぎりまで自分や家族で対応したい	51.0	48.1	51.5	73.1	53.2
どこ（誰）に相談したり、助けを求めたらよいかわからない	30.5	25.9	31.3	23.1	31.1
気軽に相談・助けを求める相手がない	26.2	33.3	25.4	30.8	25.2
家の中のことを他人に知られたくない	15.9	22.2	15.4	11.5	15.3
相談・助けを求めても無駄だから	15.6	18.5	15.4	11.5	18.0
相談・助けを求めるのが面倒	12.9	3.7	14.0	15.4	9.5
相談・助けを求めることが恥ずかしい	5.0	0.0	5.5	0.0	5.4
その他	8.6	11.1	7.7	11.5	5.9
不明・無回答	1.0	3.7	0.7	0.0	0.9

※下線太文字の項目は、性年齢別、何らかの支援等の有無別、支援等を受けている同居家族の有無別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

問4-3 くらしや健康・福祉に関わる相談窓口（相談先）として、知っているものや、利用したことがあるものがありますか。（①～⑱それぞれで○は1つ）

- ①市役所及び⑥保健所・保健センターの認知度（「知っている利用したことがある」＋「知っているが利用したことはない」）は70%～80%を占め、他の相談窓口を大きく上回っています。
- ⑧くらし再建パーソナルサポートセンターや⑩若者支援総合相談窓口、⑫権利擁護・後見サポートセンター、⑯コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度は20%に達していません。



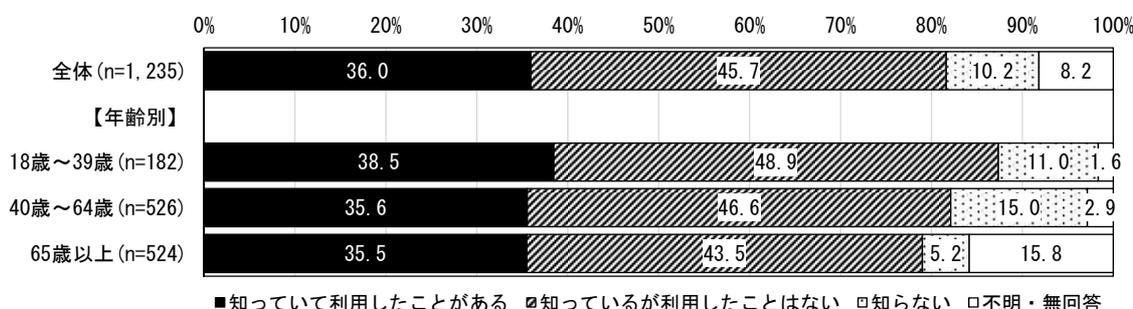
■知っている利用したことがある □知っているが利用したことはない □知らない □不明・無回答

※結果数値は小数第2位を四捨五入しているため、「知っている利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の合計値と認知度が合致しない場合があります。

年齢別、抱える悩み・不安別の利用・認知状況（主な相談窓口を抜粋）

①市役所

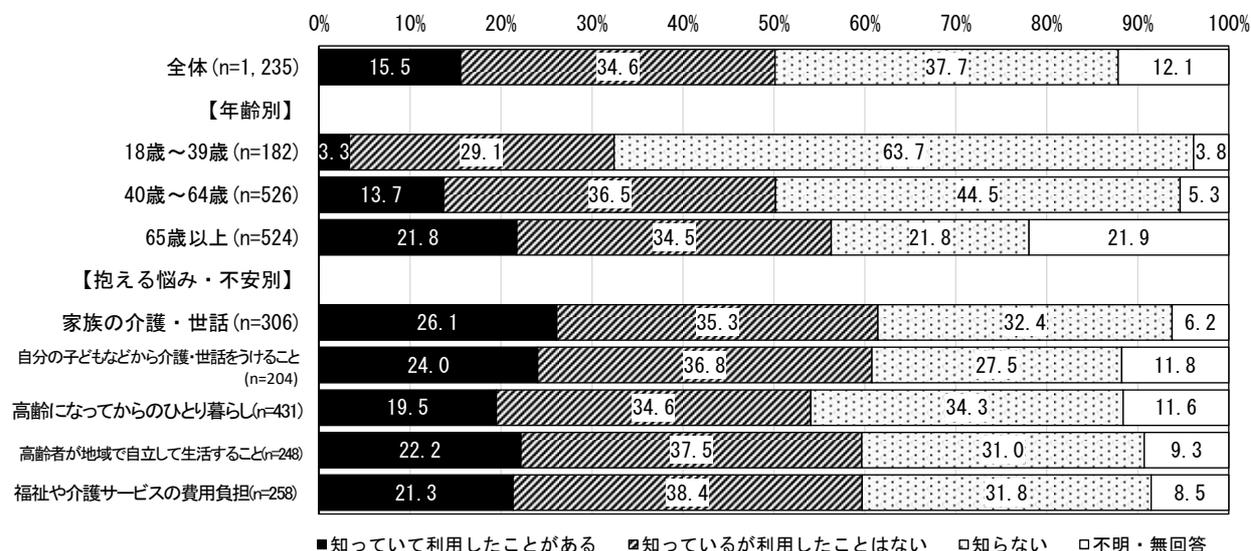
- 相談窓口（相談先）としての市役所の認知度は全体で81.7%となっています。
- 年齢別でみると、40歳～64歳では「知らない」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

②地域包括支援センター

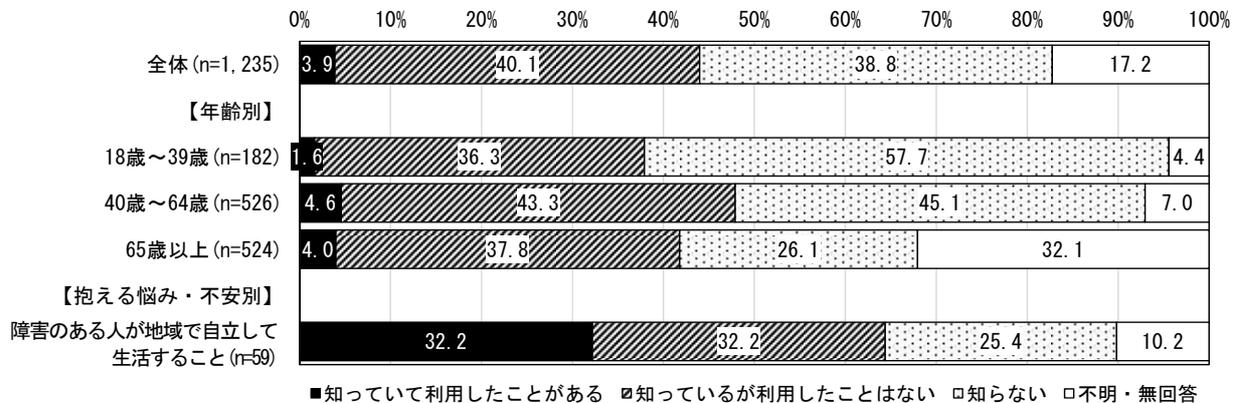
- 相談窓口（相談先）としての地域包括支援センターの認知度は全体で50.1%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「知らない」、65歳以上では「知っていて利用したことがある」が、他年齢より多くなっています。
- 抱える悩み・不安別でみると、高齢者に関する悩み・不安を抱える人では、地域包括支援センターの認知度が60%前後となっていますが、「知らない」も30%前後を占めています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

③障害者相談支援センター

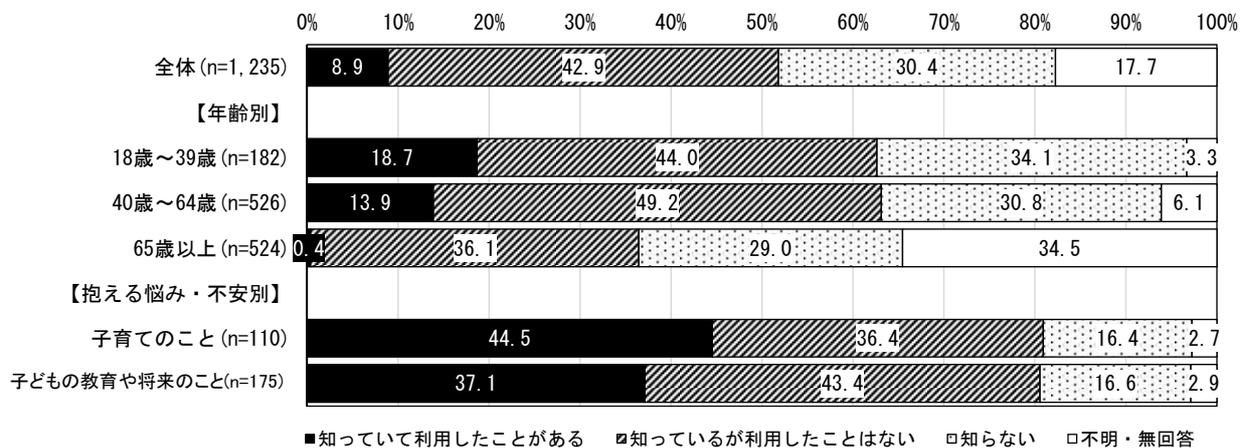
- 相談窓口（相談先）としての障害者相談支援センターの認知度は全体で44.0%となっています。
- 抱える悩み・不安別でみると、障害のある人が地域で自立して生活することに関する悩み・不安を抱える人では、障害者相談支援センターの認知度が64.4%となっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

④子育て支援センター

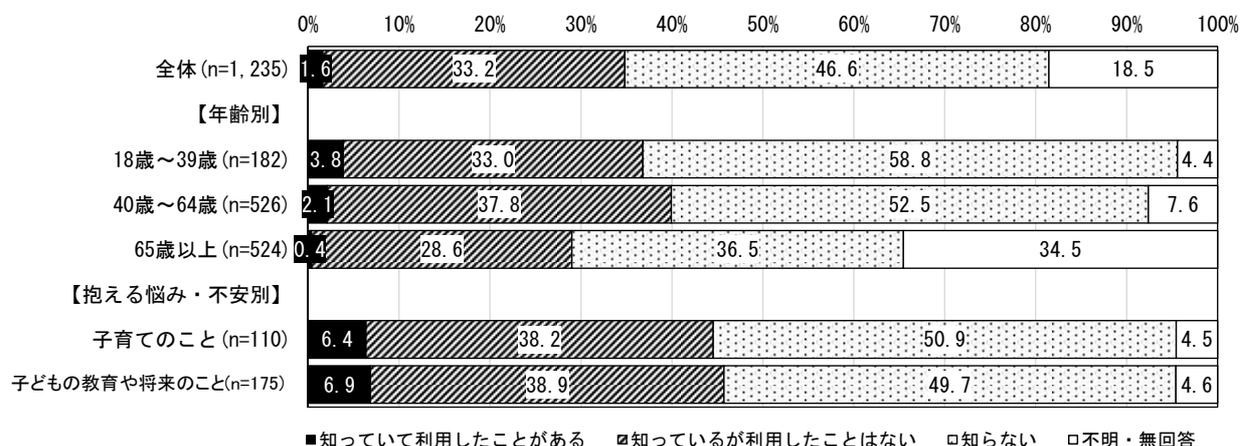
- 相談窓口（相談先）としての子育て支援センターの認知度は全体で51.8%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「知っていて利用したことがある」が65歳以上より多くなっています。
- 抱える悩み・不安別でみると、子育てや子どもの教育や将来のことに関する悩み・不安を抱える人では、子育て支援センターの認知度が80%程度となっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑤子ども家庭センター

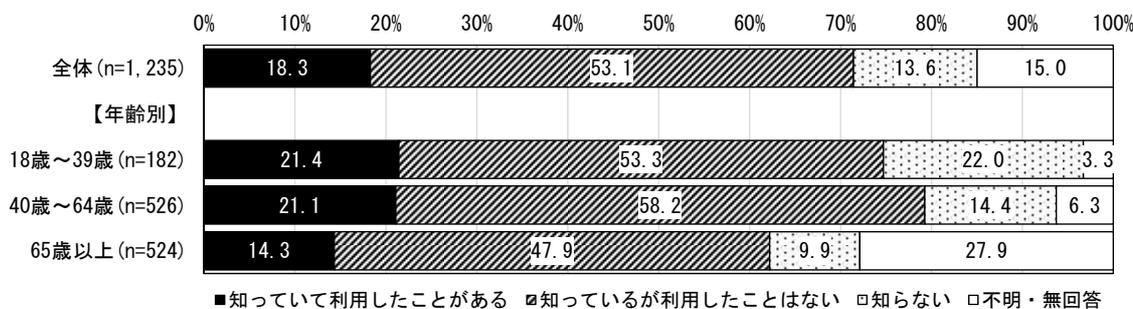
- 相談窓口（相談先）としての子ども家庭センターの認知度は全体で34.8%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「知っているが利用したことがある」が他年齢より多くなっています。
- 抱える悩み・不安別でみると、子育てや子どもの教育や将来のことに関する悩み・不安を抱える人では、子育て支援センターの認知度が40%を超えています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑥保健所・保健センター

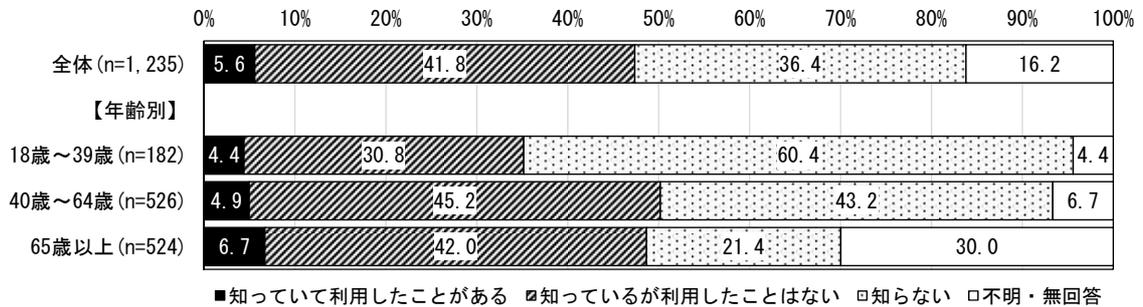
- 相談窓口（相談先）としての保健所・保健センターの認知度は全体で71.4%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「知らない」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑦社会福祉協議会

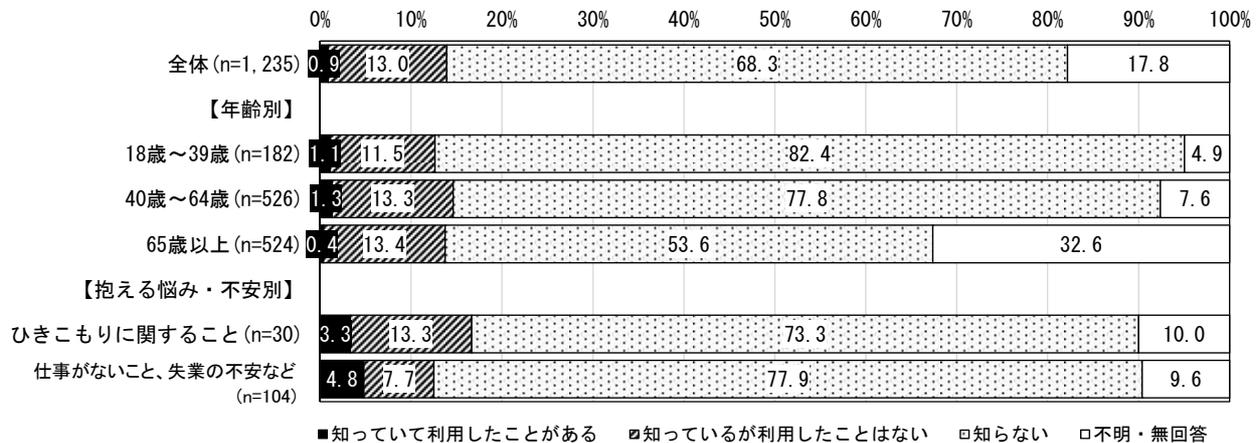
- 相談窓口（相談先）としての社会福祉協議会の認知度は全体で 47.4%となっています。
- 年齢別でみると、18 歳～39 歳では「知らない」、65 歳以上では「知っていて利用したことがある」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑧くらし再建パーソナルサポートセンター

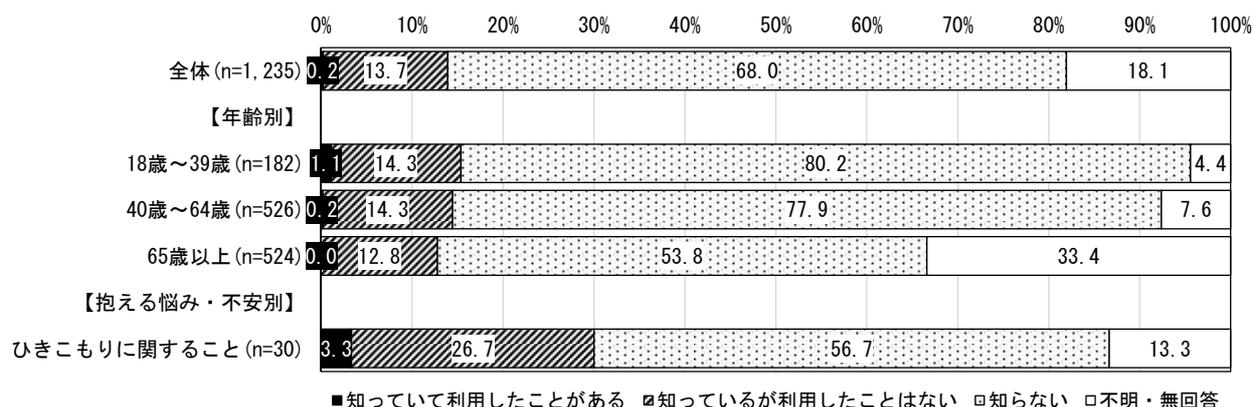
- 相談窓口（相談先）としてのくらし再建パーソナルサポートセンターの認知度は全体で 13.9%となっています。
- 抱える悩み・不安別でみると、「仕事がないこと、失業の不安」を抱える人では、「知っていて利用したことがある」が 4.8%と他より多くなっています。一方で、「ひきこもりに関すること」で悩みを抱える人や「仕事がないこと、失業の不安」を抱える人でも「知らない」が 70%台を占めています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑩若者支援総合相談窓口

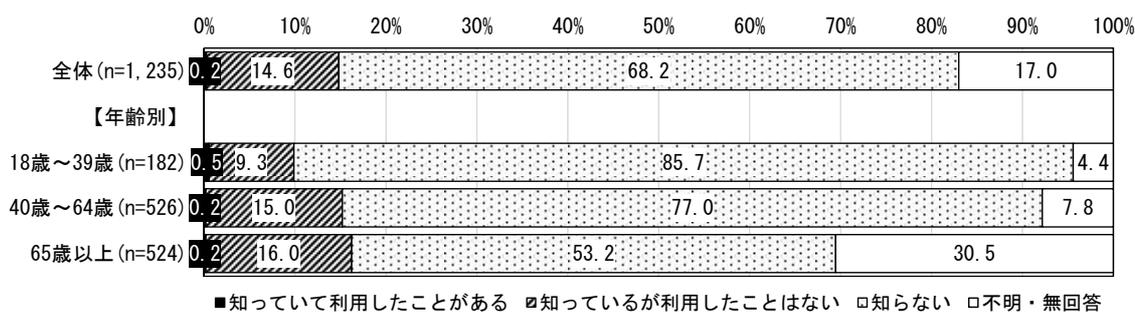
- 若者支援総合相談窓口の認知度は全体で 13.9%となっています。
- 年齢別でみると、割合は非常に低いですが、18歳～39歳では「知っているが利用したことがある」が他年齢より多くなっています。
- 抱える悩み・不安別でみると、「ひきこもりに関すること」で悩み・不安を抱える人では、「知っているが利用したことがある」が 3.3%と他より多く、認知度も 30.0%となっていますが、「知らない」も 56.7%となっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑫権利擁護・後見サポートセンター

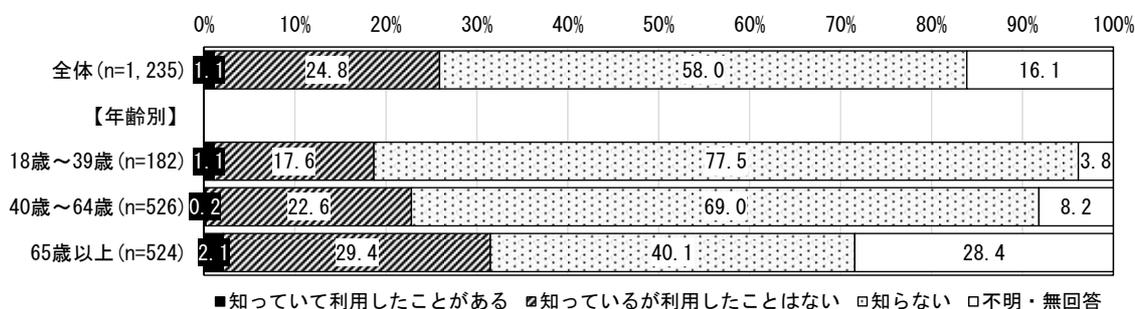
- 相談窓口（相談先）としての権利擁護・後見サポートセンターの認知度は全体で 14.8%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「知らない」、65歳以上では「知っているが利用したことはない」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑮福祉なんでも相談窓口

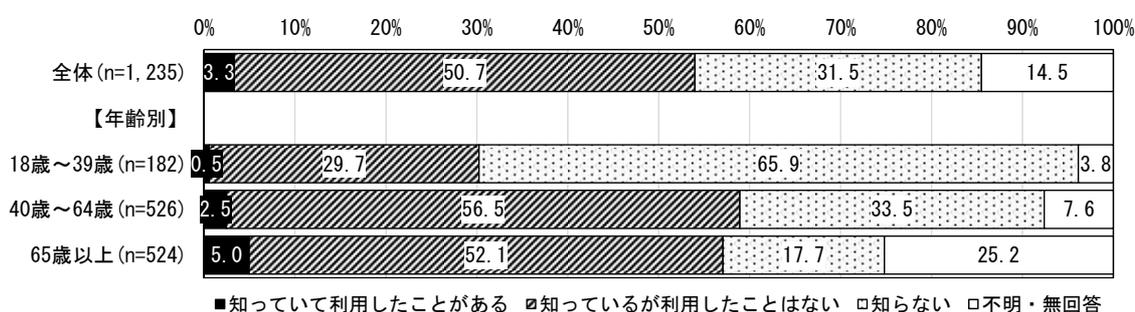
- 福祉なんでも相談窓口の認知度は全体で 25.9%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「知らない」、65歳以上では「知っていて利用したことがある」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑰民生委員・児童委員、主任児童委員

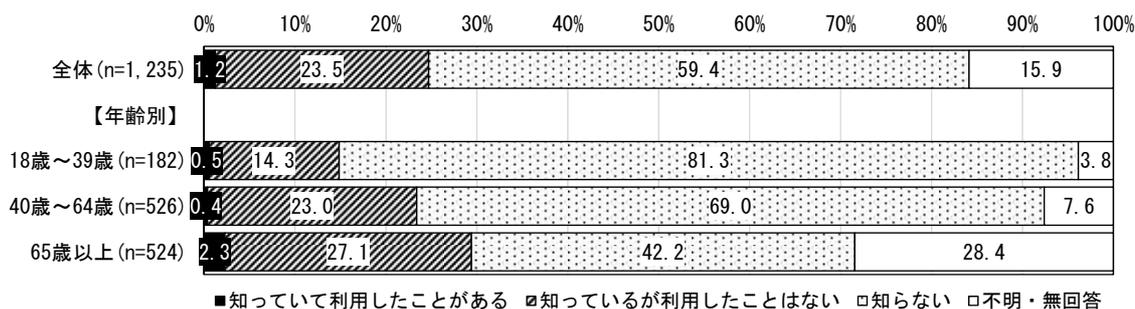
- 相談窓口（相談先）としての民生委員・児童委員、主任児童委員の認知度は全体で 54.0%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「知らない」、65歳以上では「知っていて利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑱校区福祉委員会

- 相談窓口（相談先）としての校区福祉委員会の認知度は全体で 24.7%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「知らない」、65歳以上では「知っていて利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問4-4 健康づくりや福祉について、知りたい情報はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 健康づくりや福祉の知りたい情報については、「福祉サービスの種類、内容」が35.8%で最も多く、「特にない」(32.1%)、「福祉サービスの利用方法」(28.2%)がつづいています。また、健康づくりや福祉について知りたい情報がある人の割合(全体から「特にない」と不明・無回答を引いた値)は63.4%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「保育や子育てに関する情報」、40歳～64歳では「就労に関する情報」、65歳以上では「福祉サービスの利用方法」や「福祉サービスの相談窓口」「介護予防に関する情報」「福祉事業所のサービス内容」が、他年齢より多くなっています。

単位:%	全体 n=1,235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
		福祉サービスの種類、内容	35.8	28.0
福祉サービスの利用方法	28.2	17.6	27.0	33.0
福祉サービスの利用に係る費用	25.5	15.4	26.8	27.7
福祉サービスの相談窓口	19.8	8.8	20.7	22.7
からだの健康に関する情報	15.9	9.9	16.3	17.4
介護予防に関する情報	15.1	3.3	14.1	20.2
福祉事業所のサービス内容	10.2	4.4	8.7	13.7
就労に関する情報	9.2	12.6	14.4	2.9
こころの健康に関する情報	9.2	8.2	11.8	7.1
保育や子育てに関する情報	8.8	31.3	9.5	0.4
各種福祉講座や教室、講習会の開催状況	7.5	6.6	7.2	8.2
福祉ボランティアに関する情報	6.5	4.9	5.9	7.6
その他	0.6	0.0	0.4	1.0
特にない	32.1	36.8	33.8	28.6
不明・無回答	4.5	1.1	1.9	8.4

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 健康づくりや福祉の知りたい情報について、前回調査と比較すると、上位の「福祉サービスの種類、内容」や「福祉サービスの利用方法」「福祉サービスの利用に係る費用」などは大きな差異はありません。

また、「介護予防に関する情報」(15.1%)は前回調査(9.8%)の1.5倍程度、増加しています。

単位:%	今回調査(n=1,235)	前回調査(n=1,522)
福祉サービスの種類、内容	35.8	35.9
福祉サービスの利用方法	28.2	27.1
福祉サービスの利用に係る費用	25.5	24.0
福祉サービスの相談窓口	19.8	14.8
からだの健康に関する情報	15.9	16.6
介護予防に関する情報	15.1	9.8
福祉事業所のサービス内容	10.2	8.3
就労に関する情報	9.2	9.4
こころの健康に関する情報	9.2	8.3
保育や子育てに関する情報	8.8	12.6
各種福祉講座や教室、講習会の開催状況	7.5	7.9
福祉ボランティアに関する情報	6.5	3.4
その他	0.6	1.2
特にない	32.1	26.7
不明・無回答	4.5	6.3

問4-4-付問 健康づくりや福祉について、知りたい情報をどのように入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

- 健康づくりや福祉の情報の入手先については、「広報とよなか（市の広報誌）」が78.3%で最も多く、「市・公共機関のホームページ」（30.9%）、「新聞・雑誌・テレビ」（20.7%）がつづいています。
- 年齢別でみると、すべての年齢で「広報とよなか（市の広報誌）」が最も多くなっています。

また、18歳～39歳では「市・公共機関のホームページ」や「市公式SNS（twitter、Facebook、LINEなど）」「市公式以外のSNS」、40歳～64歳では「広報とよなか（市の広報誌）」と「市・公共機関のホームページ」、65歳以上では「広報とよなか（市の広報誌）」や「新聞・雑誌・テレビ」「知人・友人から」「民生委員・児童委員や校区福祉委員会、自治会など地域の人から」が、他年齢より多くなっています。

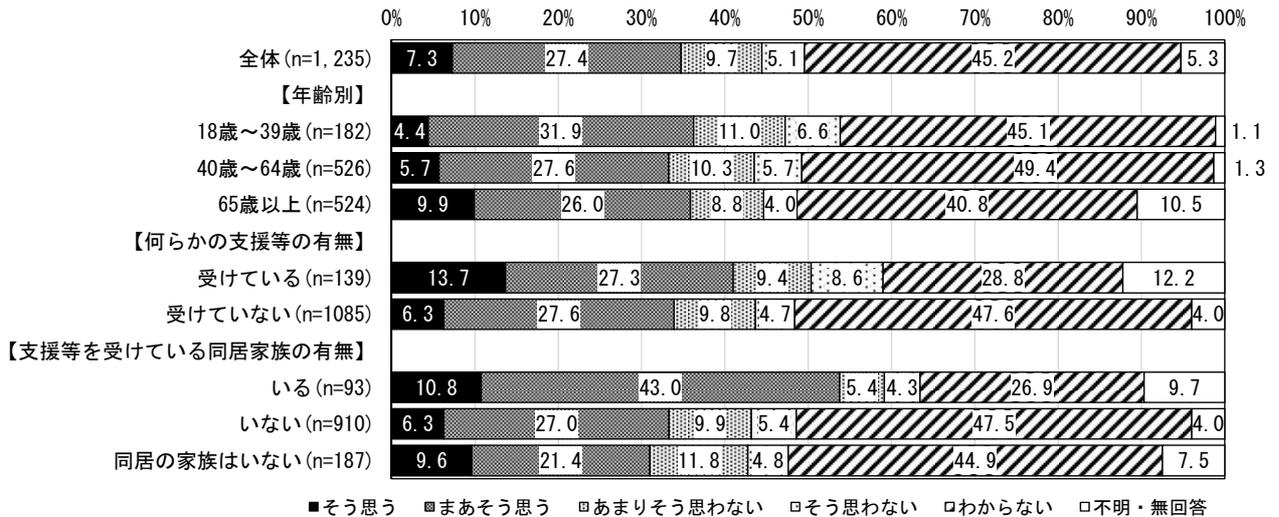
単位:%	全体 n=1,235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
広報とよなか(市の広報誌)	78.3	57.5	82.0	81.8
市・公共機関のホームページ	30.9	41.6	39.9	18.2
新聞・雑誌・テレビ	20.7	8.0	14.8	31.2
知人・友人から	19.2	15.9	16.0	23.6
家族から	11.1	11.5	11.2	10.9
市公式SNS(twitter、Facebook、LINEなど)	10.5	17.7	12.7	5.8
公共施設に置いてあるチラシ	9.6	9.7	9.8	9.4
市が発行する小冊子・パンフレット	8.7	11.5	5.6	10.9
市以外のホームページ	5.7	8.8	7.7	2.7
民生委員・児童委員や校区福祉委員会、自治会など地域の人から	4.0	0.9	0.6	8.5
市公式以外のSNS	2.9	10.6	2.7	0.6
市・専門機関の職員などから	2.4	2.7	1.5	3.3
その他	1.3	0.0	2.1	0.9
特にない	5.1	13.3	4.4	2.7
不明・無回答	1.4	0.0	0.6	2.7

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

問4-5 市の相談支援の取り組みについてどのように感じておられますか。(①~⑥のそれぞれの取り組みについて○は1つ)

①どの窓口で相談しても適切な支援につないでくれる

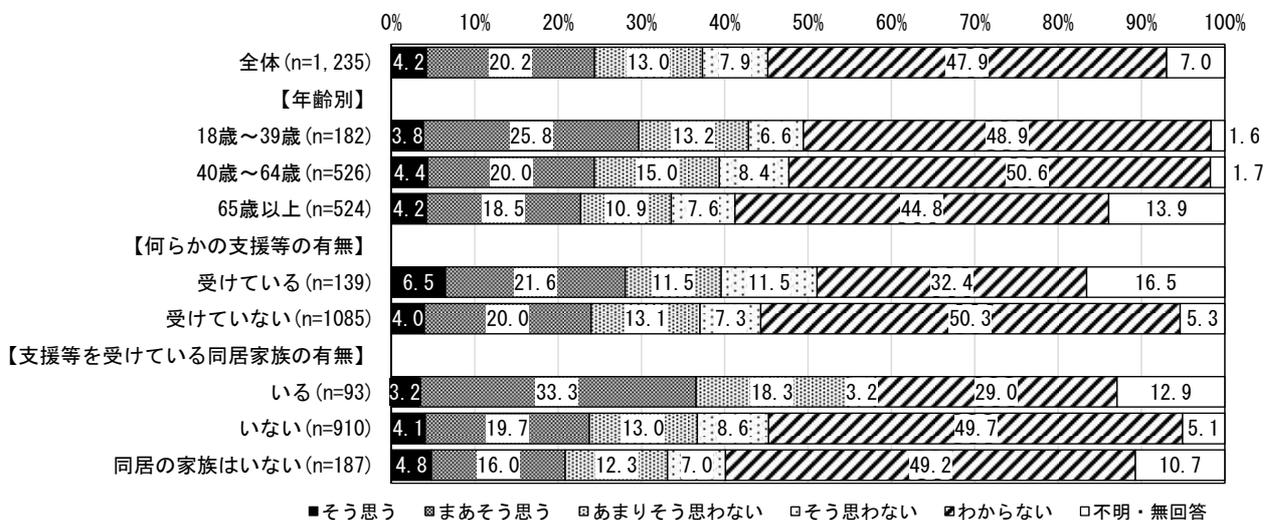
- 『どの窓口で相談しても適切な支援につないでくれる』と思う人(「そう思う」+「まあそう思う」)は、全体で34.7%、支援等を受けている人で41.0%、支援等を受けている同居家族がいる人で53.8%となっています。
- 回答者が支援等を受けているかどうかでみると、支援等を受けている人では「そう思う」が、支援を受けていない人と比べて多くなっています。
- 支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では「まあそう思う」が、他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

②身近な地域で相談できる相談機関が充実している

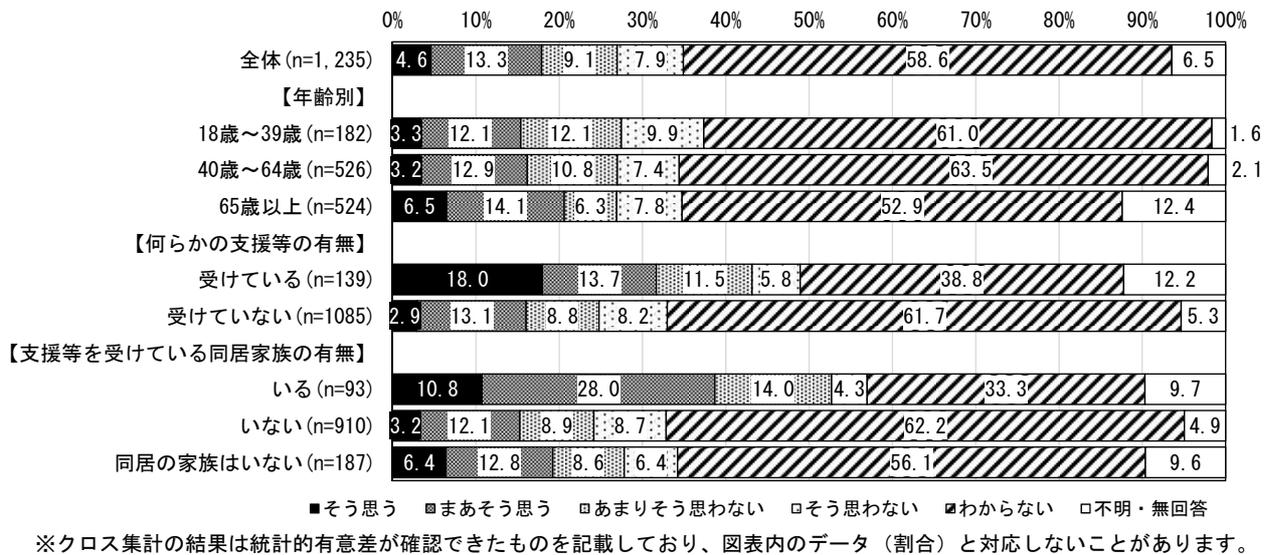
- 『身近な地域で相談できる相談機関が充実している』と思う人(「そう思う」+「まあそう思う」)は、全体で24.4%、支援等を受けている人で28.1%、支援等を受けている同居家族がいる人で36.5%となっています。
- 回答者が支援等を受けているかどうかでみると、支援等を受けている人では「そう思わない」が、支援を受けていない人と比べて多くなっています。
- 支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では「まあそう思う」が、他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

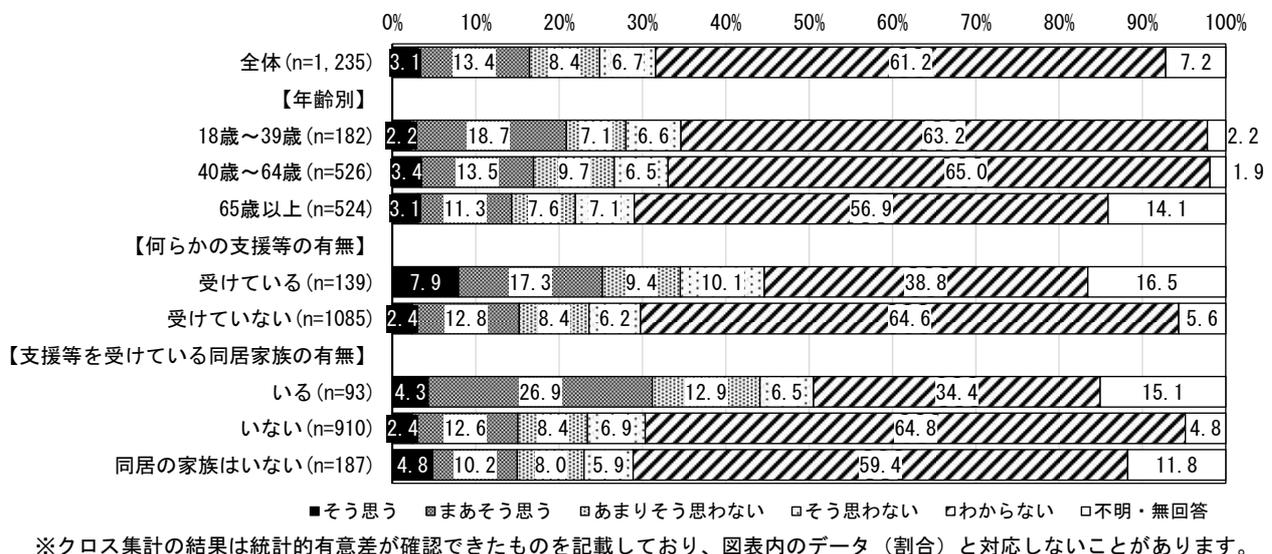
③自宅等に支援者が訪問して支援してくれる

- 『自宅等に支援者が訪問して支援してくれる』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は、全体で17.9%、支援等を受けている人で31.7%、支援等を受けている同居家族がいる人で38.8%となっています。
- 年齢別でみると、65歳以上では「そう思う」が他年齢より多くなっています。
- 回答者が支援等を受けているかどうかでみると、支援等を受けている人では「そう思う」が、支援を受けていない人と比べて多くなっています。
- 支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では「そう思う」と「まあそう思う」が、他より多くなっています。



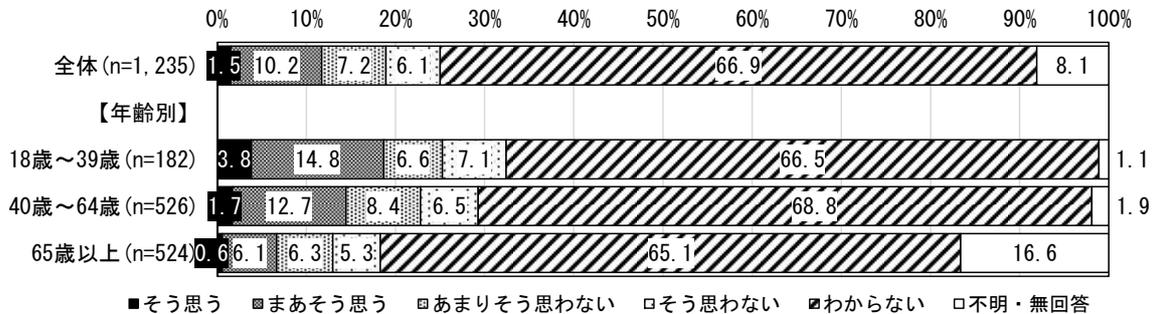
④相談開始から課題が解決するまで継続的に支援してくれる

- 『相談開始から課題が解決するまで継続的に支援してくれる』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は、全体で16.5%、支援等を受けている人で25.2%、支援等を受けている同居家族がいる人で31.2%となっています。
- 回答者が支援等を受けているかどうかでみると、支援等を受けている人では「そう思う」と「まあそう思う」が、支援を受けていない人と比べて多くなっています。
- 支援等を受けている同居家族の有無別でみると、支援等を受けている同居家族がいる人では「まあそう思う」が、他より多くなっています。



⑤就労支援など社会参加に向けた支援をしてくれる

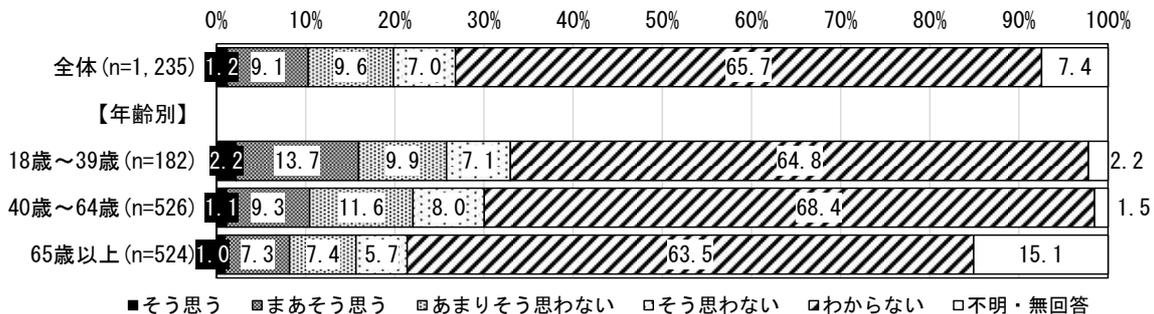
- 『就労支援など社会参加に向けた支援をしてくれる』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は11.7%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「そう思う」、65歳以上では「わからない」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑥属性や世代を超えて市民が交流できる場を整備している

- 『属性や世代を超えて市民が交流できる場を整備している』と思う人（「そう思う」＋「まあそう思う」）は10.3%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「まあそう思う」が他年齢より多くなっています。

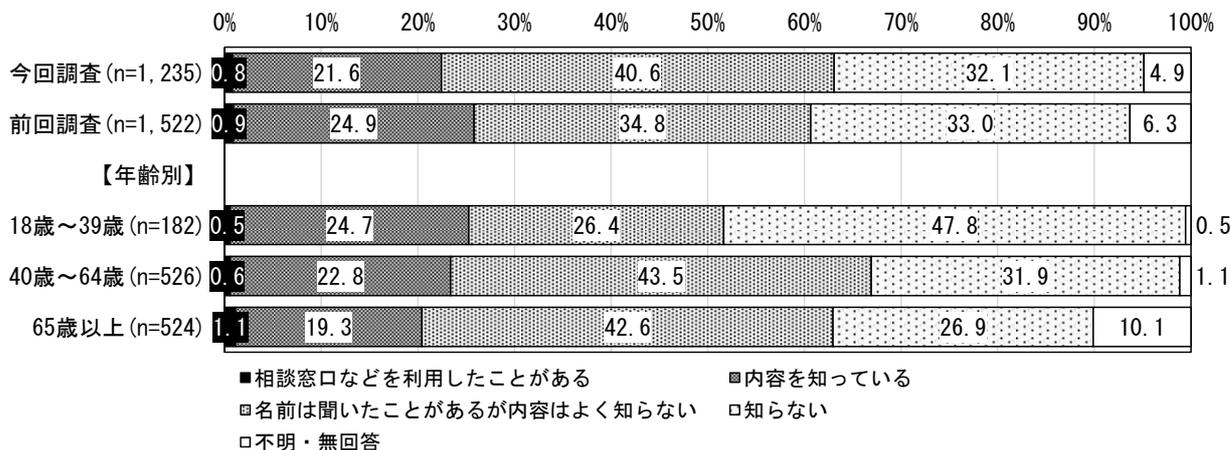


※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問4-6 市民の権利を守るための以下の仕組みについて知っていますか。(①~⑤のそれぞれの項目について○は1つ)

①成年後見制度

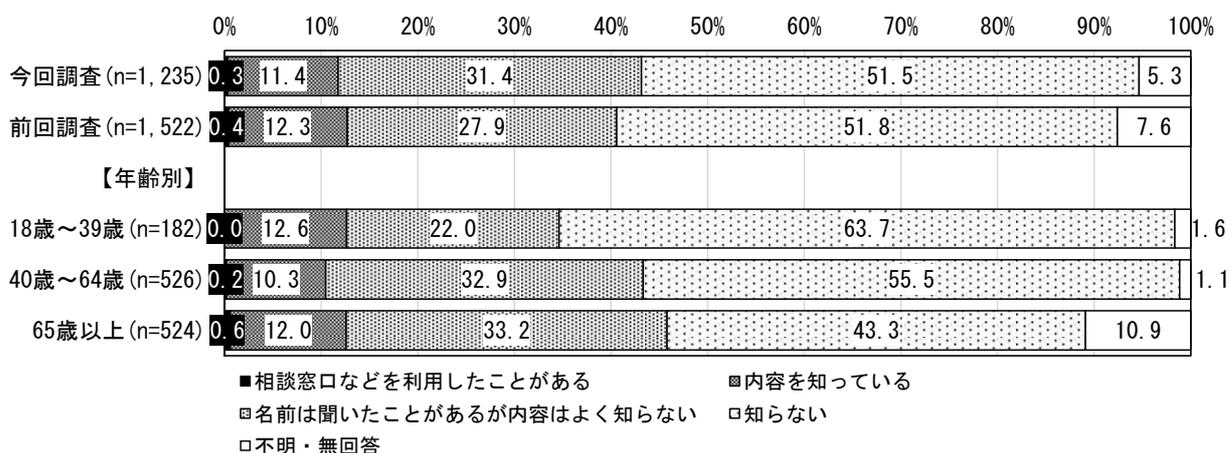
- 成年後見制度を知っている人(「相談窓口などを利用したことがある」+「内容を知っている」+「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」)は63.0%で、前回調査(60.6%)と大きな差異はありません。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

②法定後見制度

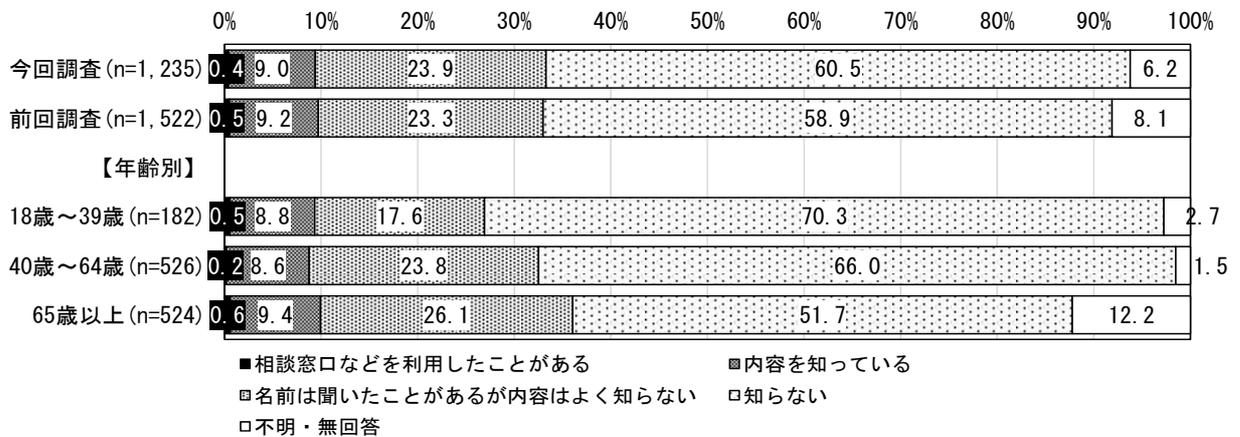
- 法定後見制度を知っている人(「相談窓口などを利用したことがある」+「内容を知っている」+「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」)は43.1%で、前回調査(40.6%)と大きな差異はありません。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

③任意後見制度

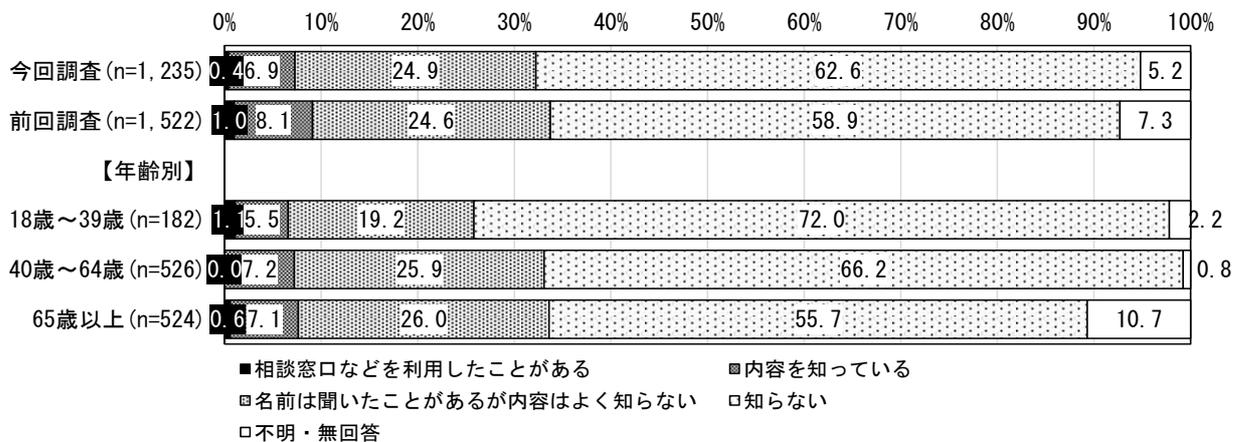
- 任意後見制度を知っている人（「相談窓口などを利用したことがある」＋「内容を知っている」＋「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」）は 33.3%で、前回調査（33.0%）と大きな差異はありません。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

④日常生活自立支援事業

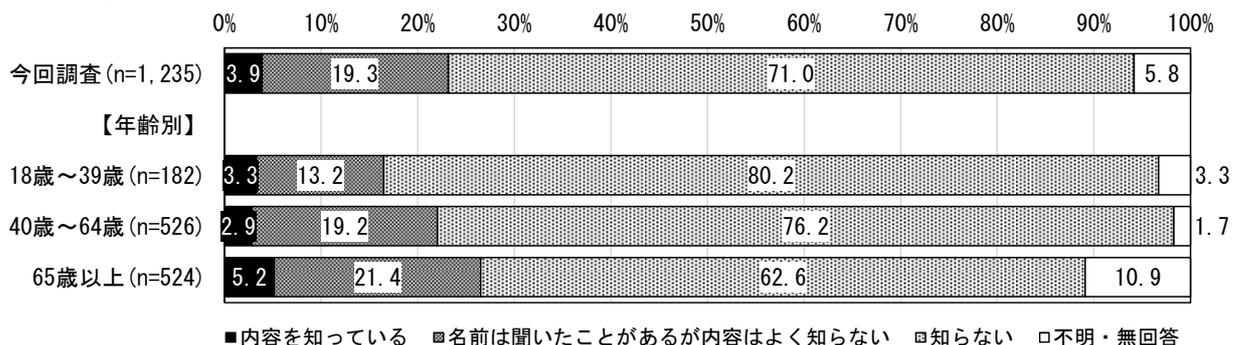
- 日常生活自立支援事業を知っている人（「相談窓口などを利用したことがある」＋「内容を知っている」＋「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」）は 32.2%で、前回調査（33.7%）と大きな差異はありません。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

⑤市民後見人制度

- 市民後見人制度を知っている人（「内容を知っている」＋「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」）は 23.2%となっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

5. 地域福祉を進めるための取り組みについて

問5-1 豊中市社会福祉協議会や各小学校区の校区福祉委員会が行っている活動のうち、あなたが知っているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 知っている活動については、「共同募金運動」が33.9%で最も多く、「声かけ・見守り活動」(29.0%)、「広報紙の発行」(28.8%)、「子育てサロン・子育てサークル」(25.4%)がつづいています。
また、市社会福祉協議会・校区福祉委員会の活動について何らかの内容を知っている人の割合(全体から「社会福祉協議会や校区福祉委員会の名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない」、「社会福祉協議会や校区福祉委員会の名前も活動内容も知らない」、不明・無回答を引いた値)は49.8%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「子育てサロン・子育てサークル」、40歳～64歳では「子育てサロン・子育てサークル」と「子ども食堂」が他年齢より多くなっています。また、65歳以上では「共同募金運動」や「広報誌の発行」「老人クラブ」「防災に関する活動(災害時の安否確認・防災訓練)」など多くの活動が他年齢より多くなっています。

	全体 n=1,235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
共同募金運動	33.9	15.9	29.1	45.0
声かけ・見守り活動	29.0	31.3	32.5	24.8
広報紙の発行	28.8	18.1	26.0	35.3
子育てサロン・子育てサークル	25.4	29.7	30.6	18.7
子ども食堂	25.1	24.2	28.5	22.1
献血事業	24.3	22.5	23.0	26.1
防災に関する活動 (災害時の安否確認・防災訓練)	19.2	12.6	14.3	26.5
ふれあいサロン・ミニデイ	18.1	9.9	15.8	23.5
老人クラブ	17.8	4.9	11.8	28.2
会食会・配食サービス	15.0	4.4	10.1	23.7
生活福祉資金などの貸付(コロナ特例貸付)	8.2	6.0	6.8	10.3
ボランティアセンター	7.4	2.7	6.5	9.7
ホームページやブログ	6.7	5.5	8.6	5.2
当事者組織の支援(老人介護者の会・ひとり暮らし 老人の会・発達障害者の家族の会など)	4.6	1.1	2.7	7.8
ぐんぐん元気塾・福祉便利屋事業 (住民主体ささえあい活動)	4.5	2.7	2.3	7.4
善意銀行(寄付金や物品の活用)	3.6	1.6	2.5	5.3
日常生活自立支援事業(金銭管理など)	3.4	1.6	2.7	4.8
ひきこもりの若者支援(豊中びーのびーの)	3.2	1.1	1.9	5.2
生活支援コーディネーターによる活動(豊中あぐり・ びーの×マルシェ・内職広場・福祉お針箱など)	3.2	0.0	3.4	4.0
CSW(コミュニティソーシャルワーカー)による相談	2.5	1.1	2.5	3.1
くらし再建パーソナルサポートセンターによる支援 (生活再建・食材支援・就労支援など)	2.1	0.5	1.7	3.1
その他	0.4	0.0	0.8	0.2
社会福祉協議会や校区福祉委員会の 名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	26.2	10.4	20.5	37.2
社会福祉協議会や校区福祉委員会の 名前も活動内容も知らない	14.9	18.1	13.7	15.1
不明・無回答	9.1	7.7	8.2	10.3

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 知っている活動について前回調査と比較すると、上位の活動である「共同募金運動」や「声かけ・見守り活動」「広報紙の発行」「子育てサロン・子育てサークル」などは大きな差異はありません。

また、「子ども食堂」(25.1%)は前回調査(11.9%)の2倍程度増加し、「生活福祉資金の貸付(コロナ特例貸付)」(8.2%)は前回調査(2.4%)の3倍以上増加しています。

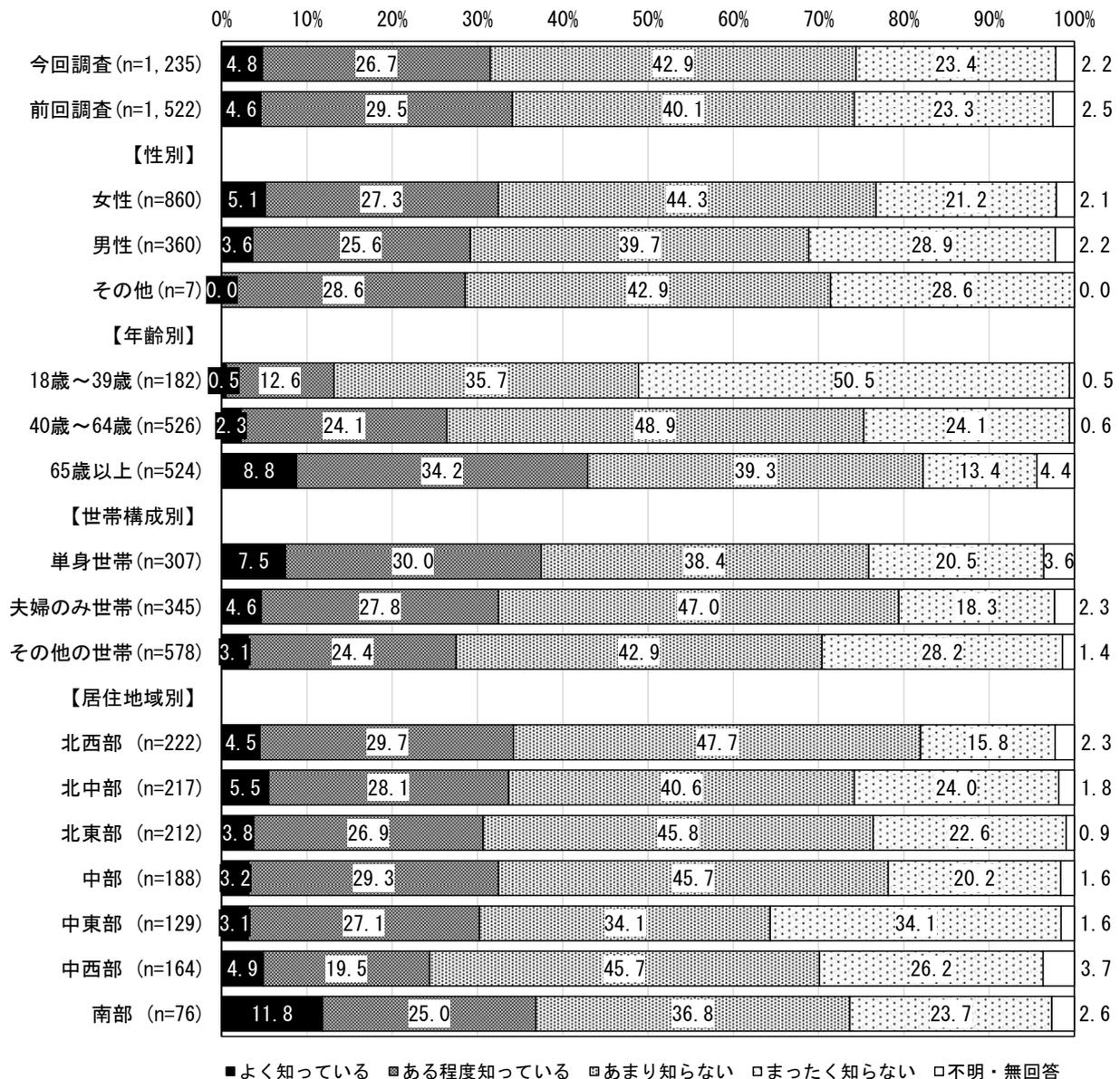
なお、市社会福祉協議会・校区福祉委員会の活動について何らかの内容を知っている人(49.8%)は、前回調査(48.5%)と大きな差異はありません。

単位:%	今回調査(n=1,235)	前回調査(n=1,522)
共同募金運動	33.9	33.2
声かけ・見守り活動	29.0	27.5
広報紙の発行	28.8	23.5
子育てサロン・子育てサークル	25.4	24.5
子ども食堂	25.1	11.9
献血事業	24.3	23.7
防災に関する活動(災害時の安否確認・防災訓練)	19.2	18.5
ふれあいサロン・ミニデイ	18.1	16.7
老人クラブ	17.8	16.3
会食会・配食サービス	15.0	15.8
生活福祉資金などの貸付(コロナ特例貸付)	8.2	2.4
ボランティアセンター	7.4	5.8
ホームページやブログ	6.7	5.1
当事者組織の支援(老人介護者の会・ひとり暮らし老人の会・発達障害者の家族の会など)	4.6	5.8
ぐんぐん元気塾・福祉便利屋事業(住民主体ささえあい活動)	4.5	選択肢なし
善意銀行(寄付金や物品の活用)	3.6	2.4
日常生活自立支援事業(金銭管理など)	3.4	2.9
ひきこもりの若者支援(豊中びーのびーの)	3.2	3.3
生活支援コーディネーターによる活動(豊中めぐり・びーの×マルシェ・内職広場・福祉お針箱など)	3.2	選択肢なし
CSW(コミュニティソーシャルワーカー)による相談	2.5	2.8
くらし再建パーソナルサポートセンターによる支援(生活再建・食料支援・就労支援など)	2.1	1.2
その他	0.4	0.5
社会福祉協議会や校区福祉委員会の名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	26.2	25.3
社会福祉協議会や校区福祉委員会の名前も活動内容も知らない	14.9	17.9
不明・無回答	9.1	8.3

※「ぐんぐん元気塾・福祉便利屋事業(住民主体ささえあい活動)」と「生活支援コーディネーターによる活動(豊中めぐり・びーの×マルシェ・内職広場・福祉お針箱など)」は今回調査で新たに選択肢として設定。「生活福祉資金などの貸付(コロナ特例貸付)」は前回調査では「生活福祉資金などの貸付」と設定。

問5-2 民生委員・児童委員の役割を知っていますか。(〇は1つ)

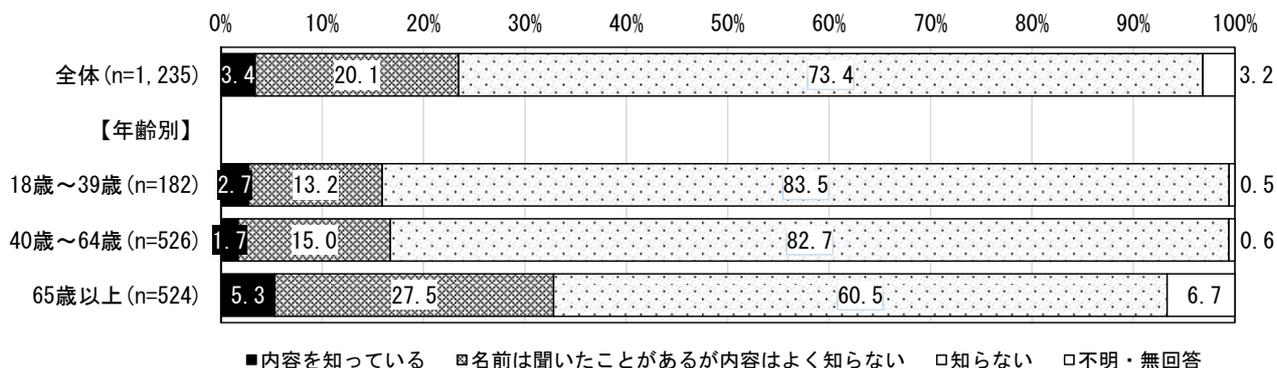
- 民生委員・児童委員の役割を知っている人(「よく知っている」+「ある程度知っている」)は31.5%で、前回調査(34.1%)と大きな差異はありません。
- 年齢別で見ると、65歳以上で民生委員・児童委員の役割を知っている人が他年齢より多くなっています。また、18歳~39歳では「まったく知らない」、40歳~64歳では「あまり知らない」が他年齢より多くなっています。
- 世帯構成別で見ると、単身世帯では「よく知っている」が他世帯より多くなっています。
- 居住地域別で見ると、中東部では「まったく知らない」、南部では「よく知っている」が他地域より多くなっています。



問5-3 災害時に自力で避難することが困難な人の安否確認や避難支援するための以下の仕組みについて知っていますか。(〇は1つ)

①防災・福祉ささえあいづくり推進事業

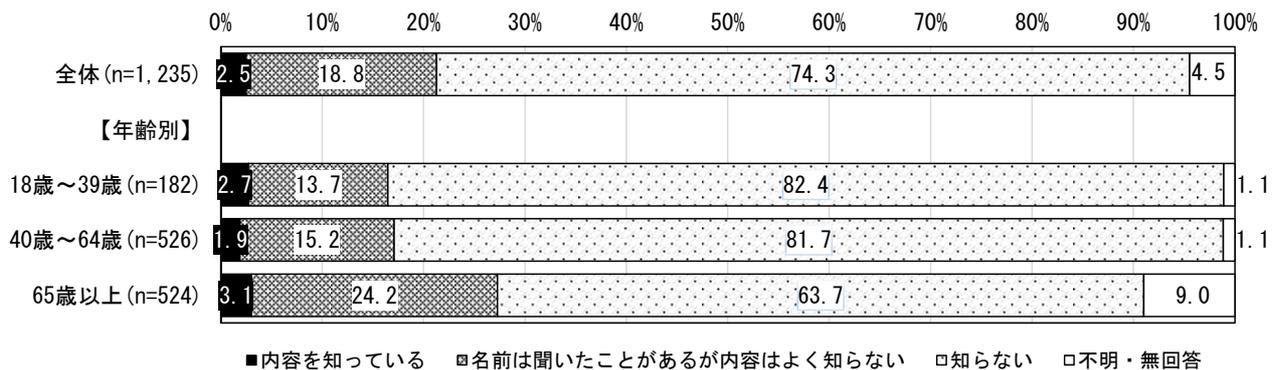
- 防災・福祉ささえあいづくり推進事業について、「内容を知っている」は3.4%、「知らない」は73.4%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「知らない」、65歳以上では「内容を知っている」と「名前を聞いたことがあるが内容はよく知らない」が他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

②災害時個別避難計画推進事業

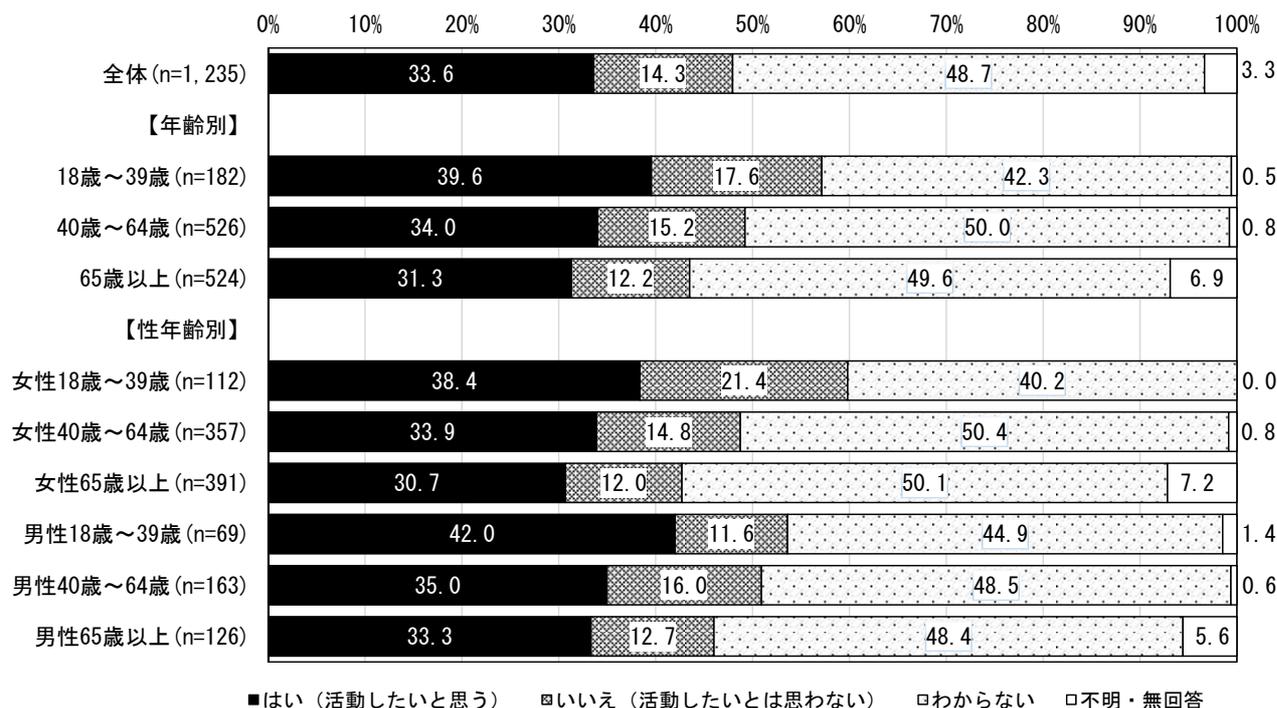
- 災害時個別避難計画推進事業について、「内容を知っている」は2.5%、「知らない」は74.3%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「知らない」、65歳以上では「名前を聞いたことがあるが内容はよく知らない」が他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問5-4 災害時に近隣住民同士で安否確認の声かけや、自力で避難できない人の避難所までの誘導等の活動をしたと思いますか。(〇は1つ)

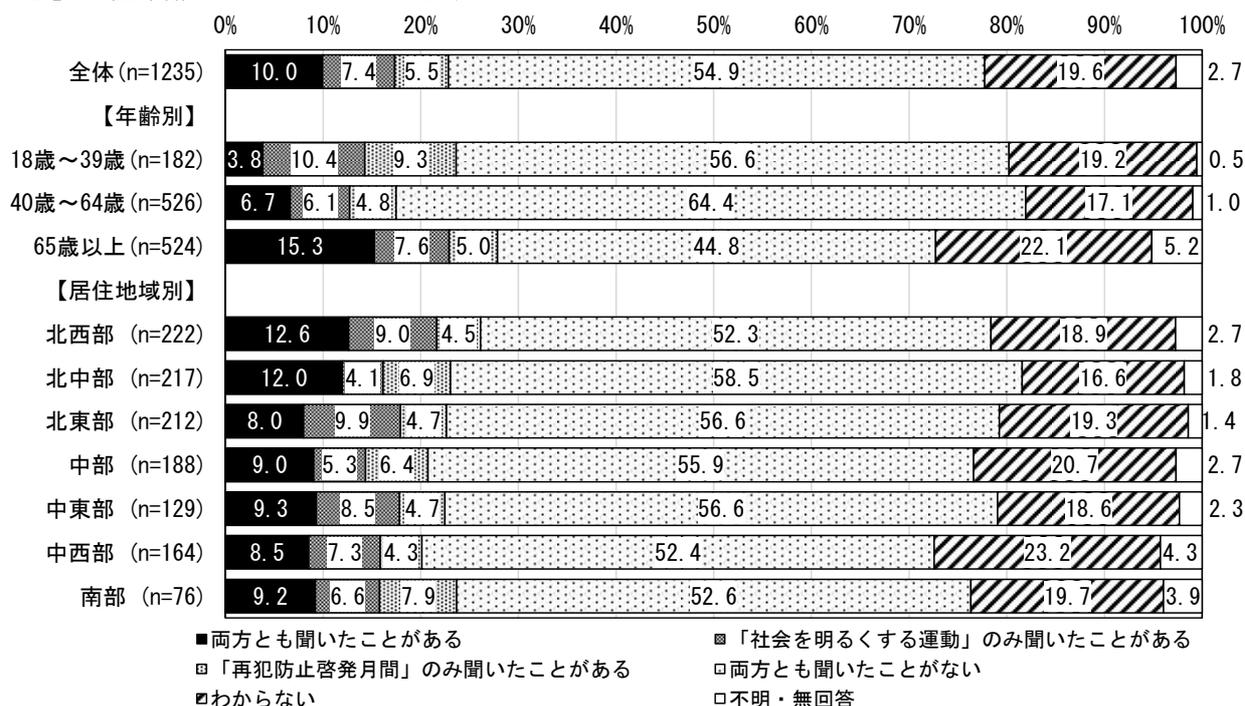
- 災害時の安否確認や自力で避難できない人の支援活動への参加意向については、「わからない」が48.7%で最も多く、「はい（活動したいと思う）」(33.6%)、「いいえ（活動したいとは思わない）」(14.3%)がつづいています。
- 年齢別でみると、すべての年齢で「はい（活動したいと思う）」は30~40%を占めています。
- 性年齢別でみると、女性18歳~39歳では「いいえ（活動したいとは思わない）」、男性18歳~39歳では「はい（活動したいと思う）」が他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問5-5 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みである「社会を明るくする運動」や「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。(〇は1つ)

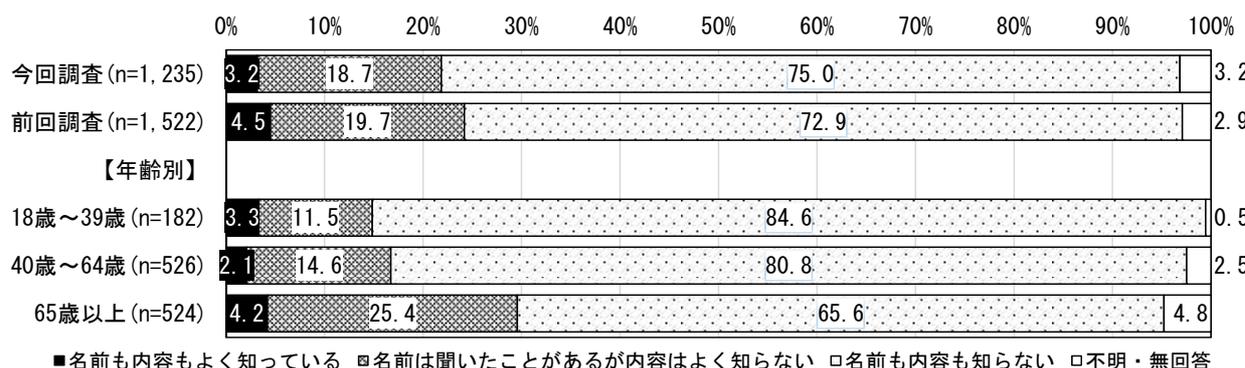
- 再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みを知っている人(「両方とも聞いたことがある」+「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある+「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある)は22.9%となっています。
- 年齢別で見ると、65歳以上で再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みを知っている人が他より多くなっています。特に、65歳以上では「両方とも聞いたことがある」が15.3%となっており、他年齢より多くなっています。また、18歳~39歳では「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがあるが他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

問5-6 平成29年(2017年)3月に策定された豊中市の地域包括ケアシステム推進基本方針を知っていますか。(〇は1つ)

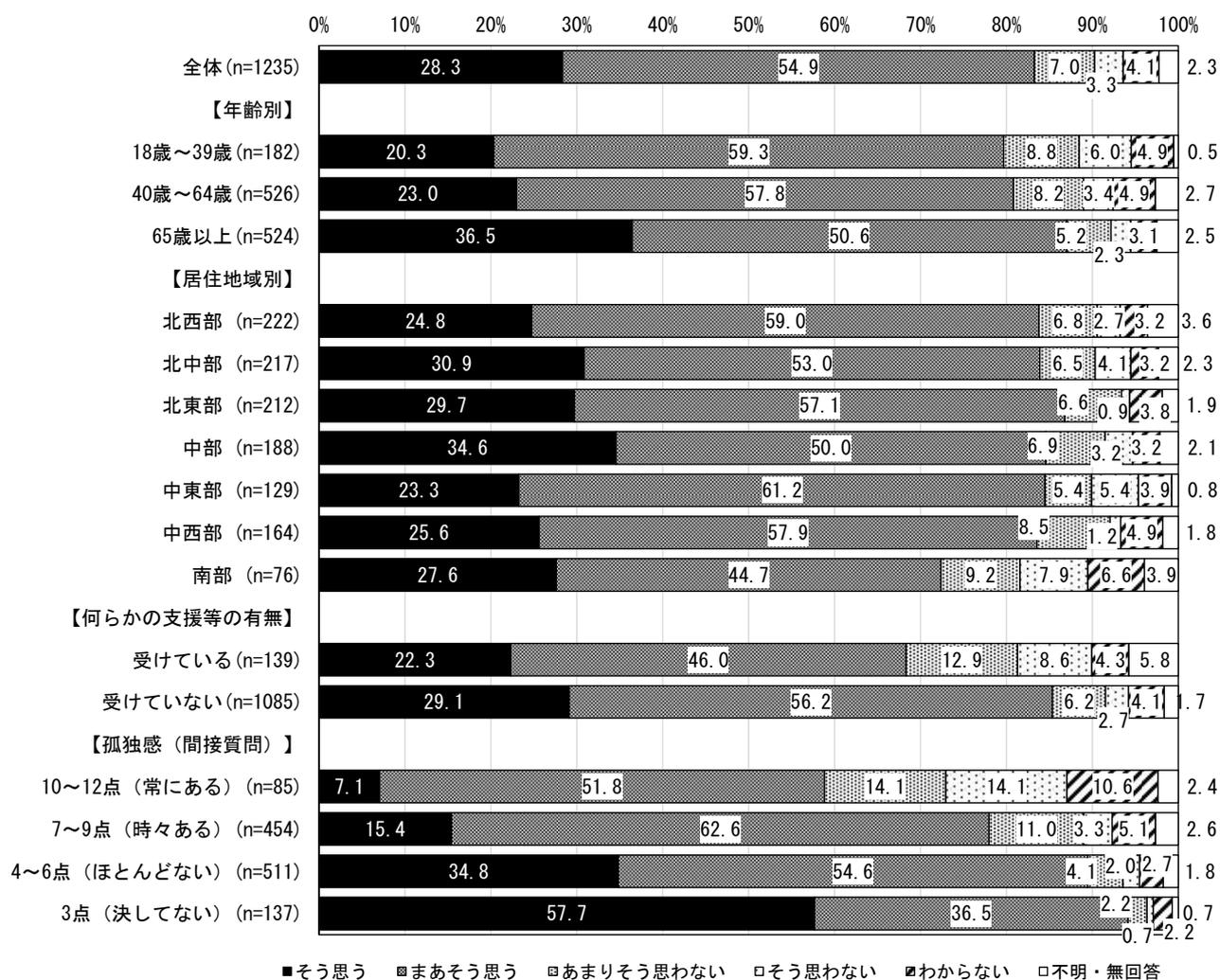
- 地域包括ケアシステム推進基本方針の認知状況については、「名前も内容も知らない」が75.0%で最も多く、「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」(18.7%)、「名前も内容もよく知っている」(3.2%)がつづいており、前回調査と大きな差異はありません。
- 年齢別で見ると、18歳~39歳と40歳~64歳では「名前も内容も知らない」、65歳以上では「名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない」が他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ(割合)と対応しないことがあります。

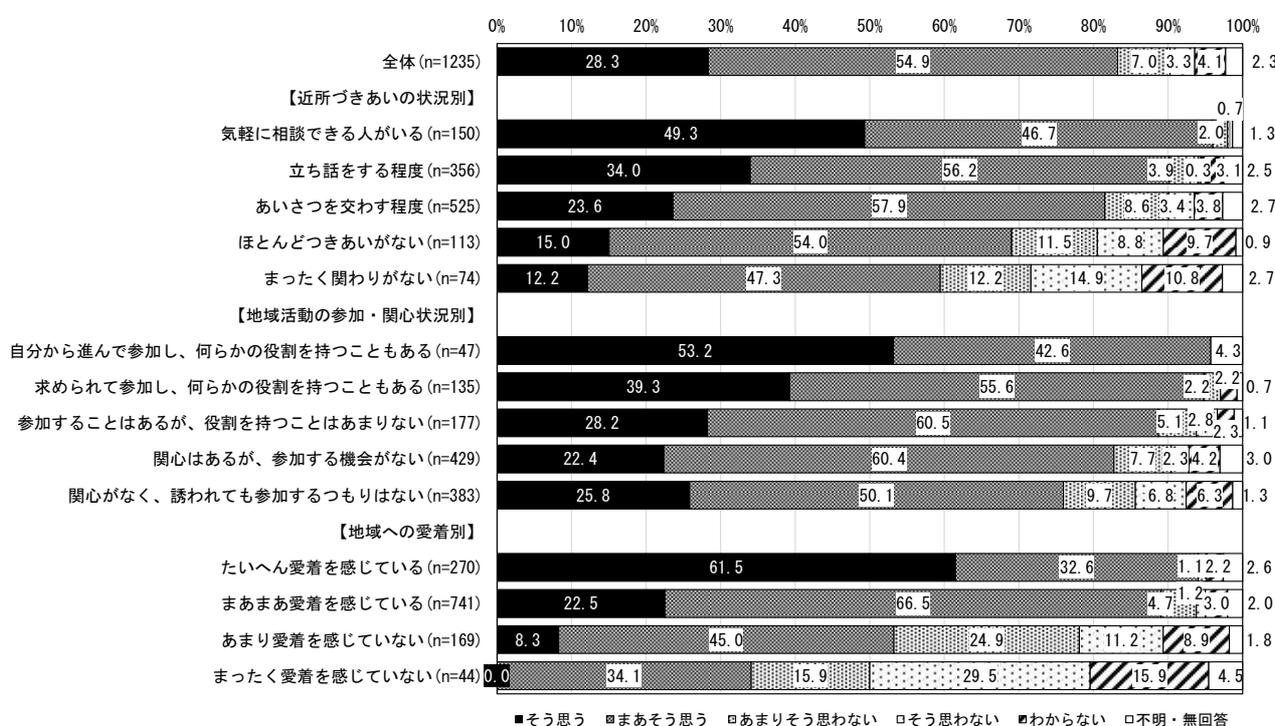
問5-7 現在、あなたは住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができますか。(〇は1つ)

- 住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができている人(「そう思う」+「まあそう思う」)は83.2%となっています。
- 年齢別でみると、18歳~39歳では「そう思わない」、65歳以上では「そう思う」が他年齢より多くなっています。
- 居住地域別でみると、中部では「そう思う」、南部では「そう思わない」が他地域より多くなっています。
- 何らかの支援等の有無でみると、何らかの支援等を受けている人では、「あまりそう思わない」と「そう思わない」が、支援等を受けていない人より多くなっています。
- 孤独感の状況別でみると、孤独感が常にある人では「そう思わない」と「わからない」、時々ある人では「まあそう思う」と「あまりそう思わない」、孤独感がほとんどない人と決してない人では「そう思う」が、他より多くなっています。概して、孤独感がある人ほど、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができていると思う人は少ない傾向にあります。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

- 近所づきあいの状況別でみると、『気軽に相談できる人がいる』人と『立ち話をする程度』の人では「そう思う」、『ほとんどつきあいが無い』人と『まったく関わりが無い』人では「そう思わない」と「わからない」が、他より多くなっています。概して、近所づきあいが親密な人ほど、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができていると思う人が多い傾向にあります。
- 地域活動の参加・関心状況別でみると、『自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある』人と『求められて参加し、何らかの役割を持つこともある』人では「そう思う」が、他より多くなっています。
- 地域への愛着別でみると、『たいへん愛着がある』人では「そう思う」、『まあまあ愛着がある』人では「まあそう思う」、『あまり愛着を感じていない』人では「あまりそう思わない」や「そう思わない」「わからない」、『まったく愛着を感じていない』人では「そう思わない」と「わからない」が他より多くなっています。概して、地域に愛着がある人ほど、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができていると思う人が多い傾向にあります。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問5-8 あなたが住み慣れた地域で自分らしく暮らすために、特に大切にしていることは何ですか。
(〇は5つまで)

- 住み慣れた地域で自分らしく暮らすために、特に大切にしていることについては、「心身の健康」が79.2%で最も多く、「家族関係」(52.2%)、「所得・収入(経済的状況)」(47.4%)、「生活の利便性(買物、移動など)」(45.7%)がつついています。
- 性別でみると、女性では「心身の健康」や「家族関係」、「生活の利便性(買物、移動など)」「友人関係」、男性では「就業状況(仕事の有無・安定)」、その他では「所得・収入(経済的状況)」と「就業状況(仕事の有無・安定)」が他より多くなっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「自由な時間」や「就業状況(仕事の有無・安定)」「職場での人間関係」「仕事・学業などの充実度」、40歳～64歳では「所得・収入(経済的状況)」や「就業状況(仕事の有無・安定)」「職場での人間関係」「仕事・学業などの充実度」、65歳以上では「心身の健康」や「友人関係」、「趣味、社会貢献などの生きがい」「地域でのつながり」が他年齢より多くなっています。

	全体 n=1235	性別			年齢別		
		女性 n=860	男性 n=360	その他 n=7	18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
心身の健康	79.2	81.7	73.9	42.9	60.4	76.8	88.0
家族関係	52.2	55.8	44.7	28.6	51.6	55.1	49.4
所得・収入(経済的状況)	47.4	47.2	47.8	71.4	52.2	59.9	33.2
生活の利便性(買物・移動など)	45.7	48.7	38.9	42.9	36.8	43.3	51.1
安全・安心(防災・防犯など)	37.2	38.1	35.6	14.3	28.6	35.4	42.2
友人関係	30.0	34.9	18.3	28.6	31.3	24.5	35.1
精神的なゆとり	29.2	28.8	30.3	14.3	29.1	27.2	31.1
自由な時間	29.1	28.3	30.3	42.9	43.4	28.5	24.6
就業状況(仕事の有無・安定)	21.0	18.8	25.6	42.9	33.0	31.2	6.5
趣味、社会貢献などの生きがい	16.2	16.5	15.6	0.0	18.1	11.8	20.0
職場での人間関係	10.3	10.7	8.9	42.9	15.4	13.9	5.0
地域でのつながり	9.1	9.7	8.1	0.0	3.3	6.1	14.3
仕事・学業などの充実度	8.5	8.5	8.6	14.3	15.4	12.0	2.7
その他	1.0	1.0	0.6	14.3	0.5	0.8	1.3
不明・無回答	2.0	1.5	3.3	0.0	1.1	2.3	2.1

※下線太文字の項目は、性別、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 住み慣れた地域で自分らしく暮らすために、特に大切にしていることについて、孤独感の状況別でみると、孤独感が常にある人と時々ある人では「所得・収入（経済的状況）」と「就業状況（仕事の有無・安定）」が、孤独感がほとんどない人と決してない人より多くなっています。

一方、孤独感がほとんどない人では「安全・安心（防災・防犯）」や「友人関係」「趣味、社会貢献などの生きがい」、孤独感が決してない人では「友人関係」と「地域でのつながり」が、他より多くなっています。

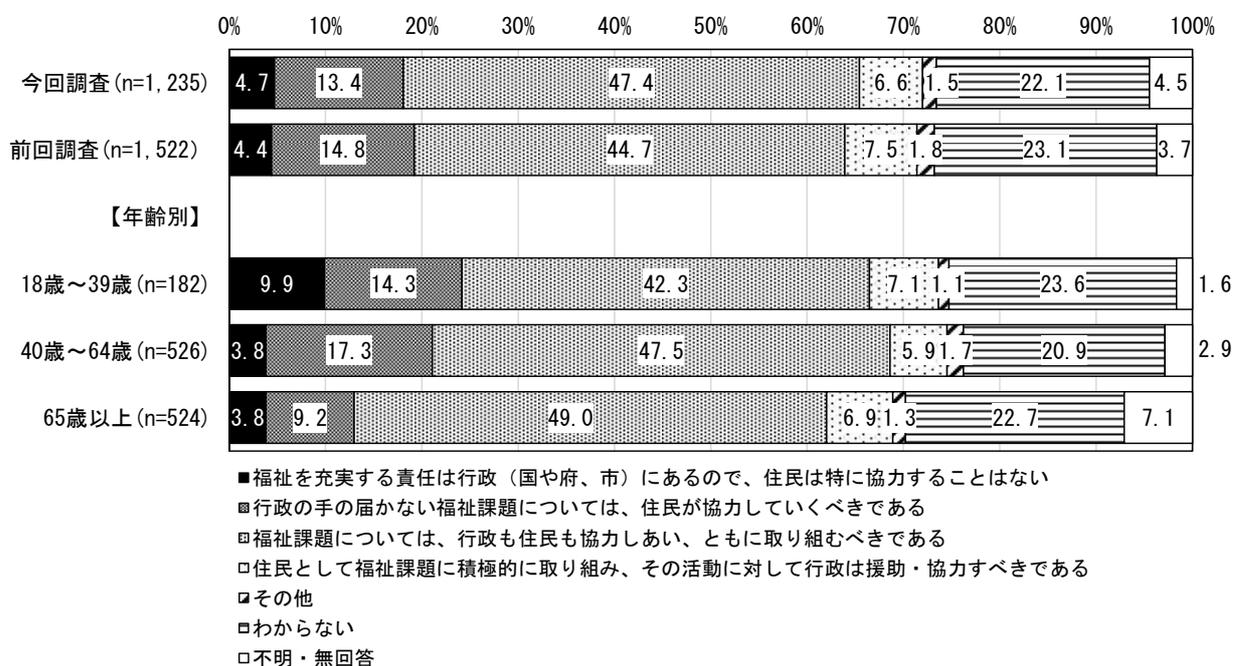
	全体 n=1235	孤独感			
		10～12点 (常にある) n=85	7～9点 (時々ある) n=454	4～6点 (ほとんどない) n=511	3点 (決してない) n=137
心身の健康	79.2	65.9	78.0	82.0	81.8
家族関係	52.2	47.1	49.3	54.4	59.9
所得・収入(経済的状況)	47.4	57.6	52.0	43.8	46.7
生活の利便性(買物・移動など)	45.7	50.6	44.5	47.4	40.9
安全・安心(防災・防犯など)	37.2	30.6	35.0	40.3	35.0
友人関係	30.0	14.1	21.4	36.6	46.7
精神的なゆとり	29.2	35.3	30.4	27.6	28.5
自由な時間	29.1	34.1	30.0	29.9	22.6
就業状況(仕事の有無・安定)	21.0	25.9	24.7	19.4	16.1
趣味、社会貢献などの生きがい	16.2	10.6	15.0	18.8	13.9
職場での人間関係	10.3	7.1	11.2	10.2	13.1
地域でのつながり	9.1	2.4	7.3	10.8	13.9
仕事・学業などの充実度	8.5	7.1	11.2	6.1	11.7
その他	1.0	0.0	0.7	1.0	1.5
不明・無回答	2.0	2.4	2.0	1.4	1.5

※下線太文字の項目は、孤独感の状況別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

問5-9 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えますか。(○は1つ)

- 福祉を充実させていくための行政と地域住民の関係については、「福祉課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである」が47.4%で最も多く、「わからない」(22.1%)、「行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである」(13.4%)がつついでいます。
- 年齢別で見ると、すべての年齢で「福祉課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである」が最も多くなっています。

また、18歳～39歳では「福祉を充実する責任は行政（国や府、市）にあるので、住民は特に協力することはない」、40歳～64歳では「行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである」が、他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問5-10 福祉の活動をする人を増やすために、地域においてどのようなことに取り組んだらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 福祉の活動をする人を増やすために地域で取り組んだらよいことについては、「チラシや機関紙、ポスターなどで、広く参加を呼びかける」が38.2%で最も多く、「有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる」(35.7%)、「活動の参加につながる講座やイベントなどを開催する」(32.1%)がつづいています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳では「有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる」が65歳以上より多くなっています。一方、65歳以上では「チラシや機関紙、ポスターなどで、広く参加を呼びかける」や「友人や知人、近所の人などに声をかけて、参加を呼びかける」「参加する人を増やすことは必要だと思うが、特に取り組みは必要ない」が他年齢より多くなっています。

単位:%	全体 n=1235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
チラシや機関紙、ポスターなどで、広く参加を呼びかける	38.2	37.4	36.7	40.3
有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる	35.7	44.5	43.7	24.4
活動の参加につながる講座やイベントなどを開催する	32.1	29.7	33.7	31.1
関わりのある団体などを通じて参加を呼びかける	22.8	23.1	24.9	20.8
友人や知人、近所の人などに声をかけて、参加を呼びかける	20.3	15.9	19.0	23.1
自治会単位での当番制にするなど、みんなが活動に参加する仕組みをつくる	9.4	7.1	9.3	10.3
その他	5.0	5.5	4.6	5.3
参加する人を増やすことは必要だと思うが、特に取り組みは必要ない	4.3	2.7	2.5	6.7
参加する人を増やす必要はない	1.3	2.7	1.5	0.6
不明・無回答	7.5	2.2	4.2	12.8

※下線太文字の項目は年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異（統計的有意差）が確認できた項目。

- 福祉の活動をする人を増やすために地域で取り組んだらよいことについて前回調査と比較すると、ほとんどの取り組みで大きな差異はありません。

ただし、「参加する人を増やすことは必要だと思うが、特に取り組みは必要ない」(4.3%)は前回調査(10.2%)から半数以下に減少しています。

単位:%	今回調査(n=1235)	前回調査(n=1522)
チラシや機関紙、ポスターなどで、広く参加を呼びかける	38.2	40.8
有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる	35.7	
活動の参加につながる講座やイベントなどを開催する	32.1	33.7
関わりのある団体などを通じて参加を呼びかける	22.8	28.4
友人や知人、近所の人などに声をかけて、参加を呼びかける	20.3	24.2
自治会単位での当番制にするなど、みんなが活動に参加する仕組みをつくる	9.4	9.3
その他	5.0	5.8
参加する人を増やすことは必要だと思うが、特に取り組みは必要ない	4.3	10.2
参加する人を増やす必要はない	1.3	3.0
不明・無回答	7.5	7.3

※「有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる」は今回調査で新たに選択肢として設定。

問5-11 地域の中で、住民がお互いに助けあう仕組みをつくっていくときに、行政にはどのような役割が必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

- 住民がお互いに助けあう仕組みをつくるために必要な行政の役割については、「活動をPRするための広報活動」が40.6%で最も多く、「気軽に集える場の整備・支援」(38.5%)、「福祉活動への参加等に関する相談支援・調整、活動に関する情報提供」(22.8%)、「学校教育、生涯学習などによる助けあい意識の醸成」(21.7%)がつづいています。
- 年齢別でみると、40歳～64歳では「福祉活動を運営する資金集めの仕組みづくり」、65歳以上では「活動の牽引役となる地域リーダーの育成」や「介護やボランティアについて理解を深める勉強会などの開催」「その他」が他年齢より多くなっています。

単位:%	全体 n=1235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
活動をPRするための広報活動	40.6	44.5	38.6	41.2
気軽に集える場の整備・支援	38.5	37.9	37.8	39.3
福祉活動への参加等に関する相談支援・調整、活動に関する情報提供	22.8	21.4	25.3	20.8
学校教育、生涯学習などによる助けあい意識の醸成	21.7	29.7	21.1	19.5
地域活動から収集した情報を総合的に把握し活用する場の設置	18.3	20.9	18.8	17.0
活動の牽引役となる地域リーダーの育成	16.3	12.1	14.6	19.3
介護やボランティアなどについて理解を深める勉強会などの開催	16.2	9.9	16.0	18.7
活動する個人・団体などの連携・協働の支援など(中間支援機能)の強化	14.6	17.0	16.0	12.4
福祉活動を運営する資金集めの仕組みづくり	11.0	13.7	15.0	5.9
その他	3.1	0.5	2.7	4.4
行政の支援は必要でない	1.5	2.7	1.9	0.8
不明・無回答	6.6	1.6	3.4	11.5

※下線太文字の項目は年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 住民が助け合うための活動への参加意向別でみると、『現在も活動に参加しており、今後も参加したい』人では「学校教育、生涯学習などによる助けあい意識の醸成」や「地域活動から収集した情報を総合的に把握し活用する場の設置」「活動の牽引役となる地域リーダーの育成」が他より多くなっています。また、『現在は活動に参加していないが、今後参加はしたい』人では「気軽に集える場の整備・支援」と「活動の牽引役となる地域リーダーの育成」が他より多くなっています。

単位:%	全体 n=1235	住民が助け合うための活動への参加意向				
		現在も活動に参加しており、今後も参加したい n=57	現在は活動に参加していないが、今後は参加したい n=320	そのような活動には関心がない(参加したくない) n=236	参加したいと思うが、事情があり参加できない n=403	その他 n=127
活動をPRするための広報活動	40.6	33.3	46.9	36.4	45.4	37.8
気軽に集える場の整備・支援	38.5	45.6	46.9	34.7	40.2	33.1
福祉活動への参加等に関する相談支援・調整、活動に関する情報提供	22.8	24.6	25.9	17.8	26.8	22.8
学校教育、生涯学習などによる助けあい意識の醸成	21.7	35.1	24.1	18.2	24.8	16.5
地域活動から収集した情報を総合的に把握し活用する場の設置	18.3	31.6	23.4	11.9	18.9	21.3
活動の牽引役となる地域リーダーの育成	16.3	26.3	22.2	8.1	16.1	16.5
介護やボランティアなどについて理解を深める勉強会などの開催	16.2	19.3	20.0	6.8	19.9	15.7
活動する個人・団体などの連携・協働の支援など(中間支援機能)の強化	14.6	15.8	17.8	14.0	15.4	11.8
福祉活動を運営する資金集めの仕組みづくり	11.0	12.3	12.5	11.9	10.7	11.8
その他	3.1	3.5	0.3	3.4	1.5	15.0
行政の支援は必要でない	1.5	0.0	0.3	5.9	0.5	1.6
不明・無回答	6.6	3.5	0.9	2.5	1.2	6.3

※下線太文字の項目は住民が助け合うための活動への参加意向別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

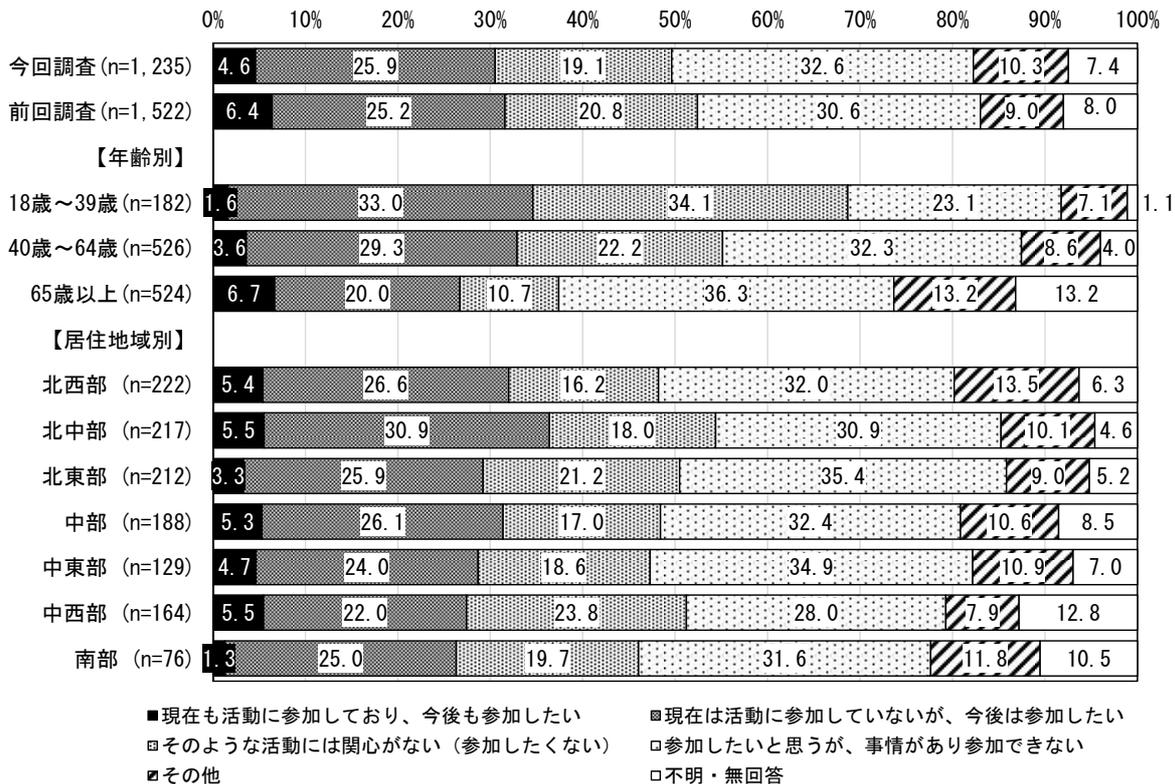
- 住民がお互いに助けあう仕組みをつくるために必要な行政の役割について前回調査と比較すると、ほとんどの取り組みで大きな差異はありません。

単位:%	今回調査(n=1235)	前回調査(n=1522)
活動をPRするための広報活動	40.6	44.0
気軽に集える場の整備・支援	38.5	41.7
福祉活動への参加等に関する相談支援・調整、活動に関する情報提供	22.8	
学校教育、生涯学習などによる助けあい意識の醸成	21.7	28.5
地域活動から収集した情報を総合的に把握し活用する場の設置	18.3	25.0
活動の牽引役となる地域リーダーの育成	16.3	23.9
介護やボランティアなどについて理解を深める勉強会などの開催	16.2	20.0
活動する個人・団体などの連携・協働の支援など(中間支援機能)の強化	14.6	
福祉活動を運営する資金集めの仕組みづくり	11.0	11.1
その他	3.1	3.9
行政の支援は必要でない	1.5	1.3
不明・無回答	6.6	7.2

※「福祉活動への参加等に関する相談支援・調整、活動に関する情報提供」は今回調査で新たに選択肢として設定。

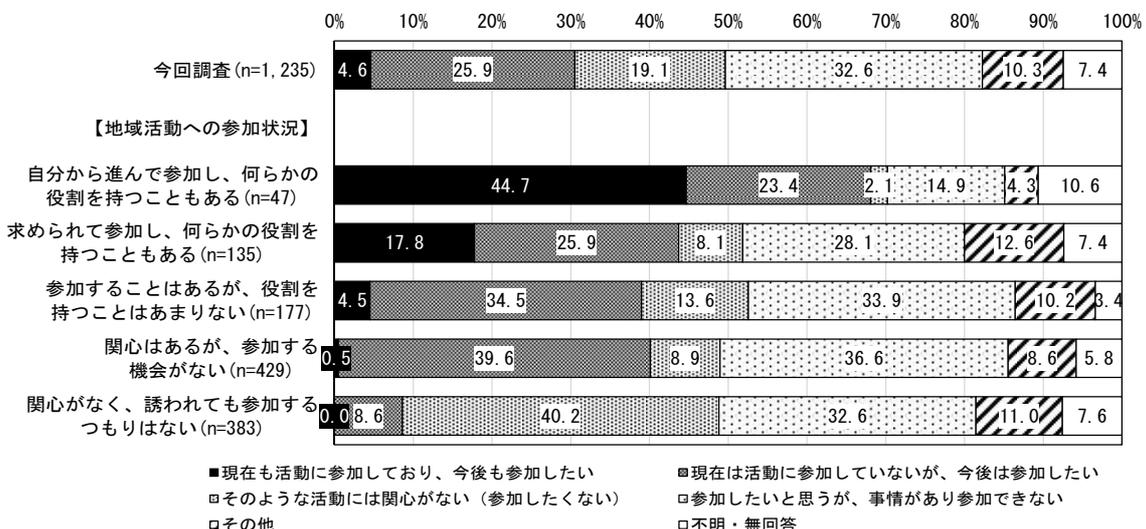
問5-12 身近な地域で住民が助けあうための活動に今後参加したい（やってみたい）と思いますか。（○は1つ）

- 身近な地域で住民が助けあうための活動に参加意向がある人（「現在も活動に参加しており、今後も参加したい」+「現在は活動に参加していないが、今後は参加したい」）は30.5%で、前回調査（31.6%）と大きな差異はありません。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「そのような活動には関心がない（参加したくない）」、65歳以上では「現在も活動に参加しており、今後も参加したい」と「参加したいと思うが、事情があり参加できない」が他年齢より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

- 地域活動の参加状況別でみると、『自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある』人と『求められて参加し、何らかの役割を持つこともある』人では「現在も活動に参加しており、今後も参加したい」が他より多くなっています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

問5-13 地域で暮らす人々が安心して暮らせるように、あなた自身ができそうなこと、やってみたいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

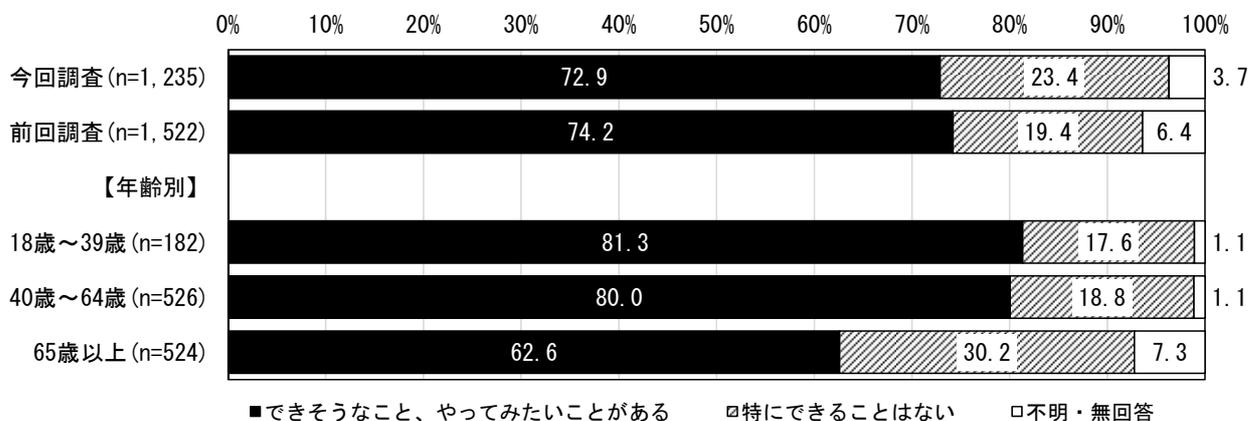
- 地域で暮らす人々が安心して暮らせるように、自身ができそうなこと、やってみたいと思うことについては、「見守り活動や安否確認の声かけ」が27.2%で最も多く、「話し相手や相談相手」(24.2%)、「福祉への関心を持つ」(21.9%)、「地域で行う行事の準備や参加」(15.1%)がみつづいています。また、「特にできることはない」は23.4%となっています。
- 年齢別でみると、18歳～39歳では「子どもの世話」や「地域で行う行事の準備や参加」「災害時の救助活動や避難の支援」、40歳～64歳では「見守り活動や安否確認の声かけ」や「その他のボランティア活動」など、65歳以上では「福祉に関する講座などに参加する」や「地域の福祉についての話し合いなどに参加する」「特にできることはない」が他年齢より多くなっています。

	全体 n=1235	年齢別		
		18歳～39歳 n=182	40歳～64歳 n=526	65歳以上 n=524
		見守り活動や安否確認の声かけ	27.2	23.1
話し相手や相談相手	24.2	28.6	24.7	22.3
福祉への関心を持つ	21.9	17.0	23.4	22.1
地域で行う行事の準備や参加	15.1	22.5	16.7	10.9
災害時の救助活動や避難の支援	12.1	18.7	14.3	7.8
寄付や募金	11.8	13.7	11.6	11.1
子どもの世話	9.9	25.8	10.5	3.8
福祉に関する講座などに参加する	9.6	5.5	9.5	11.3
弁当などの配食、食事会の手伝い	9.3	9.9	10.5	8.0
その他のボランティア活動	7.7	9.9	10.1	4.6
買い物や食事、掃除や洗濯などの家事手伝い	7.4	5.5	9.5	5.9
職業上のスキルや専門知識を活かして取り組むボランティア活動(プロボノ)	6.5	9.3	8.6	3.2
サロン活動などのお世話係	5.7	6.0	6.1	5.3
通院などの外出介助、援助	5.7	4.4	6.7	5.2
地域の福祉についての話しあいなどに参加する	4.1	1.6	2.1	7.1
病気の時の看病や世話	2.9	3.8	3.2	2.3
社会課題を解決するソーシャルビジネスのような活動	2.7	3.3	3.2	1.7
その他	2.5	1.6	1.7	3.6
特にできることはない	23.4	17.6	18.8	30.2
不明・無回答	3.7	1.1	1.1	7.3

※下線太文字の項目は、年齢別で他と比べて統計的に明らかな差異(統計的有意差)が確認できた項目。

- 地域で暮らす人々が安心して暮らせるように、自身ができそうなこと、やってみたいことがある人（「特にできることはない」と不明・無回答を除いた割合）は72.9%で、前回調査（74.2%）と大きな差異はありません。

また、年齢別でみると、18歳～39歳と40歳～64歳ではできそうなこと、やってみたいことがある人は80%を超えています。



※クロス集計の結果は統計的有意差が確認できたものを記載しており、図表内のデータ（割合）と対応しないことがあります。

豊中市地域福祉計画に係る市民意識調査

ご協力をお願い

白旗より地域福祉の推進についてご理解とご協力をいただきましたこと、誠にありがとうございます。

さて、本市では、豊中市地域福祉計画に掲げる「みんなで創る あななもわたしも 今よき」として、暮らしを豊かにするために、お住まいの地域における助けあいや支えあいの仕組みづくり、福祉活動の支援などの取り組みを進めております。

このたび、第4期地域福祉計画が令和5年度(2023年度)をもって計画期間を終えることから、第5期の計画づくりに取り組むこととしました。

そこで、市内にお住まいの皆さまにアンケート調査を実施し、地域の状況や福祉に対するご意見を伺い、計画づくりに進めたいと考えております。つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、皆さまの率直なご意見・ご要望などをお寄せいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、皆さまからの回答は統計的に処理し、計画づくりの基礎資料としてのみ使用いたします。個々に記入いただいた調査票を公表するなど、回答いただいた方のご迷惑になることは決していたしませんので、安心してご記入ください。

豊中市 福祉部 地域共生課 令和4年(2022年)9月 豊中市

日本語が難しい場合は、電話などでご連絡をください。ご説明します。

【アンケート調査に関するお問い合わせ】

豊中市 福祉部 地域共生課 電話：06-6858-2219 FAX：06-6854-4344
E-mail：chiikifuk@city.toyonaka.osaka.jp

＜ご記入にあたってのお願い＞

1. アンケートへの回答は、次のいずれかの方法でお願いいたします。

① 調査票による回答
この調査票に直接回答を記入し、同封の返信用封筒(切手不要・お名前の記入不要)に入れて、10月12日(水)までにポストに投函してください。

② インターネットによる回答

<https://s-kantan.jp/toyonaka-city-u/offer/offersList/detail.action?tempSec=3480>
上のURLもしくは、右の二次元バーコードより回答ページにアクセスし、手続番号を入力の上、10月12日(水)までに回答してください。

手続番号： _____

★手続番号によって回答者が特定されることはありません。

2. この調査票は、豊中市個人情報保護条例に基づき、市内にお住まいの18歳以上の皆さまの中から、3,000人の方を無作為に抽出してお送りしております。

※次のページに続きます。

- 障害や病気の状況などによって、あて名のご本人が記入できない場合は、代理の方がご本人のご意見を聞きながらお答えください。
- 各質問には、令和4年(2022年)9月1日現在の状況でお答えください。
- 質問への回答は、あてはまる番号に○をつけるもの、記入欄に直接ご記入いただくものなどがあります。また、質問によって選んでいただく数を「1つ」「3つまで」などと指定しています。また、質問文をよく読んでお答えください。
- 調査票に注釈のある用語については、同封した「用語説明資料」で説明しておりますので、ご確認ください。

1. はじめに、あなたご家族についてお答えください。

1-1 あなたについてお答えください。(1)から(9)のそれぞれについてあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

(1)性別	1 女性	2 男性			
(2)年齢	1 18歳～29歳	2 30歳～39歳	3 40歳～49歳		
	4 50歳～59歳	5 60歳～64歳	6 65歳～69歳		
	7 70歳～74歳	8 75歳以上			
	(3)一緒に住んでいる家族の構成	1 ひとり暮らし	2 夫婦だけ	3 親と子の二世帯	
(4)あなたは、現在何らかの支援(身体的、精神的、経済的)や世話を受けていますか。	4 親と子と孫の三世帯	5 その他()			
	1 受けている	2 受けていない			
(5)同居するご家族で、現在何らかの支援(身体的、精神的、経済的)や世話を受けている方はいますか。	1 いる	2 いない			
	3 同居の家族はいない				
(6)現在住んでいる小学校区(50音順)	1 栗丘	2 上野	3 大池	4 小曾根	5 北丘
	6 北条	7 北緑丘	8 熊野田	9 克明	10 桜井谷
	11 桜井谷東	12 桜塚	13 島田	14 少路	15 庄内
	16 庄内西	17 庄内南	18 新田	19 新田南	20 平成
	21 高川	22 豊島	23 豊島北	24 豊島西	25 寺内
	26 東豊台	27 刀根山	28 中豊島	29 西丘	30 野田
	31 野畑	32 原田	33 東泉丘	34 東丘	35 東豊中
	36 豊南	37 蛭池	38 南丘	39 南桜塚	40 箕輪
	41 緑地				
	校区がわからない方はお住まいの町名(住所)をお書きください				
	町 丁目				

2-3 ふだん、ご近所の方とどのようなつきあいをしていますか。主にあてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 気軽に相談できる人がいる
- 2 立ち話をする程度
- 3 あいさつを交わす程度
- 4 ほとんどつきあいが無い
- 5 まったく関わりがない

付問 あまり近所つきあいをしていない理由は何か。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 仕事などで家をあけることが多い、知りあひ機会がない
- 2 近所つきあいはわらわしいので避けている
- 3 近所つきあいをしたいが、つい消極的になってしまう
- 4 近所つきあいをしたいが、仲間に入れてもらえない
- 5 ふだん留守の家が多いなど、近所つきあいがほとんどない地域である
- 6 その他 ()

2-4 この5年間に、住んでいる地域で行われている活動に参加しましたか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 自分から進んで参加し、何らかの役割を持つこともある
- 2 求められて参加し、何らかの役割を持つこともある
- 3 参加することはあるが、役割を持つことはあまりない
- 4 関心はあるが、参加する機会がない
- 5 関心がなく、誘われても参加するつもりはない

付問1 あなたが、この5年間に参加したことのある活動(住んでいる地域で行われている活動)は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 地域のお祭り、ふれあい行事
- 2 高齢者のための福祉活動
- 3 障害のある人のための福祉活動
- 4 子育て支援のための活動
- 5 子どもの育成のための活動
- 6 清掃・美化や環境保全のための活動
- 7 防災・防犯など地域安全のための活動
- 8 まちづくりに関する活動
- 9 国際交流・外国人支援のための活動
- 10 スポーツ・文化・芸術振興のための活動
- 11 健康づくり支援のための活動
- 12 産業振興のための活動
- 13 その他のNPO・ボランティア活動
- 14 自治会などのその他の地域活動
- 15 その他 ()

次のページの付問2へお進みください。

1 一人暮らし(持ち家)	2 一人暮らし(賃貸)
3 集合住宅(マンションなど)(持ち家)	4 集合住宅(マンションなど)(賃貸)
5 その他 ()	
(7)居住年数(一人暮らし)	2 1年以上5年未満
3 5年以上10年未満	4 10年以上20年未満
5 20年以上30年未満	6 30年以上
(9)あなたの現在の職業(主にあてはまるもの1つ)	2 従業員など雇われている人
3 学生・生徒	4 家事専業
5 無職	6 その他 ()

2. お住まいの地域との関わりについておたずねします。

2-1 あなたにとって、“自分の地域”と感じるのはどのくらいの範囲ですか。お考えに近いものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 自宅周辺の近隣(隣近所)
- 2 自治会の範囲
- 3 小学校区
- 4 中学校区
- 5 豊中市全域
- 6 その他 ()

2-2 住んでいる地域について、どのように感じますか。①～⑥のそれぞれの項目について、お考えに近いものを1つ選んで○をつけてください。

	1	2	3	4	5
①隣近所の人間関係が良好だ	1	2	3	4	5
②住民による交流が活発だ	1	2	3	4	5
③身近な助けあいやボランティア活動が活発だ	1	2	3	4	5
④手助けや見守りが必要としている人への地域の人々の関心が強い	1	2	3	4	5
⑤地域で抱える課題について住民どうしで話し合い、みんなで考えるような機会や場がある	1	2	3	4	5
⑥多様な主体(地域団体・NPO・企業等)が地域と一緒に活動をしている	1	2	3	4	5

付問2 住んでいる地域の活動に参加したきっかけは何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 知人・友人から誘われた | 2 家族から誘われた |
| 3 職場や学校で参加することになった | 4 地域やPTAなどの役員になった |
| 5 市の広報誌を見た | 6 活動に関するチラシ、ポスターをみた |
| 7 インターネット・SNSを見た | 8 ボランティア養成講座に参加した |
| 9 その他 () | 10 特になし |

付問3 住んでいる地域の活動に参加して、良かったと感じることはありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 新たな仲間ができた | 2 社会とのつながりができた |
| 3 知識や技術が身に付いた | 4 人に喜ばれることができた |
| 5 自分の生きがいや健康管理に役立った | 6 地域に住みやすくなった |
| 7 地域に関する理解が深まった | 8 その他 () |

付問4 住んでいる地域の活動に参加して、何か負担に感じたことはありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 時間がとられる | 2 身体的な負担が大きい |
| 3 出費が多い | 4 家族の理解が得られない |
| 5 人間関係がわずらわしい | 6 新しい知識や技術を身につける機会がない |
| 7 ボランティア活動などについての情報が得にくい | |
| 8 ボランティア活動などについて相談できる機関がない | |
| 9 一緒に活動する仲間が少ない | 10 活動する場所を確保しにくい |
| 11 その他 () | 12 特になし |

【2-4で「4 関心はあるが、参加する機会がない」「5 関心がなく、誘われても参加するつもりはない」と答えた方におたずねします。】

付問5 住んでいる地域の活動に参加しない、または参加できない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 自由な時間がない | 2 家族の理解が得られない |
| 3 人間関係がわずらわしい | 4 参加申込や定期的な参加がわずらわしい |
| 5 出費が多い | 6 家の近くに活動の場所がない |
| 7 興味を持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない | |
| 8 参加したいと思う活動の情報が得られない | |
| 9 ボランティア活動などをするための知識や技術がない | |
| 10 一緒に活動する仲間が少ない | 11 体調不良や体力低下のため参加が難しい |
| 12 その他 () | 13 特になし |

【すべての方におたずねします。】

2-5 今後参加してみたいと思う活動（住んでいる地域で行われている活動）は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 地域のお祭り、ふれあい行事 | 2 高齢者のための福祉活動 |
| 3 障害のある人のための福祉活動 | 4 子育て支援のための活動 |
| 5 子どもの育成のための活動 | 6 清掃・美化や環境保全のための活動 |
| 7 防災・防犯など地域安全のための活動 | 8 まちづくりに関する活動 |
| 9 国際交流・外国人支援のための活動 | 10 スポーツ・文化・芸術振興のための活動 |
| 11 健康づくり支援のための活動 | 12 産業振興のための活動 |
| 13 その他のNPO・ボランティア活動 | 14 自治会などのその他の地域活動 |
| 15 その他 () | |

2-6 地域の自治会に加入していますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 自治会に加入している | 2 自治会はあるが、加入していない |
| 3 住んでいる所には自治会がない | |
| 4 住んでいる所に自治会があるかどうかかわからない | |

2-7 現在住んでいる地域に愛着を感じていますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 たいへん愛着を感じている | 2 まあまあ愛着を感じている |
| 3 あまり愛着を感じていない | 4 まったく愛着を感じていない |

2-8 現在住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いませんか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 現在の地域に住み続けたい | 2 できれば他の地域へ移りたい |
| 3 どちらともいえない | |
- 次のページ

付問 現在の地域に住み続けたいと思う理由は何か。お考えに近いものを3つまで選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 生まれ育った地域だから | 2 住みなれた地域だから |
| 3 家族や親戚、知人がいるから | 4 近所づきあいがしやすいから |
| 5 地域の活動や交流が活発だから | 6 地域の環境がよいから |
| 7 災害などが少なく安心して暮らせるから | 8 買い物や交通の便がよいから |
| 9 医療機関や福祉施設が整っているから | 10 その他 () |

2-9 ご自宅、学校、職場以外に、あなたには安心できる、人とのつながりを実感できる場所・活動（居場所）はありますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 ある
2 今はないが、今後ほしい
3 今はなく、今後もない → 2-10A

付問 地域での居場所はどのようなものですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 趣味などのサークル活動
2 ボランティア・社会貢献活動
3 自治会・老人クラブなどの地域活動
4 喫茶店・カフェ・居酒屋等の飲食店
5 身近なサロン・集いの場
6 公共施設（図書館、公民館など）
7 公園
8 販売店
9 その他（ ）

2-10 今後、だれもが暮らしやすい地域をめざすに、住民としてどのようなことに取り組みたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 困ったときにお互い助けあえる関係を、住民一人ひとりが隣近所で作る
2 地域で困っていることを共有し支えあうため、住民どうしが意見を申しあう場をつくる
3 新築マンションの入居者など、新たに引っ越してきた人との関係づくりを強化する
4 自治会や子ども会、老人クラブなどの活動をもっと活発にしていこう
5 学校や幼稚園、保育所、こども園などと住民の交流やつながりを深める
6 交流の機会となる地域の行事をもっと増やす
7 地域とのつながりがない人も含めて、すべての住民が安心して暮らせるまちをつくる
8 その他（ ）

3 人とのつながりについておたずねします。

3-1 人とのつきあいなどに関する①～③のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	決して ない	ほとんど ない	時々ある	常にある
①自分には人とのつきあいがいと感 じることがありますか。	1	2	3	4
②自分は取り残されていると感 じることがありますか。	1	2	3	4

	決して ない	ほとんど ない	時々ある	常にある
③自分は他の人から孤立している と感ずることがありますか。	1	2	3	4

3-2 あなたは、今回の新型コロナウイルス感染症の影響を受け、現在の暮らしについて、より重要と意識するようになったことはありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 心身の健康管理
2 家族のつながり
3 知人・友人とのつながり
4 地域・社会とのつながり
5 テレワークなどの就労環境・働き方、オンラインを活用した学習環境
6 趣味・娯楽
7 その他（ ）
8 特になし

4 生活する上での課題や福祉サービスについておたずねします。

4-1 日頃の生活でどのようなことに悩みや不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 家族の介護・世話
2 自分の子どもなどから介護・世話をうけること
3 高齢になってからのひとり暮らし
4 高齢者が地域で自立して生活すること
5 障害のある人が地域で自立して生活すること
6 福祉や介護サービスの費用負担
7 食生活に関すること
8 ことろの健康に関すること
9 からだの健康、健康診査のこと
10 休日や夜間の医療体制
11 救急医療の体制
12 かかりつけ医・歯科医・薬局がないこと
13 子育てのこと
14 子どもの教育や将来のこと
15 ひきこもりに関すること
16 消費者問題や特殊詐欺に関すること
17 地域の治安のこと
18 地震や火事など災害のこと
19 仕事がないこと、失業の不安など
20 言葉の問題、日本語が書けない、読めないこと
21 買い物に不便なこと
22 交通の便がよくないこと
23 地域との関わりが薄い・ないこと
24 その他（ ）
25 特になし

4-2 白頭の生活で自身での解決などが難しい悩みや不安を感じた場合、誰かに相談したり、助けを求めますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

1	相談する・助けを求める(相談した・助けを求めた) →4-3へ
2	相談しない・助けを求めない(相談しなかった・助けを求めなかった)

付問 相談しない・助けを求めない(相談しなかった・助けを求めなかった)理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1	どこ(誰)に相談したり、助けを求めたらよいかわからない
2	ざりざりまで自分や家族で対応したい
3	気軽に相談・助けを求める相手がいらない
4	家の中のことを他人に知られたくない
5	相談・助けを求めることが恥ずかしい
6	相談・助けを求めるのが面倒
7	相談・助けを求めても無駄だから
8	その他()

4-3 くらしや健康・福祉に関わる相談窓口(相談先)として、知っているものや、利用したことがあるものはありますか。①~⑩のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	知っている 利用したこと がある	知っているが 利用したこと はない	知らない
①市役所	1	2	3
②地域包括支援センター	1	2	3
③障害者相談支援センター	1	2	3
④子育て支援センター	1	2	3
⑤子ども家庭センター	1	2	3
⑥保健所・保健センター	1	2	3
⑦社会福祉協議会	1	2	3
⑧くらし再建パーソナルサポートセンター※1	1	2	3
⑨男女共同参画推進センターすてつぱ	1	2	3
⑩若者支援総合相談窓口※2	1	2	3

	知っている 利用したこと がある	知っているが 利用したこと はない	知らない
⑪国際交流センター	1	2	3
⑫権利擁護・後見サポートセンター※3	1	2	3
⑬保健・福祉・子育てサービス(監理して安心・困りごと相談)(健康福祉サービス苦情調整委員会※4)	1	2	3
⑭市民活動情報サロン※5	1	2	3
⑮福祉なんでも相談窓口※6	1	2	3
⑯コミュニケーションソーシャルワーカー(CSW)※7	1	2	3
⑰民生委員・児童委員、主任児童委員	1	2	3
⑱校区福祉委員会	1	2	3

4-4 健康づくりや福祉について、知りたい情報がありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1	福祉サービスの種類、内容	2	福祉サービスの利用方法
3	福祉サービスの利用に係る費用	4	福祉サービスの相談窓口
5	休育や子育てに関する情報	6	福祉ボランティアに関する情報
7	各種福祉講座や教室、講習会の開催状況	9	福祉事業所のサービス内容
8	就労に関する情報	11	からだの健康に関する情報
10	介護予防に関する情報	13	その他()
12	こころの健康に関する情報		
14	特になし →次のページの4-5へ		

次のページの付問へ

4-6 市民の権利を守るための以下の仕組みについて知っていますか。①～⑤のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	相談窓口 などを 利用した ことがある	内容を 知っている	名前は聞いた ことがあるが 内容は よく知らない	知らない
①成年後見制度 ^{**8}	1	2	3	4
②法定後見制度 ^{**9}	1	2	3	4
③任意後見制度 ^{**10}	1	2	3	4
④日常生活自立支援事業 ^{**11}	1	2	3	4
⑤市民後見人制度 ^{**12}		2	3	4

5 地域福祉を進めるための取り組みについておたずねします。

5-1 豊中市社会福祉協議会や各小学校の校区福祉委員会が行っている活動のうち、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1 ふれあいサロン・ミニデイ	2 声かけ・見守り活動
3 会食・配食サービス	4 子育てサロン・子育てサークル
5 ぐんぐん元気塾・福祉便利屋事業（住民主体ささえあい活動）	
6 当事者組織の支援（老人介護者の会・ひとり暮らし老人の会・発達障害者の家族の会など）	
7 防災に関する活動（災害時の安否確認・防災訓練）	
8 献血事業	9 共同募金運動
10 善意銀行（寄付金や物品の活用）	
11 生活福祉資金などの貸付（コロナ特別貸付）	
12 日常生活自立支援事業（金銭管理など） ^{**11}	
13 子ども食堂	14 CSW（コミュニティソーシャルワーカー） ^{**7} による相談
15 ボランティアセンター	16 広報紙の発行
17 ホームページやブログ	18 老人クラブ
19 くらし再建パーソナルサポートセンター ^{**1} による支援（生活再建・食材支援・就労支援など）	
20 ひきこもりの若者支援（豊中びーのびーの）	

次のページにつづきます。

【4-4で「1」～「13」と答えた方におたずねします。】

付問 健康づくりや福祉について、知りたい情報をどのように入手していますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

1 広報とよなか（市の広報誌）	2 市・公共機関のホームページ
3 市公式SNS（Twitter、Facebook、LINEなど）	
4 市が発行する小冊子・パンフレット	6 市・専門機関の職員などから
5 公共施設に置いてあるチラシ	8 市公式以外のSNS
7 市以外のホームページ	10 知人・友人から
9 新聞・雑誌・テレビ	
11 家族から	
12 民生委員・児童委員や校区福祉委員会、自治会など地域の人から	
13 その他（ ）	14 特になし

【すべての方におたずねします。】

4-5 市の相談支援の取り組みについてどのように感じてもらえますか。①～⑥のそれぞれの取り組みについて、お考えが近いものを1つ選んで○をつけてください。

	そう 思う	まあ そう 思う	そう あまり 思わ ない	そう 思わ ない	わ か ら な い
①どの窓口で相談しても適切な支援につないでくれる	1	2	3	4	5
②身近な地域で相談できる相談機関が充実している	1	2	3	4	5
③自宅等に支援者が訪問して支援してくれる	1	2	3	4	5
④相談開始から課題が解決するまで継続的に支援してくれる	1	2	3	4	5
⑤就労支援など社会参加に向けた支援をしてくれる	1	2	3	4	5
⑥属性や世代を超えて市民が交流できる場を整備している	1	2	3	4	5

- 21 生活支援コーディネーターによる活動（豊中あぐり・びーの×マルシェ・内職広場・福祉お針箱など）
- 22 その他（ ）
- 23 社会福祉協議会や校区福祉委員会の名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない
- 24 社会福祉協議会や校区福祉委員会の名前は活動内容も知らない

5-2 民生委員・児童委員の役割を知っていますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 よく知っている 2 ある程度知っている
- 3 あまり知らない 4 まったく知らない

5-3 災害時に自力で避難することが困難な人の安否確認や避難支援するための以下の仕組みについて知っていますか。①②のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

	内容を 知っている	名前は聞いた ことがあるが 内容は よく知らない	知らない
①防災・福祉さえあいつくり推進事業 ^{※13}	1	2	3
②災害時個別避難計画推進事業 ^{※14}	1	2	3

5-4 災害時に近隣住民同士で安否確認の声かけや、自力で避難できない人の避難所までの誘導等の活動をしたいと思えますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 はい（活動したいと思う） 2 いいえ（活動したいとは思わない）
- 3 わからない

5-5 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みである「社会を明るくする運動^{※15}」や「再犯防止啓発月間^{※16}」を聞いたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 両方とも聞いたことがある
- 2 「社会を明るくする運動^{※15}」のみ聞いたことがある
- 3 「再犯防止啓発月間^{※16}」のみ聞いたことがある
- 4 両方とも聞いたことがない
- 5 わからない

5-6 平成29年（2017年）3月に策定された豊中市の地域包括ケアシステム推進基本方針^{※17}を知っていますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 名前も内容もよく知っている
- 2 名前は聞いたことがあるが内容はよく知らない
- 3 名前も内容も知らない

5-7 現在、あなたは住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができていますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 そう思う 2 まあそう思う
- 3 あまりそう思わない 4 そう思わない 5 わからない

5-8 あなたが住み慣れた地域で自分らしく暮らすために、特に大切にしていることは何ですか。あてはまるものを5つまで選んで○をつけてください。

- 1 心身の健康 2 所得・収入（経済的状况）
- 3 就業状況（仕事の有無・安定） 4 自由な時間
- 5 家族関係 6 友人関係
- 7 職場での人間関係 8 仕事・学業などの充実度
- 9 趣味、社会貢献などの生きがい 10 地域でのつながり
- 11 精神的なゆとり 12 安全・安心（防災・防犯など）
- 13 生活の利便性（買物・移動など） 14 その他（ ）

5-9 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてのようには考えますか。お考えに近いものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 福祉を充実する責任は行政（国や府、市）にあるので、住民は特に協力することはない
- 2 行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- 3 福祉課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである
- 4 住民として福祉課題に積極的に取り組み、その活動に対して行政は援助・協力すべきである
- 5 その他（ ）
- 6 わからない

5-10 福祉の活動を人々を増やすために、地域においてどのようなことに取り組んだらよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 友人や知人、近所の人などに声をかけて、参加を呼びかける |
| 2 | チラシや機関紙、ポスターなどで、広く参加を呼びかける |
| 3 | 関わりのある団体などを通じて参加を呼びかける |
| 4 | 活動の参加につながる講座やイベントなどを開催する |
| 5 | 自治会単位での当番制にするなど、みんなが活動に参加する仕組みをつくる |
| 6 | 有償ボランティアなど、多様な参加の方法をつくる |
| 7 | 参加する人を増やすことは必要だと思うが、特に取り組みは必要はない |
| 8 | 参加する人を増やす必要はない |
| 9 | その他 () |

5-11 地域の中で、住民がお互いに助けあう仕組みをつくっていくときに、行政にはどのような役割が必要だと思いますか。お考えに近いものを3つまで選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 1 | 活動をPRするための広報活動 |
| 2 | 学校教育、生涯学習などによる助けあい意識の醸成 |
| 3 | 活動の牽引役となる地域リーダーの育成 |
| 4 | 介護やボランティアなどについて理解を深める勉強会などの開催 |
| 5 | 地域活動から収集した情報を総合的に把握し活用する場の設置 |
| 6 | 気軽に集える場の整備・支援 |
| 7 | 福祉活動を運営する資金集めの仕組みづくり |
| 8 | 福祉活動への参加等に関する相談支援・調整、活動に関する情報提供 |
| 9 | 活動する個人・団体などの連携・協働の支援など（中間支援機能）の強化 |
| 10 | その他 () |
| 11 | 行政の支援は必要でない |

5-12 身近な地域で住民が助けあうための活動に今後参加したい(やってみたい)と思いますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 | 現在も活動に参加しており、今後も参加したい |
| 2 | 現在は活動に参加していないが、今後は参加したい |
| 3 | そのような活動には関心がない(参加したくない) |
| 4 | 参加したいと思うが、事情があり参加できない |
| 5 | その他 () |

5-13 地域で暮らす人々が安心して暮らせるように、あなた自身ができそうなこと、やってみたいと思うことがありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- | | | | |
|----|-------------------------------------|----|-----------------|
| 1 | 話し相手や相談相手 | 2 | 見守り活動や安否確認の声かけ |
| 3 | 買い物や食事、掃除や洗濯などの家事手伝い | | |
| 4 | 病気の時の看病や世話 | 6 | 子どもの世話 |
| 5 | 通院などの外出介助、援助 | 8 | サロン活動などのお世話係 |
| 7 | 弁当などの配食、食事会の手伝い | 10 | 災害時の救助活動や避難の支援 |
| 9 | 地域で行う行事の準備や参加 | 12 | 寄付や募金 |
| 11 | その他のボランティア活動 | 14 | 福祉に関する講座などに参加する |
| 13 | 福祉への関心を持つ | | |
| 15 | 地域の福祉についての話しあいなどに参加する | | |
| 16 | 職業上のスキルや専門知識を活かして取り組むボランティア活動（プロボノ） | | |
| 17 | 社会課題を解決するソーシャルビジネス※10のような活動 | | |
| 18 | その他 () | | |
| 19 | 特にできることはない | | |

◆最後に、地域における福祉活動の推進や暮らしやすい地域づくりに向けにご意見、行政へのご要望などがありましたら、自由にご記入ください。

--

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに
10月12日(水)までにポストに入れてください。

豊中市地域福祉計画に係る市民意識調査
【令和4年度（2022年度）実施】
報告書

令和5年（2023年）3月

〈編集・発行〉
豊中市

事務局：豊中市 福祉部 地域共生課
〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号
電話：06-6858-2219
FAX：06-6854-4344